

令和5年度指定スーパーサイエンスハイスクール

# 研究開発実施報告書

－ 第3年次 －



令和8年3月

福井県立高志<sup>こし</sup>高等学校

福井県立高志高等学校	基礎枠
先導改革第 I 期目	05～07

① 令和 7 年度スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告（要約）

① 研究開発課題																																																																																		
未来を創造する探究力を備え科学技術イノベーションを担う人材の育成システム構築																																																																																		
② 研究開発の概要																																																																																		
<p>(1) 課題研究を充実・深化させるネットワークの拡充と研究支援システム構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学・研究機関・企業・他校等とのネットワークを拡充し、そのネットワークを用いた研究支援システムを構築する。課題研究において、各グループの研究分野・テーマ、研究の進捗状況に応じた専門的な研究支援を充実させる。</li> </ul> <p>(2) 課題解決能力を育てる探究の手法の研究および教育プログラムの発展・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第IV期に研究開発した「探究の手引き」、「研究ノート」、「課題研究チェックリスト」、「全国SSH校課題研究テーマリスト」の効果的な活用方法を研究・実践し、県内外の他校にも普及する。</li> <li>全ての教科が連携して取り組む3年間の教育プログラム「KoA-L (Koshi Academic Learning)」の取組みを継続・発展させる。</li> </ul> <p>(3) 課題解決能力の伸長度を総合的に評価する手法の効果的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本校独自の「探究活動の各フェーズにおけるルーブリック」や「高志生徒意識調査 (KSA)」の効果的な活用方法を研究開発する。</li> </ul> <p>(4) 研究開発成果の発信・普及 ～課題研究発表会や教員研修会の開催～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「福井県合同課題研究発表会」「探究活動に関する教員研修会」「高志の学びフェア」等の発信や交流をねらいとした行事を充実させ、本校SSHの研究成果を広く発信する。</li> </ul>																																																																																		
③ 令和 7 年度実施規模																																																																																		
<p>&lt;高等学校&gt; 課程（全日制）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学科</th> <th colspan="2">第 1 学年</th> <th colspan="2">第 2 学年</th> <th colspan="2">第 3 学年</th> <th colspan="2">計</th> <th rowspan="2">実施規模</th> </tr> <tr> <th>生徒数</th> <th>学級数</th> <th>生徒数</th> <th>学級数</th> <th>生徒数</th> <th>学級数</th> <th>生徒数</th> <th>学級数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>探究創造科</td> <td>241</td> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>241</td> <td>7</td> <td rowspan="4">全校生徒を対象に実施</td> </tr> <tr> <td>理数創造科</td> <td></td> <td></td> <td>139</td> <td>4</td> <td>141</td> <td>4</td> <td>280</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>人文創造科</td> <td></td> <td></td> <td>104</td> <td>3</td> <td>104</td> <td>3</td> <td>208</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>241</td> <td>7</td> <td>243</td> <td>7</td> <td>245</td> <td>7</td> <td>729</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;中学校&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">第 1 学年</th> <th colspan="2">第 2 学年</th> <th colspan="2">第 3 学年</th> <th colspan="2">計</th> <th rowspan="2">実施規模</th> </tr> <tr> <th>生徒数</th> <th>学級数</th> <th>生徒数</th> <th>学級数</th> <th>生徒数</th> <th>学級数</th> <th>生徒数</th> <th>学級数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>89</td> <td>3</td> <td>89</td> <td>3</td> <td>90</td> <td>3</td> <td>268</td> <td>9</td> <td>中学生も全員対象に実施</td> </tr> </tbody> </table>		学科	第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年		計		実施規模	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	探究創造科	241	7					241	7	全校生徒を対象に実施	理数創造科			139	4	141	4	280	8	人文創造科			104	3	104	3	208	6	計	241	7	243	7	245	7	729	21	第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年		計		実施規模	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	89	3	89	3	90	3	268	9	中学生も全員対象に実施
学科	第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年		計		実施規模																																																																									
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数																																																																										
探究創造科	241	7					241	7	全校生徒を対象に実施																																																																									
理数創造科			139	4	141	4	280	8																																																																										
人文創造科			104	3	104	3	208	6																																																																										
計	241	7	243	7	245	7	729	21																																																																										
第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年		計		実施規模																																																																										
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数																																																																											
89	3	89	3	90	3	268	9	中学生も全員対象に実施																																																																										
④ 研究開発の内容																																																																																		
○研究開発計画																																																																																		
第 1 年次 (令和 5 年度)	<p>(1) 課題研究を充実・深化させるネットワークの拡充と研究支援システム構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学・企業等との効果的な連携・支援ネットワークを拡充し、研究支援システムを構築する。</li> <li>「全国SSH校課題研究」や「学術論文」の活用を増やす取組を行う。</li> </ul> <p>(2) 課題解決能力を育てる探究の手法および教育プログラムの発展・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「探究の手引き」等の効果的な活用方法の開発・普及を行う。</li> <li>「探究活動のフェーズごとのルーブリック」や「SSH課題研究チェックリス</li> </ul>																																																																																	

	<p>ト」を探究活動で随時活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「K o A - L」の可視化および共有と、「K o A - L」を核とした授業改善に継続的に取り組む。</li> <li>・大学や研究機関・企業との連携講座として「研究機関等研修」、「若狭湾エネルギー研究センター研修」等の校外研修を実施する。</li> <li>・交流提携を結んでいる米国ニュージャージー州のニュープロビデンス高校、シンガポール国立大学附属数理学校と交流を行う。</li> <li>・科学に関する英語力を高める校内研修として「英語プレゼンテーション研修」、「サイエンスダイアログ」を実施する。</li> <li>・「SSH講演会」を中学校・高等学校の全校生徒を対象に実施する。また、講演会後に研究職を目指す女子生徒を対象にした座談会を行う。</li> <li>・本校以外の教員も対象に含めた探究型学習に関する教員研修会を実施する。</li> </ul> <p><b>(3) 課題解決能力の伸長度を総合的に評価する手法の効果的な活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「探究活動の各フェーズにおけるループバック」を観点別評価に活用する。</li> <li>・生徒の課題解決能力に関連する自己評価の伸長を測る本校独自の「高志生徒意識調査」(K S A)を実施する。また、その結果から課題解決力等、SSHの取組の成果を分析する。</li> <li>・課題解決能力等を評価する外部テスト「GPS - Academic (以下GPS)」を1・2年生対象に実施し、その結果から課題解決力等、SSHの取組の成果を分析する。</li> <li>・生徒の自己評価能力を向上させるため、探究活動を行うK o Aの授業において、「批判的思考力」「協働的思考力」「創造的思考力」の3観点で振り返りを行う時間を毎回設ける。</li> </ul> <p><b>(4) 研究開発成果の発信・普及 ～課題研究発表会や教員研修会の開催～</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「福井県合同課題研究発表会」を主催し、本校の取組の成果普及と校種を越えた研究交流を図る。</li> <li>・「福井県合同課題研究発表会」の同日に教員研修会を開催するほか、県内中高教員を対象にした「探究ワークショップ」を実施し、本校の取組の成果を発信する。</li> <li>・県内中学生を対象に「高志の学びフェア ～きて、みて、探究。～」を開催し、本校SSHの研究成果の普及を図る。</li> </ul>
<p>第2年次 (令和 6年度)</p>	<p>第1年次の実践を改善・継続しながら、以下の取組を行う。</p> <p><b>(1) 課題研究を充実・深化させるネットワークの拡充と研究支援システム構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1年次に構築した研究支援ネットワークシステムの活用事例を増やす。</li> <li>・すべてのグループに校外発表の機会を与え、全生徒の主体性や積極性を高め、課題研究の充実・深化を目指す。</li> <li>・管理機関に配置される「SSHコーディネーター」と連携・協働し、本校の取組を充実させるとともに、本校の研究開発を他校へ発信・普及する。</li> </ul> <p><b>(2) 課題解決能力を育てる探究の手法および教育プログラムの発展・普及</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「K o A - L MAP」の修正を随時行いながら、各教科での授業改善に活用し、探究的な学びを推進していく。</li> <li>・SSHコーディネーターと連携・協働し、本校以外の教員も対象に含めた探究型学習に関する教員研修会を発展させていく。</li> <li>・各種研究機関研修、大学との連携講座を改善しながら継続して取り組む。</li> </ul> <p><b>(3) 課題解決能力の伸長度を総合的に評価する手法の効果的な活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「K S A」、「GPS」による結果をもとに、SSHの取組内容の改善等と生徒の課題解決能力の育成への成果を検証する。</li> </ul> <p><b>(4) 研究開発成果の発信・普及 ～課題研究発表会や研究協議会の開催～</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「福井県合同課題研究発表会」、「教員研修会」をSSHコーディネーターと連携・協働しながら発展させていく。</li> <li>・SSHで研究開発した使用教材等を他校が活用しやすくなるよう、学校HPでの掲載方法を改善する。</li> </ul>

第3年次 (令和 7年度)	<p>第2年次の実践を改善・継続しながら、先導改革Ⅱ期の取組も念頭に置いて以下の取組を行う。</p> <p><b>(1) 課題研究を充実・深化させるネットワークの拡充と研究支援システム構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究支援ネットワークシステムの活用事例を増やす。</li> <li>・すべてのグループに校外発表の機会を与え、全生徒の主体性や積極性を高め、課題研究の充実・深化を目指す。</li> </ul> <p><b>(2) 課題解決能力を育てる探究の手法および教育プログラムの発展・普及</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「K o A - L MAP」の修正を随時行いながら、各教科での授業改善に活用し、探究的な学びを推進していく。</li> <li>・探究型学習に関する教員研修会では、本校の課題研究の取組を発信する。</li> <li>・各種研究機関研修、大学との連携講座を改善しながら継続して取り組む。</li> </ul> <p><b>(3) 課題解決能力の伸長度を総合的に評価する手法の効果的な活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「K S A」, 「G P S」による結果をもとに、S S Hの取組内容の改善等と生徒の課題解決能力の育成への成果を検証する。</li> </ul> <p><b>(4) 研究開発成果の発信・普及 ～課題研究発表会や研究協議会の開催～</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国S S H情報交換会にて、研究開発の概要「課題研究を充実・深化させる研究支援システムの構築について」の取組を動画で配信する。</li> <li>・「福井県合同課題研究発表会」, 「教員研修会」を発展させていく。</li> <li>・S S Hコーディネーターと連携・協働し、他校とオンラインにて学校間探究情報交換会実施する。本校の取組を充実させるとともに、本校の取組を他校へ発信・普及する。</li> </ul>
---------------------	---

### ○教育課程上の特例

学科・コース	開設する 教科・科目等		代替される 教科・科目等		対 象
	教科・科目名	単位数	教科・科目名	単位数	
理数創造科 人文創造科	サイエンスフロンティア K o A - I	2	総合的な探究の時間※ <sup>1</sup> 情報・情報 I ※ <sup>2</sup>	1 (1)	第1学年
	外国語 英語活用 B E (高入生)	2	外国語 ディベート・ディスカッション I	2	
	外国語 英語活用 P T (内進生)				
	サイエンスフロンティア K o A - II	2	総合的な探究の時間※ <sup>1</sup> 情報・情報 I ※ <sup>2</sup>	1 (1)	第2学年
サイエンスフロンティア K o A - III	1	総合的な探究の時間※ <sup>1</sup>	1	第3学年	

※1 理数創造科は、「総合的な探究の時間」(3単位)を「理数探究基礎」「理数探究」で代替し、それらをそれぞれ学校設定科目「K o A - I」(2単位), 「K o A - II/III」(計3単位)で代替する。

人文創造科は、「総合的な探究の時間」(3単位)を、1学年次で「理数探究基礎」(1単位)に代替し、それを学校設定科目「K o A - I」(2単位)で、更に2・3学年次は学校設定科目「K o A - II/III」(計3単位)で代替する。

※2 「情報 I」(1単位分)を、「K o A - I/II」(計4単位)で代替する。

### ○具体的な研究事項・活動内容

#### (1) 課題研究を充実・深化させるネットワークの拡充と研究支援システム構築

- ・「K o A - II・III」において、S S Hコラボプロジェクト委員に加え、研究内容と専門分野がよりマッチした研究者に、生徒が自ら、必要な時期に随時、研究支援の依頼を行った。この研究支援システムは先導改革Ⅰ期からの取組で、活用の定着を図った。

- ・高校課題研究や中学校職場体験等で連携した研究機関・企業等のリストを、生徒がQRコードから閲覧し活用した。第1年次に作成した連携マニュアルを活用し、リストにない新たな研究機関や企業等にも、生徒自らが積極的に支援を依頼した。外部機関との連携の際には、課題研究担当教員や研究支援部担当がサポートに当たる体制が定着した。
- ・令和6年度から福井県に配置されたSSHコーディネーターが中心となって、県内SSH校で課題研究テーマ一覧を共有した。研究内容の似ている他校グループとのオンラインによる学校間探究情報交換会を開催するにあたり、情報交換を進めやすくなった。
- ・全国SSH校の課題研究論文集に記載されている課題研究テーマリストを第IV期に作成した。先行研究調べの際に、「課題研究ノート」に掲載したQRコードから検索した後、本校図書館にて閲覧できるシステムが完成している。今年度もこの「全国SSH校課題研究リスト」を更新し、現在14,600件以上の先行研究を検索・閲覧できるようになった。
- ・第1学年次の「K o A - I」において、「全国SSH校課題研究リスト」の活用方法や「学術論文」の検索方法を学び、その活用を積極的に促した。
- ・本校以外で開催される課題研究発表会の一覧表を生徒に配付し、積極的な参加を促した。

## (2) 課題解決能力を育てる探究の手法および教育プログラムの発展・普及

- ・「K o A - I」において、科学的な手法で探究するための基礎となる知識・技能を身に付ける「基礎講座」、「データサイエンス講座」を4月～7月に実施した。9月から予備的研究に取り組んだ後、1月から課題研究に取り組み、中間発表を行った。SSHコラボプロジェクト委員による講義・指導等も取り入れ、科学的手法で探究する力を育成した。
- ・課題研究での活用を目的とした統計学研修講座を本校で実施した。また、希望する他校へもオンラインで配信して普及を図った。
- ・「探究の手引き」、「課題研究ノート」にアンケート調査の方法を追加するなど、改善を図った。
- ・第1学年を対象に、「課題研究ノート」を活用して探究の進め方等を学ぶ基礎講座を行った。
- ・「探究活動のフェーズごとのルーブリック」や「SSH課題研究チェックリスト」を、随時活用しながら研究活動に取り組みさせた。
- ・「K o A - L MaP」を修正し、「K o A - L」の可視化および共有を図った。また、各教科の探究学習推進リーダーを中心に、「探究的な学び」や「創造的な視点」での授業改善に活用した。
- ・「研究機関等研修（名古屋大学理学部、自然科学研究機構核融合科学研究所等）」、「若狭湾エネルギー研究センター研修」、「化学系企業（日華化学株式会社）研修」等の校外研修を実施した。
- ・SSH講演会として、中学・高校全生徒を対象に、理化学研究所生命システム研究センター チームリーダー 渡邊朋信 氏を講師に迎え、講演会を実施した。
- ・課題研究の成果を発表する「課題研究発表会（2年生）」、「生徒研究活動発表会（3年生）」を実施した。
- ・交流提携を結んでいる米国ニュージャージー州のニュープロビデンス高校、シンガポール国立大学附属数理学校との現地交流を行った。
- ・研究者による英語での科学レクチャーを行う「SSHサイエンスダイアログ」やALTを講師に招いて科学に関するトピックを扱う「SSH英語コミュニケーション研修」を1・2年希望者対象に実施した。
- ・「福井県合同課題研究発表会」の同日に県内外の教員を対象とした研修会を開催したほか、県内中高の教員対象の「探究ワークショップ」を実施した。県内外の教員と探究に関する研修を行うとともに、本校の取組の成果を発信した。

## (3) 課題解決能力の伸長度を総合的に評価する手法の効果的な活用

- ・「探究活動の各フェーズにおけるルーブリック」を観点別評価に活用した。
- ・生徒の自己評価能力を向上させるため、探究活動を行うK o Aの授業において、「批判的思考力」「協働的思考力」「創造的思考力」の3観点で振り返りを行う時間を毎回設けた。

- ・生徒の課題解決能力に関連する自己評価の伸長を測る「高志生徒意識調査」(KSA)を実施した。また、その結果から課題解決力等、SSHの取組の成果を分析した。
- ・課題解決能力等を評価する外部テスト「GPS-Academic」(GPS)を1・2年生対象に実施し、その結果から課題解決力等、SSHの取組の成果を分析した。

#### (4) 研究開発成果の発信・普及 ～課題研究発表会や研究協議会の開催～

- ・「福井県合同課題研究発表会」を主催し、本校の取組の成果を普及するとともに、校種を越えた研究交流を図った。
- ・県内中学生を対象に「高志の学びフェア ～きて、みて、探究。～」を開催し、本校SSHの研究成果の普及を図った。

#### ⑤ 研究開発の成果

(根拠となるデータ等は「③関係資料」に掲載。)

本県唯一の公立併設型中高一貫教育校として、中学生、内進生、高入生という異なる集団が同じ空間で学ぶ本校の特徴を生かし、多様な視点や発想を交流し、互いに深く学び合う空間「Koshi Global Academy Campus (Koshi GAC: Koshi 学区)」を創生してきた。課題研究のみならず、すべての教科科目で「探求的な学び」や「創造的な視点」を取り入れた学習を推進し、多様な能力を持った生徒が他者と協働しながら、伸び伸びと課題解決に向けて取り組める環境が作られていく中で、国際科学技術コンテスト全国大会等での活躍や学校推薦型選抜・総合型選抜入試による難関大学への進学増加も見られるようになった。また、課題研究において、企業・公共団体等と連携して商品やサービス等を開発するなど、生徒のアクションが具体的に見える形で実現するケースが増えてきた。

先導Ⅰ期の研究開発では「未来を創造する探究力」の育成を課題に掲げた。これまで以上に、多様な考えを持った他者や専門的知識を持った研究者と積極的に関わりコラボレーションしながら、異なる視点やスキルを活かして課題に取り組んだり、突出した能力を持った生徒がその能力を存分に発揮したりできるよう、内進生と高入生が協働し切磋琢磨できる環境作りや研究支援システム構築に取り組んでいる。異なる立場からの批判的議論を積み重ねて研究を深化させるために必要な3つの力「批判的思考力」「協働的思考力」「創造的思考力」は、変化の激しいこれからの未来社会において、多様な意見を取り入れながらチームで問題を発見したり、独創的な問題解決策を生み出したりしていくために、特に必要となる力と捉えている。そのため、第Ⅳ期から引き続いて、これら3つの力の伸長について、検証を継続していく。

#### (1) 課題研究を充実・深化させるネットワークの拡充と研究支援システム構築

##### ①取組の内容

##### ア 生徒自らが積極的に活用できる研究支援システムの構築

先導Ⅰ期から、各グループの研究分野・テーマ、研究の進捗状況に応じた連携・支援の充実を図るため、以下の研究開発・実践を行ってきた。

- ・専門分野がよりマッチした研究者に、生徒自らが必要な時期に随時、研究支援の依頼を行った。研究支援を依頼する際には、「研究支援依頼書」を活用した【③-6参照】。
- ・高校課題研究や中学校職場体験等で、これまでに連携した研究機関・企業等のリストを作成し、QRコードから共有ドライブにて生徒が閲覧できるようにした。リストにない新たな研究機関や企業等にも、生徒自らが積極的に支援を受けられるよう連携マニュアルを作成した。外部機関との連携の際には、課題研究担当教員や研究支援部担当教員がサポートに当たる体制を整えた。

##### イ 全国SSH校課題研究や学術論文の活用

全国SSH校の課題研究論文集に記載されている課題研究テーマリストを第Ⅳ期に作成した【③-8参照】。先行研究調べの際に、「課題研究ノート」に掲載したQRコードから検索した後、本校図書館にて閲覧できるシステムが完成している。今年度もリストを更新し、現在14,600件以上の先行研究を検索・閲覧できるようになった。また、第1学年次の「KOA-I」での基礎講座において、「本校先輩の研究論文」、「全国SSH校課題研究」、「学術論文」の検索・閲覧方法を学び、その活用を積極的に促した。

## ウ 本校以外で開催される課題研究発表会への参加の促進

開催予定の課題研究発表会一覧表を生徒に配付し、発表会への積極的な参加を促した。

### ②検証方法

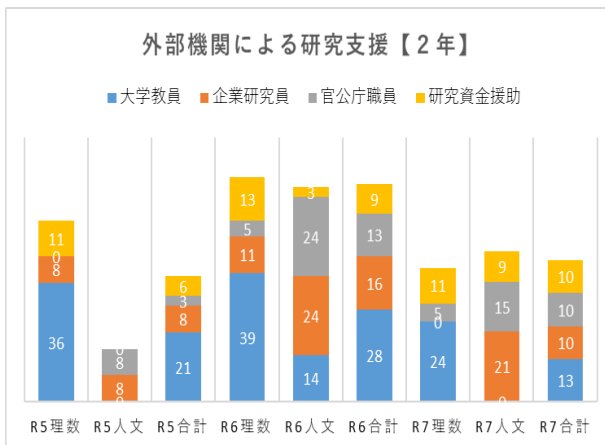
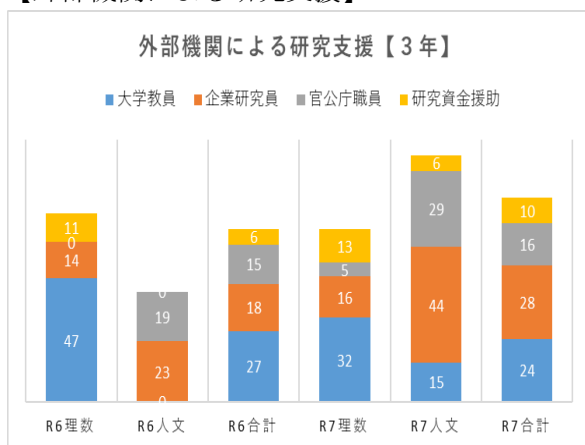
研究支援システム構築について成果を確認するため、課題研究に取り組むにあたり外部機関による研究支援システムや全国SSH校課題研究や学術論文の活用状況、本校以外での発表会への参加について、第2学年および第3学年の研究グループを対象に調査を行った。

### ③検証結果

#### ア 個々の研究グループの要望に応じた研究支援システムの活用が定着した。

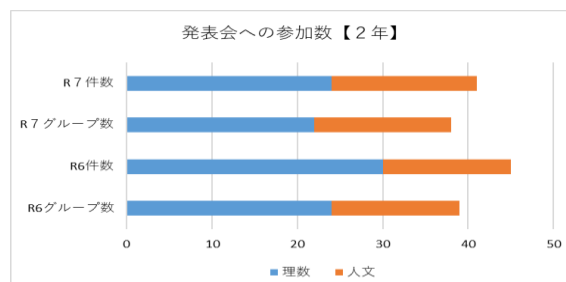
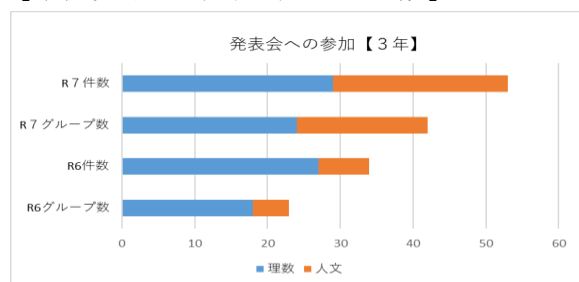
研究支援システムを活用した外部機関による研究支援を依頼、同窓会や福井県等による研究活動費用の助成が定着した。第2学年での研究活動は第3学年にも継続していくことから、研究支援の依頼増加が今後見込まれる。

#### 【外部機関による研究支援】



- ・令和6, 7年度 第3学年 (11月研究論文提出時の調査より) 数値は依頼件数をグループ数で割った(%)
- ・令和5年から7年度 第2学年 (12月調査より) 数値は依頼件数をグループ数で割った(%)

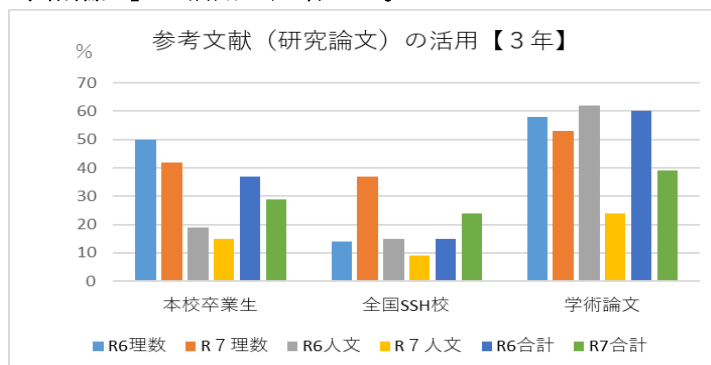
#### 【本校以外での発表会への参加数】



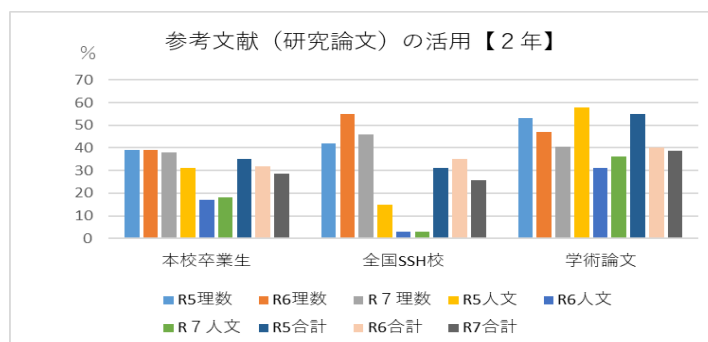
- ・令和6, 7年度 第3学年 (11月研究論文提出時の調査より) (複数回答)
- ・令和6, 7年度 第2学年 (12月調査より) (複数回答)

#### イ 「全国SSH校課題研究」や「学術論文」の活用が定着した。

第1学年次の「K o A - I」において、「全国SSH校課題研究リスト」の活用方法や「学術論文」の検索方法を学び、その活用を積極的に促した。この取組により、「本校先輩の研究論文」、「全国SSH校課題研究」、「学術論文」の活用の定着が確認できた。



- ・令和6, 7年度 第3学年 (11月研究論文提出時の調査より) 数値は課題研究論文における参考文献の件数をグループ数で割った(%) (複数回答)



令和5年～7年度 第2学年（12月調査より）数値は課題研究論文における参考文献の件数をグループ数で割った（%）（複数回答）

## （2）課題解決能力を育てる探究の手法の研究および教育プログラムの発展・普及

### ①取組の内容

#### ア 課題解決能力を育てる探究の手法の研究

- ・「K o A - I」において、自ら課題を発見し、試行錯誤と振り返りおよび改善を行いながら、必要なデータを収集、整理、分析する等のデータ活用能力を育成し、科学的な手法で探究するための基礎となる知識・技能を身に付ける「基礎講座」、「データサイエンス講座」を4～7月に実施した。9月から予備的研究に取り組み、1月からグループで課題研究に取り組み、中間発表会（テーマ報告会）を行った。SSHコラボプロジェクト委員による講義・指導等も取り入れ、科学的な手法で探究する力を育成した。
- ・「SSH課題研究チェックリスト」を、先行研究調べ、仮説立案、論文作成等、それぞれの場面でポイントをチェックしながら活動させた【③-3参照】。
- ・課題研究に取り組む「K o A - I・Ⅱ・Ⅲ」の授業で活用する「探究の手引き（教員用）」、「課題研究ノート（生徒用）」に著作権に関する注意を追加するなど、改善を図った。
- ・「探究の手引き」、「課題研究ノート」に掲載したQRコードから、発表要旨や研究論文の雛形にアクセスすることで、記載すべき項目や体裁の共有化を図った。
- ・「福井県合同課題研究発表会」の同日に開催する予定の教員研修会を含め、他校の教員も含めた探究型学習に関する研修会を実施した。

#### イ 課題解決能力を育てる教育プログラム

- ・教育課程に位置づけられた各教科の授業、「課題研究」、「校外研修」に加え、教育課程外の各種研修を有機的に関連付けた教育プログラム「K o A - L (Koshi Academic Learning)」で、各教科・科目連携のもと、教育活動全体で課題解決能力の育成を図った。
- ・「課題研究」への興味・関心、先端研究への憧れと理解を深めることを目的として、「研究機関等研修」、「若狭湾エネルギー研究センター研修」等の校外研修を実施した。
- ・SSH講演会として、中学・高校全生徒を対象に、本校卒業生女性研究員や、女性大学教授、理化学研究所の研究員を講師に迎え、講演会を実施した。
- ・交流提携を結んでいる米国ニュージャージー州のニュープロビデンス高校、シンガポール国立大学附属数理学校との現地交流を継続実施した。
- ・実践的英語活用能力の育成等を目的として、「外国人研究者による科学レクチャー」、「SSH英語コミュニケーション研修」を1・2年生希望者対象に実施した。
- ・サイエンス部で、未来協働プラットフォームふくい推進事業等の福井大学の支援を受け、中高大が連携して行う実験研修を開催した。
- ・シンポジウムでの発表、各種コンテストへの参加等、教育課程外の活動を奨励した。
- ・令和5年度から継続して中学2年生の希望者が京都府立洛北高等学校附属中学校を訪問し、高志・洛北生の混合グループで数学の課題に取り組む学習会を開催した。

### ②検証方法

- ・各種コンテストの結果、学校推薦型選抜入試および総合型選抜入試の合否状況、課題研究の生徒の取組の実績等を材料として、成果を分析した。

### ③検証結果

#### ア 各種コンテストの結果

理数系コンテスト等における成績が年々向上している。「科学の甲子園全国大会」「化学グランプリ本選」,「日本数学オリンピック本選」等に出場した。また、伝える力や論理的な思考力を競う「プレゼン甲子園全国大会」や、グローバルな社会課題の解決方法や提案等を英語で発表する「全国高校生フォーラム」等、全国大会での活躍が見られた。

#### 「ふくい理数グランプリ高校生部門（科学の甲子園全国大会 福井県予選）」

令和7年度 総合成績1位（第15回科学の甲子園全国大会出場）  
数学最優秀賞, 生物最優秀賞, 地学最優秀賞, 優秀賞2, 奨励賞3  
数学個人最優秀賞, 数学個人優秀賞

令和6年度 化学最優秀賞, 優秀賞4, 奨励賞2

令和5年度 数学最優秀賞, 数学個人最優秀賞, 優秀賞4, 奨励賞2

#### 「科学の甲子園ジュニア全国大会（中学生部門）」

令和7年度全国大会出場 令和6年度全国大会出場 令和5年度全国大会出場

#### 「国際科学技術コンテスト本選（全国大会）」

令和7年度 化学グランプリ銅賞、支部長賞 日本数学オリンピック本選出場  
日本女子数学オリンピック本選出場 日本情報オリンピック 敢闘賞  
日本学生科学賞 出場（福井県代表）

令和6年度 日本数学オリンピック本選出場 日本ジュニア数学オリンピック本選出場

令和5年度 日本数学オリンピック本選出場

日本情報オリンピック本選出場（2名）

本選優秀賞（国際情報オリンピック日本代表選手最終選考会出場）

「宇宙甲子園缶サット部門」令和6年度 全国大会ベストプレゼンテーション賞

「プレゼン甲子園全国大会」令和7年度 優秀賞 令和6年度 優秀賞

「全国高校生フォーラム」令和7年度 奨励賞 令和6年度 奨励賞

#### イ 理系生徒の学校推薦型選抜・総合型選抜入試による難関大学・医学科の合格数

令和8年度 東北大1, 名古屋大1, 自治医科大1, 福井大（医）1

令和7年度 東京大1, 大阪大（医）1, 福井大（医）1

令和6年度 名古屋大1, 金沢大（医）2, 福井大（医）1

#### ウ 課題研究での生徒の取組の実績

課題研究支援システムの運用が定着し、1年次の「基礎講座」や「予備的研究」から始まる3年間の計画的な課題研究活動の取組の流れが完成したことで、運営指導委員からも全体的な研究の質の向上が見られると評価を受けている【⑨-11 参照】。企業等と連携して商品やサービス等を開発するなど、生徒のアクションが具体的に見える形で実現するケースも増えてきている。

##### ○古紙を再利用した断熱材（令和7年度）

ふくいGirls 未来のテックリーダープロジェクトに参加し、研究活動の資金援助を受け、県内企業の協力を得て研究を深めた。本校を代表してSSH生徒研究発表会で発表した。

##### ○衣料品製造会社の残布活用（令和7年度）

南越前町の企業で廃棄される残布を学校祭の衣装や装飾に生かした実践例を地方創生☆政策アイデアコンテスト2025に応募し、近畿経済産業局長賞に選ばれた。

##### ○低レイノルズ数領域向け風洞の製作・評価と流れの可視化（令和6年度）

北海道の金属加工企業に研究支援を依頼して協力を得て、県内外の高校生と情報交換を行ったりしながら研究を深めた。本校を代表してSSH生徒研究発表会で発表した。

##### ○レゴブロックを活用した児童の深い学び（令和6・7年度）

敦賀市で開催された「若者ショッピングプランコンテスト」で優勝。開業資金の支給を受け「ブロックカフェ」を開き、レゴブロックで小学生に分数を教える等の活動を行った。

##### ○高校生の学習におけるローカルネットワークとデータの活用（令和5年度）

生徒たちが質問し合い、教え合うのに用いる学習アプリを作成した。他校の生徒にも利用してもらいたいと考えた当該生徒は、福井県産業支援センターからの助成を受け、株式会社を設立した。SSH生徒研究発表会で奨励賞、生徒投票賞受賞。

## ○「お米のしずく」商品開発・販売（令和5・6年度）

県内産米の消費を促す方策について課題研究を行い、JA福井および県内飲料メーカーと提携し、焙煎した米と水からつくる飲料を開発した。「お米のしずく」と名付けられた商品は、県内各店舗での販売に加え全国ネット販売も行われている。

### (3) 課題解決能力の伸長度を総合的に評価する手法の効果的な活用

#### ①取組の内容

##### ア 「KSA」, 「GPS-Academic（以下GPS）」による研究開発の成果分析

- ・研究開発によって新たに導入した取組の効果を検証するため、課題解決能力の伸長度について、「KSA」における肯定的自己評価、「GPS」による客観評価の結果を分析した。

##### イ 「探究活動の各フェーズにおけるルーブリック」を活用した観点別評価

- ・課題研究における観点別評価の導入は、身に付けるべき資質・能力について、生徒と支援する教員がより一層共通認識を持つ上で、絶好の機会である。担当教員が生徒の成長を楽しみながら、生徒が失敗しても励まし支援し、失敗を恐れず積極的に挑戦できる環境を整えることを目指した。「KOA-I・II・III」での課題研究の取組について、「探究活動のフェーズごとのルーブリック」を活用した観点別評価を行った【③-9参照】。

##### ウ 生徒の自己評価能力を向上させる取組

- ・「探究活動のフェーズごとのルーブリック」を、各フェーズにおける自らの研究への取組の自己評価に随時活用させた【③-2参照】。

#### ②評価方法

「KSA」における肯定的自己評価、「GPS」による客観評価の結果を分析し、取組の成果を検証した。また、「課題研究ノート」から研究活動の取組状況を分析した。

#### ③分析・開発結果

##### ア KSAにおける自己評価より

3年生のKSAの全項目について、1年生からの伸長を検証した。また、3年生に加えて2年生の各項目について、伸長の時期を調べた【③-7参照】。

- ・令和7年度3年生は1年次より先導I期のプログラムで活動している。批判的思考力、創造的思考力、協働的思考力のすべての項目で伸長した。
- ・3年生と2年生のいずれも、内進生は1年次の2回目、高入生は2年次の「選択型研修旅行※」の前後で、多くの項目において伸長が際立っている。

※ 選択型研修旅行

2年生全員が下記コースから選択し、研修旅行を10月に実施。SSH事業として実施する2コースを含め、参加希望の多いコースは選抜により参加者を決定している。

理数創造科・・・SSH米国（東海岸）、SSHシンガポール、オーストラリア、香港、東北、九州  
人文創造科・・・米国（西海岸）、シンガポール、オーストラリア、タイ、東北、九州

##### イ 「GPS」による客観評価より

次の3観点を選択式問題および記述式問題の結果から評価を行った。

- ① 批判的思考力（情報を吟味する、論理的に組み立てて表現する）
- ② 協働的思考力（他者との共通点・違いを理解する、社会に参画し人と関わりあう）
- ③ 創造的思考力（情報を関連付ける・類推する、問題をみいだし解決策を生み出す）

- ・2年生の調査結果から、①～③のすべての思考力で1年次からの伸長が確認できた。1年生は過年度生と比較して「批判的思考力」「協働的思考力」が上位レベルに分布している【②-IV-1参照】。

##### ウ 観点別評価の導入による生徒の変容

- ・生徒と担当教員が「ルーブリック」や「チェックリスト」を一緒に点検し、研究の進捗状況を確認する場面が多くなった。また、「課題研究ノート」への研究方法、研究結果、考察等の記載内容の充実度が、観点別評価の導入前の過年度生と比較して格段に向上した。

### (4) 研究開発成果の発信・普及 ～課題研究発表会や教員研修会の開催～

#### ①成果発信の方法

##### ア 探究型学習会の開催

- ・「福井県合同課題研究発表会」の同日に教員研修会を開催し、「外部発表会参加における生

徒の変容」をテーマに研修を行う（3月14日実施予定）。また、県内中高の教員対象の「探究ワークショップ」を令和5年度から計5回実施した。のべ54校93名の教員が参加しており、本校の取組の成果を発信するとともに、様々な校種による教員間での意見交換を行うことで、各学校での探究学習推進への契機となっている。

#### イ 「福井県合同課題研究発表会」の開催

- ・発表会を主催し、本校の取組の成果を発信するとともに、校種を越えた研究交流を図る。県内外から参加を募り、令和5年度の発表校は14校、口頭発表 66件、ポスター発表 73件、令和6年度は19校、口頭発表 66件、ポスター発表 95件、令和7年度は18校、口頭発表 66件、ポスター発表 88件と、成果発信の場としての役割を果たしている。

#### ウ 「高志の学びフェア ～きて、みて、探究。～」の開催

- ・県内中学生を対象に「高志の学びフェア ～きて、みて、探究。～」を開催し、本校SSHの研究成果の普及を図った。

#### エ ホームページや「SSHだより」、学校訪問の受け入れによる成果の発信

- ・福井県内唯一の公立併設型中高一貫教育校として、様々な機会・媒体を通して、本校SSHの研究成果等をより広く発信した。
- ・SSH先進校として、県外の高等学校から多数の学校訪問を受け入れた。

### ⑥ 研究開発の課題

（根拠となるデータ等は「⑤関係資料」に掲載。）

#### （1）課題研究を充実・深化させるネットワークの拡充と研究支援システム構築

##### ①課題とされること

- ・開発した支援システムのさらなる活用を推進するには、外部支援機関の拡充と研究支援に充てる予算面での工夫が必要である。

##### ②その課題にどのように取り組んでいくか

- ・同窓会や官公庁による研究資金援助を積極的に活用するとともに、資金面における外部機関との連携についても更なる推進を図りながら、質の高い多様な課題研究の取組事例を増やす。

#### （2）課題解決能力を育てる探究の手法および教育プログラムの発展・普及

##### ①課題とされること

- ・「K o A - L M A P」の修正を随時行いながら、各教科で「探究的な学び」や「創造的な視点」に立った授業改善を行ってきた。教員アンケートの結果からも、探究型学習の定着が確認できる。取組を他校に広げていくことが求められている。

##### ②その課題にどのように取り組んでいくか

- ・探究学習支援に係る本校主催の教員研修会等の継続や、これまで研究開発した教材や各教科での取組を整理して、他校の教員も活用できるようにする。

#### （3）課題解決能力の伸長度を総合的に評価する手法の効果的な活用

##### ①課題とされること

- ・本校で研究開発した「K S A」の調査結果によって、先導I期で新たに開発したものを含め、様々なSSHの取組を評価している。評価の方法について、さらに研究を深めたい。

##### ②その課題にどのように取り組んでいくか

- ・「K S A」には67の調査項目がある。それらの調査結果を最大限活用して、分かりやすく分析する方法を研究する。調査結果を他校にも示したり、研修会等で使用方法を説明したりすることで他校への普及も図っていく。

#### （4）研究開発成果の発信・普及 ～課題研究発表会や教員研修会の開催～

##### ①課題とされること

- ・先導的改革型のSSH校として、研究開発の取組を県内外に発信することが求められている。

##### ②今後の方向性

- ・SSHコーディネーターと協働し、他校との連携をさらに深め、本校および連携校の探究活動の充実と研究開発の発信・普及を強化する。
- ・「福井県合同課題研究発表会」や県内外の教員を対象にした「課題研究教員研修会」を外部機関やSSHコーディネーター等と連携・協働しながら発展させていく。

## ②令和7年度スーパーサイエンスハイスクール実施報告書

### 先導改革 I 期の取組の概要

#### 研究開発 I：課題研究を充実・深化させるネットワークの拡充と研究支援システム構築

##### 【仮説 1】

大学・研究機関・企業・他校等とのネットワークを拡充し、そのネットワークを用いた研究支援システムを構築することにより、課題研究において、各グループの研究分野・テーマ、研究の進捗状況に応じ、専門的な研究支援を充実させることができる。

##### 【実践】

- 生徒自らが積極的に活用できる研究支援システムの構築
  - ・専門分野がよりマッチした研究者に、生徒自らが必要な時期に随時、研究支援の依頼を行った。研究支援を依頼する際には、「研究支援依頼書」を活用した。
  - ・高校課題研究や中学校職場体験等で、これまでに連携した研究機関・企業等のリストを作成し、QRコードから共有ドライブにて生徒が閲覧できるようにした。リストにない新たな研究機関や企業等にも、生徒自らが積極的に支援を受けられるよう連携マニュアルを作成した。
  - ・外部機関との連携の際には、課題研究担当教員や研究支援部担当教員がサポートに当たる体制を整えた。
- 全国SSH校課題研究や学術論文の活用
  - ・全国SSH校の課題研究論文集に記載されている課題研究テーマリストを更新し、現在14,600件以上の先行研究を検索・閲覧できるようになった。
  - ・また、第1学年次の「K o A - I」での基礎講座において、「本校先輩の研究論文」、「全国SSH校課題研究」、「学術論文」の検索・閲覧方法を学び、その活用を積極的に促した。
- 本校以外で開催される課題研究発表会への参加の促進  
開催予定の課題研究発表会一覧表を生徒に配付し、発表会への積極的な参加を促した。

##### 【評価】

研究支援システム構築について成果を確認するため、課題研究の取り組みにあたり外部機関による研究支援システムや全国SSH校課題研究や学術論文の活用状況、本校以外での発表会への参加について、第2学年および第3学年の研究グループを対象に調査を行った。

- ・外部支援の割合が上昇している。理数系では「大学教員による支援」が柱となっており、専門性の高い指導を受けている傾向が続いている。また、「研究資金援助」を受けるグループの割合が維持されている。
- ・発表会への参加数では、両学年・両年度を通じて発表会の参加数は安定しており、探究活動の柱となっていることがわかる。また、3年生は最終的な研究成果を発信するために、複数の発表会を掛け持ちするなど「量・質ともに拡大」するフェーズにある。
- ・理数系では学術論文を引用する割合が多い。個別にみると本校卒業生の先行研究を引継ぎ課題研究に取り組む班も見られる。

#### 研究開発 II：課題解決能力を育てる探究の手法の研究および教育プログラムの発展・普及

##### 【仮説 2】

- ・本校が独自に開発・作成した「探究の手引き」、「研究ノート」、「課題研究チェックリスト」、「全国SSH校課題研究テーマリスト」を効果的に活用することで、生徒が主体的に納得いくまで課題研究に取り組むことができ、課題解決能力を育成できる。また、これらの研究開発を県内外に発信することで、県内外の課題研究の深化に貢献できる。
- ・全ての教科が連携して取り組む3年間の教育プログラム「K o A - L (Koshi Academic Learning)」の取組みを継続・発展させることで、課題解決能力を育成できる。

【実践】

○課題解決能力を育てる探究の手法の研究

「K o A - I」では、4～7月の講座でデータ活用や科学的手法の基礎を習得し、9月からの予備的研究を経て、1月からグループでの課題研究と中間発表を実施した。外部委員の指導や「チェックリスト」の活用により探究力を育成したほか、「探究の手引き」、「課題研究ノート」の改善やICT活用による書式の共有化、他校を交えた教員研修会の開催など、指導体制の充実と平準化を図った。

○課題解決能力を育てる教育プログラム

教育プログラム「K o A - L」のもと、各教科と校内外の活動を有機的に連携させ、全校体制で課題解決能力の育成を図った。校外での専門的な研究研修や著名な研究者による講演会、海外校との継続的な交流に加え、英語による科学レクチャーや他校との合同学習会を実施した。これにより、生徒の科学への関心を高めるとともに、国際性や実践的な発信力を養う多様な機会を設けた。

【評価】

各種コンテストの結果、学校推薦型選抜入試および総合型選抜入試の合否状況、課題研究の生徒の取組の実績等を材料として、成果を検証した。

各種コンテストへの参加者数、入賞者数は増加傾向にある。

「ふくい理数グランプリ（高校生部門）」過去5年間の成績

年度	入賞	参加人数
R7	総合成績1位（第15回科学の甲子園全国大会出場権獲得） 数学最優秀賞、生物最優秀賞、地学最優秀賞、優秀賞2、奨励賞3 数学個人最優秀賞、数学個人優秀賞	58
R6	化学最優秀賞、優秀賞4、奨励賞2、数学個人優秀賞	63
R5	数学最優秀賞、数学個人最優秀賞、優秀賞4、奨励賞2	48
R4	総合成績1位（第12回科学の甲子園全国大会出場権獲得） 数学最優秀賞、物理最優秀賞、地学最優秀賞、優秀賞1、奨励賞3	45
R3	数学最優秀賞、化学最優秀賞、生物最優秀賞、優秀賞2、奨励賞2	60

「国際科学技術コンテスト」等の理数系コンテストの成績

年度	入賞
R7	数学オリンピック 全国大会出場 女子数学オリンピック 全国大会出場 化学オリンピック 銅賞・近畿支部長賞 情報オリンピック 敢闘賞 日本学生科学賞 出場（福井県代表） 科学の甲子園 全国大会出場 科学の甲子園ジュニア 全国大会出場
R6	数学オリンピック 全国大会出場 ジュニア数学オリンピック 全国大会出場 情報オリンピック 地区敢闘賞（5名） 宇宙甲子園 全国大会出場（缶サット部門） 科学の甲子園ジュニア 全国大会出場
R5	情報オリンピック 全国大会出場（2名） 優秀賞・中部ブロック1位、 （国際情報オリンピック日本代表最終選考会出場） 数学オリンピック 全国大会出場（1名）、地区表彰（1名） 科学の甲子園ジュニア 全国大会出場
R4	物理チャレンジ 優良賞 化学グランプリ 銅賞 生物学オリンピック 敢闘賞（2名） 情報オリンピック 敢闘賞、地区優秀賞、地区敢闘賞（2名） 数学オリンピック 地区表彰（3名） 科学の甲子園 全国大会出場 宇宙甲子園 全国大会出場（缶サット部門）
R3	科学の甲子園ジュニア 全国大会総合成績7位、数学1位、情報1位

総合型選抜や学校推薦型入試を利用した進学者が増加傾向にあり、女子生徒の占める割合も増加している。早期に理数系に進路決定した生徒の増加が背景にあると考えられる。

【理数系大学における総合型選抜・学校推薦型選抜による進学状況（過去5年間）】

年度	性別	理学系	工学系	情報系	農学系	医学・歯学系	看護・薬学系	理数教育系	その他理系	合計	総進学者に占める割合	総合型・学校推薦型選抜総進学者に占める割合
R2	男子		5		1					6	5.5%	54.5%
	女子		2			2	1			5		
R3	男子		7			2				9	8.9%	47.4%
	女子		2			3	3	1	1	10		
R4	男子		6					1	2	9	10.7%	40.9%
	女子	1	4			6	2			13		
R5	男子		3		1		1	1		6	10.6%	27.3%
	女子	1	2		1	3	4	2	3	16		
R6	男子		5						1	6	6.0%	50.0%
	女子		4			1	1			6		

## 課題研究での生徒の取組の実績

- 古紙を再利用した断熱材（令和7年度）  
研究活動の資金援助を受け、県内企業の協力を得て、本校代表としてSSH生徒研究発表会で発表した。
- 衣料品製造会社の残布活用（令和7年度）  
地方創生☆政策アイデアコンテスト2025に応募し、近畿経済産業局長賞に選ばれた。
- 低レイノルズ数領域向け風洞の製作・評価と流れの可視化（令和6年度）  
北海道の金属加工企業に協力を得て、県内外の高校生と情報交換をしながら研究を深め、本校代表としてSSH生徒研究発表会で発表した。
- レゴブロックを活用した児童の深い学び（令和6・7年度）  
敦賀市で開催された「若者ショッププランコンテスト」で優勝。開業資金の支給を受け、レゴブロックで小学生に分数を教える等の活動を行った。
- 高校生の学習におけるローカルネットワークとデータの活用（令和5年度）  
学習アプリを作成し、福井県産業支援センターから助成を受け、株式会社を設立した。SSH生徒研究発表会で奨励賞、生徒投票賞受賞。
- 「お米のしずく」商品開発・販売（令和5・6年度）  
JA福井および県内飲料メーカーと提携し、焙煎した米と水からつくる飲料を開発し「お米のしずく」と名付けられた商品は、県内各店舗、全国ネット販売も行われている。

## 研究開発Ⅲ：課題解決能力の伸長度を総合的に評価する手法の効果的な活用

### 【仮説3】

本校独自の「探究活動の各フェーズにおけるルーブリック」や「高志高校生徒アセスメント(KSA)」の効果的な活用方法を研究開発することで、生徒の課題解決能力の伸長をより確実なものとする。

### 【実践】

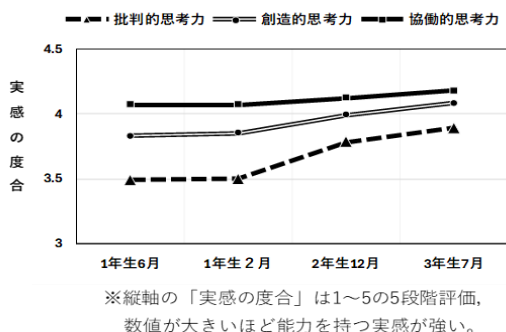
- ・研究開発によって新たに導入した取組の効果を検証するため、課題解決能力の伸長度について、「KSA」における肯定的自己評価、「GPS」による客観評価の結果を分析した。
- ・担当教員が生徒の成長を楽しみながら、生徒が失敗しても励まし支援し、失敗を恐れず積極的に挑戦できる環境を整えることを目指し、「K o A - I・II・III」での課題研究の取組について「探究活動のフェーズごとのルーブリック」を活用した観点別評価を行った
- ・「探究活動のフェーズごとのルーブリック」を、各フェーズにおける自らの研究への取組の自己評価に随時活用させた。

### 【評価】

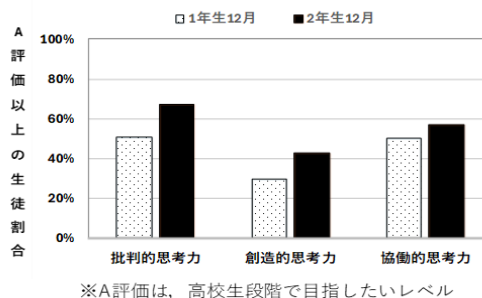
「KSA」における肯定的自己評価、「GPS」による客観評価の結果を分析し、取組の成果を検証した。

R07年度3年生

【能力伸長の実感（KSA）】



【能力評価がA評価以上の生徒割合（GPS）】



**研究開発Ⅳ：研究開発成果の発信・普及 ～課題研究発表会や研究協議会の開催～**

**【仮説4】**

研究の成果を発信し、福井から多様な科学的探究力を備えた科学技術人材をより多く育成するとともに、他の小・中・高等学校における探究活動の充実に貢献することを目指す。

**【実践】**

「福井県合同課題研究発表会」「探究活動に関する研究協議会」「高志の学びフェア」を実施した。

○福井県合同課題研究発表会

本県唯一の公立併設中高一貫教育校としてのネットワークを活かし、福井県内外のSSH指定校や課題研究に取り組む県内の小・中・高等学校等における多様な研究発表・交流の場として「福井県合同課題研究発表会」を継続して実施した。

○探究型学習会の開催

各校の実践状況を互いに報告し合い、自校での実践の参考とするための探究活動に関する研究協議会、県内中高の教員対象の「探究ワークショップ」を令和5年度から計5回実施した。

○高志の学びフェアの開催

本校で開発した探究型学習の体験授業を県内中学2年生を対象に実施した。

○ホームページや「SSHだより」、学校訪問の受け入れによる成果の発信

福井県内唯一の公立併設型中高一貫教育校として、様々な機会・媒体を通して、本校SSHの研究成果等をより広く発信した。また、SSH先進校として、県外の高等学校から多数の学校訪問を受け入れた。

**【評価】**

参加者数や件数の伸長により、検証した。

○福井県合同課題研究発表会

参加校、発表件数は年々増加している。地域における成果発信の場として定着している。

「福井県合同課題研究発表会」発表件数の推移

年度	発表校・発表機関				発表件数		
	県内高校	県外高校	中学校	合計	口頭発表	ポスター発表	合計
R7	9	7	2	18	66	88	154
R6	9	6	4	19	66	95	161
R5	5	5	4	14	66	73	139
R4	7	8	4	19	66	80	146
R3	5	5	3	13	55	89	144
R2	7	2	3	12	24	68	92
R1	7	3	3	13	40	87	127

○探究型学習会の開催

県内外、校種も多岐にわたって参加があり、教員研修の場として定着してきている。

【教員研修「探究ワークショップ」参加者数の推移】

回	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	
実施年度(月)	R5 7月	R5 1月	R6 7月	R6 12月	R7 10月	
県内	高校	15	16	18	13	12
	中学校	1	2	3	0	3
	その他	2	2	0	0	2
県外	0	0	0	0	4	
合計	18	20	21	13	21	

○高志の学びフェア

毎年多くの中学生の参加を得ている。

【「高志の学びフェア」参加者の推移】

年度	R5	R6	R7
参加者数	81	127	102

\*R2～R4はコロナ禍により開催中止

## ○成果の発信

### 【来校名一覧】

8月25日	山形県立新庄北高等学校
8月28日	鹿児島県立錦江湾高等学校
10月1日	山形県立長井高等学校
10月7日	岡山県立岡山城東高等学校
11月5日	東京都立富士高等学校
11月14日	学校法人清真学園 清真学園高等学校・中学校
11月25日	和歌山県立向陽高等学校・中学校
12月2日	愛知県立明和高等学校
1月23日	北海道滝川高等学校(大雪のため中止)
2月6日	山形県米沢興譲館高等学校
2月12日	栃木県立真岡高等学校
3月14日	熊本県教委、SSHコーディネーター(予定)

## ②—I 研究開発の課題

### 1 研究開発課題名

未来を創造する探究力を備え科学技術イノベーションを担う人材の育成システム構築

### 2 研究開発のねらい、目標

#### (1) ねらい

研究支援システムの構築により質の高い多様な課題研究を実践する。課題解決能力を育てる探究の手法等を県内に普及することで、本校のみならず福井から未来を創造する多様な探究力を備えた科学技術人材をより多く育成する。

#### (2) 目標

##### ①課題研究を充実・深化させるネットワークの拡充と研究支援システム構築

大学・研究機関・企業・他校等との連携・支援ネットワークを拡充する。このネットワークを活用した個々の研究分野・テーマに応じる研究支援システムを構築することで、質の高い課題研究を実現させ、高度な科学的探究力や豊かな創造性を育成する。

##### ②課題解決能力を育てる探究の手法の研究および教育プログラムの発展・普及

第IV期で完成させた「探究の手引き」、「研究ノート」、「課題研究チェックリスト」、「全国SSH校課題研究テーマリスト」等の効果的な活用法を研究し、校内での実践、他校への普及を行う。また、教育プログラム「K o A - L (Koshi Academic Learning)」を継続・発展させ、中学生、内進生、高入生という多様な視点や発想を持った集団が切磋琢磨して学ぶ本校の特徴を活かし、課題解決学習を学校教育全体で推進する。

##### ③課題解決能力の伸長度を総合的に評価する手法の効果的な活用

本校独自の調査「高志生徒意識調査(KSA)」や「探究活動の各フェーズにおけるループバック」等の効果的な活用方法を研究し、校内での実践、他校への普及を行う。

##### ④研究開発成果の発信・普及 ～課題研究発表会や教員研修会の開催～

福井県教育委員会と共催する「福井県合同課題研究発表会」により、研究開発の取組成果を県内に発信するとともに、「探究活動に関する教員研修会」も共催し、各学校の課題研究の取組や指導方法等についての情報交換や研修等を行い、県内の探究活動の充実・発展に資する。

### 3 研究開発の概略

本県唯一の公立併設型中高一貫教育校として、中学生、内進生、高入生という異なる集団が同じ空間で学ぶ本校の特徴を生かし、多様な視点や発想を交流し、互いに深く学び合う空間「Koshi Global Academy Campus (Koshi GAC : Koshi 学区)」を創生してきた。課題研究のみならず、すべての教科

科目で「探究的な学び」や「創造的な視点」を取り入れた学習を推進し、多様な能力を持った生徒が他者と協働しながら、伸び伸びと課題解決に向けて取り組める環境作りにこれまで取り組んできた。

先導Ⅰ期の研究開発では「未来を創造する探究力」の育成を課題に掲げた。これまで以上に、多様な考えを持った他者や専門的知識を持った研究者と積極的に関わりコラボレーションしながら、異なる視点やスキルを活かして課題に取り組んだり、突出した能力を持った生徒がその能力を存分に発揮したりできるよう、内進生と高入生が協働し切磋琢磨できる環境作りや研究支援システム構築に取り組むとともに、研究開発の成果を県内外の他校に発信・普及する。

## ②-Ⅱ 研究開発の経緯

### 1 課題研究を充実・深化させるネットワークの拡充と研究支援システム構築

番号	項目	実施時期
[1]	学校設定科目「K o A - I」（1年生全員2単位）	
	①基礎講座 オリエンテーション・研究の進め方・研究ノートの使い方	4月
	②データサイエンス講座	4月～7月
	③予備的研究	9月～12月
	④課題研究メンター指導（研究の進め方）	9月
	⑤課題研究 テーマ決め、先行研究調べ、仮説立案、研究計画	1月～3月
	⑥課題研究メンター指導（テーマ報告会）	2月
[2]	学校設定科目「K o A - II」（2年生全員2単位）	
	①研究支援システムを活用した課題研究	4月～3月
	②「グループ間討議」（年間2回程度）	4月～3月
	③課題研究中間報告会（メンター指導）	2月
[3]	学校設定科目「K o A - III」（3年生全員1単位）	
	①研究支援システムを活用した課題研究	4月～7月
	②生徒研究活動発表会	7月
	③課題研究論文執筆	9月～11月
	④学びの報告書・学びの計画書執筆	11月～
[4]	学校設定科目「英語活用PT」（1年内進生・2単位）	4月～3月
[5]	学校設定科目「英語活用BE」（1年高入生・2単位）	4月～3月
[6]	学校設定科目「英語活用DD」（2年生・選択 2単位）	4月～3月
[7]	学校設定科目「英語活用RP」（2年生・選択 2単位）	4月～3月
[8]	学校設定科目「英語活用AE」（2年高入生・選択 2単位）	4月～3月
[9]	学校設定科目「英語表現CW」（3年生・選択2単位）	4月～3月
[10]	学校設定科目「英語表現CW+」（3年生・選択2単位）	4月～3月
[11]	課題研究コラボプロジェクト委員会	
	①第1回委員会	7月3日
	②第2回委員会	2月6日

### 2 課題解決能力を育てる探究の手法の研究および教育プログラムの発展・普及

番号	項目	実施時期
[1]	S S H委員会	4月～3月
[2]	大学・研究機関・企業等と連携した研修・講座等	
	①S S H研究機関研修	7月30・31日
	②化学系企業研修	7月17日
	③若狭湾エネルギー研究センター研修	10月2日
	④S S H講演会	12月3日
	⑤統計学研修	1月13日
[3]	課題研究発表会	
	①生徒研究活動発表会	7月3日
	②2年生課題研究発表会	2月6日

	③ 1年生課題研究テーマ報告会	2月10日
[4]	実践的英語活用能力の育成	
	①外国人研究者による科学レクチャーⅠ（サイエンスダイアログ）	7月25日
	②外国人研究者による科学レクチャーⅡ（サイエンスダイアログ）	1月26日
	③米国海外研修	10月18～25日
	④シンガポール海外研修	10月18～23日
	⑤SSH倶楽部・科学英語プレゼン研修Ⅰ	1月23日（大雪のため中止）
	⑥SSH倶楽部・科学英語プレゼン研修Ⅱ	2月20日

### 3 課題解決能力の伸長度を総合的に評価する手法の効果的な活用

番号	項目	実施時期
[1]	高志高校生徒意識調査（KSA）	
	①第1回調査（3年生）	4月
	②第2回調査（1年生）	6月
	③第3回調査（3年生）	7月
	④第4回調査（2年生）	9月
	⑤第5回調査（2年生）	12月
	⑥第6回調査（1年生）	2月
[2]	GPS-Academic	
	①アセスメント実施	12月
	②結果分析会	2月
	③振り返りと自己評価	3月

### 4 研究開発成果の発信・普及 ～課題研究発表会や教員研修会の開催～

番号	項目	実施時期
[1]	「高志の学びフェア ～きて、みて、探究。～」	7月29日
[2]	福井県合同課題研究発表会	3月14日
[3]	学校間探究情報交換会	11月21日
[3]	教員対象研修会	
	探究ワークショップ vol. 5 ～「探究で大切にしたい願い」を考える～	10月4日
	福井県課題研究教員研修会	3月14日
[4]	「SSHだより」	
	①第1号発行 ②第2号発行	10月，3月
[5]	ホームページでの成果発信	4月～（随時）

## ②-Ⅲ 研究開発の内容

### 1 研究テーマと研究開発の仮説

研究テーマⅠ：課題研究を充実・深化させるネットワークの拡充と研究支援システム構築

仮説1 大学・研究機関・企業・他校等とのネットワークを拡充し、このネットワークを活用した個々の研究分野・テーマに応じた研究支援システムを構築することで、質の高い多様な課題研究に取り組ませることができ、高度な科学的探究力や豊かな創造性を育成することができる。

研究テーマⅡ：課題解決能力を育てる探究の手法の研究および教育プログラムの発展・普及

仮説2 本校独自の「探究の手引き」，「研究ノート」，「課題研究チェックリスト」，「全国SSH校課題研究テーマリスト」の効果的な活用法の研究開発や，「KoA-Map」の活用による各教科と「KoA」の連携，教育課程外の各種研修を有機的に関連付けた教育プログラムによって，課題解決能力を育成することができる。

**研究テーマⅢ：課題解決能力の伸長度を総合的に評価する手法の効果的な活用**

仮説3 本校独自の「探究活動の各フェーズにおけるルーブリック」や「高志高校生徒アセスメント（KSA）」の効果的な活用法を研究開発することで、生徒の課題解決能力の伸長をより確実なものとする事ができる。

**研究テーマⅣ：研究開発成果の発信・普及 ～課題研究発表会や教員研修会の開催～**

仮説4 「福井県合同課題研究発表会」や教員対象の「探究活動に関する教員研修会」等で、本校の研究開発の成果を発信したり、各学校の課題研究の取組みや指導方法・評価方法等についての情報交換や研修等を行ったりすることで、県内の探究活動の充実に貢献することができる。

**2 教育課程**

**[1] 必要となる教育課程の特例とその適応範囲**

必履修教科・科目の特例			特例が必要な理由と代替措置
教科・科目等	標準 単位数	SSH 単位数	
総合的な 探究の時間※	3	0	グループ活動や課題研究を通して、自ら課題を見つけ解決する能力を育成するため、「K○A-I/II/III」（計5単位）で代替する。
情報・情報I	2	1	課題研究の充実のため1単位を減じ、「K○A-I/II」（4単位）において、課題研究と連動して統計や情報の表現、情報機器活用、ネットワークについて学習することで代替する。
外国語 ディベート・ディスカッションI	2	0	国際的に活躍する人材を育成するには、英語を使用してのディベートやディスカッション等のコミュニケーション能力の育成が必要である。議論・討論のために自分の意見・主張を構築するのに必要な情報やデータを自ら探し、プレゼンテーションの際に用いる資料を作成する活動を通して、ディベート力やディスカッション力、プレゼンテーション能力を育成する「英語活用PT」（2単位）および「英語活用BE」（2単位）で代替する。

※ 理数創造科は、「総合的な探究の時間」（3単位）を「理数探究基礎」「理数探究」に代替し、それらをそれぞれ学校設定科目「K○A-I」（2単位）、「K○A-II/III」（計3単位）で代替する。

人文創造科は、「総合的な探究の時間」（3単位）を、1学年次で「理数探究基礎」（1単位）に代替し、それを学校設定科目「K○A-I」（2単位）で、更に2・3学年次は学校設定科目「K○A-II/III」（計3単位）で代替する。

**「情報I」の代替について**

「情報I」の内容（項目）
(1) 情報社会の問題解決 (3) コンピュータとプログラミング
(2) コミュニケーションと情報デザイン (4) 情報通信ネットワークとデータの活用
「K○A-I/II」で代替する内容および指導方法
<p><b>【代替する内容】</b></p> <p>学習指導要領に記載の上記(1)～(4)の項目で身に付けさせるべき知識・技能・思考力・判断力・表現力の内、「K○A-I」で代替する内容は以下の通り。</p> <p>(1) 情報社会の問題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法…(ア)</li> </ul> <p>(2) コミュニケーションと情報デザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考え、表現し、評価・改善を行う力…(イ)</li> </ul> <p>(3) コンピュータとプログラミング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会や自然等における事象をモデル化する方法、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法…(ウ)</li> </ul>

- (4) 情報通信ネットワークとデータの活用
- ・データを表現，蓄積するための表し方と，データを収集，整理，分析する方法… (エ)
  - ・データの収集，整理，分析および結果の表現の方法を適切に選択し，実行，評価，改善する力… (オ)
- 【指導方法】**
- (ア)～(エ)について
- ・1学年次の年度当初に実施する探究活動を実施するための基礎講座内 (20h)
  - ・1学年次に実施する外部講師を招いての統計学研修 (2h)
- (イ)，(エ)，(オ)について
- ・1学年次の年度途中から実施する予備的研究および，1・2学年次の課題研究中进行うデータ収集，データ分析，考察，発表資料作成の場面で指導 (13h)

「ディベート・ディスカッションⅠ」の代替について

「ディベート・ディスカッションⅠ」の内容 (項目)	
(1) 英語の特徴や決まりに関する事項	
(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し，英語で表現したり，伝え合ったりすることに関する事項	
(3) 言語活動および言語の働きに関する事項	
「英語活用 BE」「英語活用 PT」で代替する内容および指導方法	
<b>【代替する内容】</b>	
(1) 英語の特徴や決まりに関する事項	
自分の考えなどを目的や場面，状況などに応じて使用する語句や文，論理構成，展開を工夫して伝える。	
(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し，英語で表現したり，伝え合ったりすることに関する事項	
日常的な話題や社会的な話題について，伝える内容を整理し，英語で話したり書いたりして，要点や意図，論理の展開などを明確にしながら，情報や自分自身の考えなどを伝え合う。	
(3) 言語活動および言語の働きに関する事項	
論証文や英文資料などを読んで，論点を整理するとともに，それらを活用して自説の優位性を示す情報や考えを詳しく話して伝え合ったり，相手の意見に質問や反論したりするディベートをする活動を行う。また，スピーチや講義，英文資料などを聞いたり読んだりして，論点を整理するとともに，それらを活用して情報や自分自身の考えを適切な理由や根拠とともに詳しく話して伝えたり，他者の意見に適切に応じたりするディスカッション等の活動を行う。	
<b>【指導方法】</b>	
・言語活動として，ディベート，ディスカッションおよびプレゼンテーションをバランスよく経験させる。	
・自分の意見，主張を構築するために必要な情報やデータを自ら探したり，プレゼンテーションの際に用いる資料の作成をしたりするなど，2年次に選択科目として履修する「英語活用 DD (Debate and Discussion)」，「英語活用 RP (Research and Presentation)」および「英語活用 AE (Advanced Expression)」の基礎となる力を身に付けさせる。	
・「英語活用 PT」では，主に社会の諸事情や世界の諸問題に関する広範なテーマを中心に扱う。	
・「英語活用 BE」では，主に自分のことや身の回りのこと，身近な社会問題などのテーマを中心に扱う。	

[2] 教育課程の特例に該当しない教育課程の変更

課題研究を充実させるため以下の通り特例に該当しない教育課程の変更を行う。

国際的に活躍する科学技術系人材の素地を，主として表現力および言語運用力の観点から養うため，英語を用いた探究的な活動や表現活動に特化した学校設定科目「英語活用」「英語表現」を開設した。

科目名	英語活用 AE (Advanced Expression)	履修学年(単位)	普通科 内進・高入2年 (2単位)
目標	英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，社会の諸事情に関する事実情報や意見・考えなどを多角的に考察し，論理の展開や適切な表現方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。		

活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の諸事情に関する広範な話題について、まとまりのある英文を書く、メモを見ながら話す、即興で話すなどの活動をする。</li> <li>・学習したことや経験等に基づき、テーマに関する情報や意見等をまとめ、発表や意見交換をする。</li> </ul> <p>テーマの一例 〈前期〉産業開発と環境問題 〈後期〉テクノロジーと社会</p>
既存の教科・科目との関連	総合英語，ディベート・ディスカッション

科目名	英語活用DD (Debate & Discussion)	履修学年(単位)	普通科 内進・高入2年 (2単位)
目標	英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、社会の諸事情や世界の諸問題に関する事実情報や意見・考えなどを多角的に考察し、論理の展開や適切な表現方法を工夫しながら議論・討論する能力を養う。		
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられた話題について、短い時間で自分の意見や考えをまとめ、適切な理由とともに論理的に述べる。</li> <li>・与えられた話題についてグループで討論し、意見をまとめて発表する。</li> <li>・与えられた問いに対して個人やグループで立場を決め、聞き手を説得するために意見を述べ合うとともに、質疑を通して議論を深める。</li> </ul> <p>テーマの一例 〈前期〉動物実験 〈後期〉原子力発電の是非</p>		
既存の教科・科目との関連	総合英語，ディベート・ディスカッション		

科目名	英語活用RP (Research & Presentation)	履修学年(単位)	普通科 内進・高入2年 (2単位)
目標	英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、社会の諸事情や世界の諸問題に関する事実情報や意見・考えなどを整理し、論理の展開や適切な表現方法を工夫しながら伝えるプレゼンテーション能力を養う。		
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の諸事情や世界の諸問題に関する広範な話題について、学んだり調べたりして得た情報を整理しグループで発表したり、自分の意見や考え等をまとめて発表したりする。</li> <li>・ポスターやパワーポイントなど、プレゼンテーションの際に利用する資料を作成する。</li> </ul> <p>テーマの一例 〈前期〉人間とAI 〈後期〉動物実験</p>		
既存の教科・科目との関連	総合英語，ディベート・ディスカッション		

科目名	英語表現CW/CW+ (Change the World)	履修学年(単位)	普通科 内進・高入3年 (CW/CW+：2単位)
目標	英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、世界の諸事情に関する事実情報や意見・考えなどを多角的に考察し、社会の発展と人々の幸福・希望に貢献するための提案を通して、論理の展開や適切な表現方法を工夫しながら発表する能力を育成する。 CW+ではより高度な内容・活動を扱う。		
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞、テレビ、情報通信ネットワーク等で用いられる英語を聞いたり読んだりすることを通して、社会の諸事情・諸問題に対する理解を深める。</li> <li>・学習した諸問題について、その原因を調査・分析したり、考えたりしたことをまとめ、解決のための具体的な提案を発表する。</li> <li>・述べられた提案等をもとに議論や討論をする。</li> </ul> <p>テーマの一例 〈前期〉人間と機械 〈後期〉将来の都市デザイン</p>		
既存の教科・科目との関連	コミュニケーション英語，英語表現		

### 3 研究内容・方法・検証等

#### [1] 課題研究を充実・深化させるネットワークの拡充と研究支援システム構築

課題研究を実施する時間・単位数等は以下のとおりである。( )内：単位数

学科・コース	1年生	2年生	3年生	対 象
探究創造科 (理数創造科・人文創造科)	K o A - I (2)	K o A - II (2)	K o A - III (1)	内進生・高入生 全員

#### 1. 生徒自らが積極的に活用できる研究支援システムの構築

第IV期では、連携先を拡大し外部指導者による生徒課題研究の指導体制強化を図ってきた。各学年7名ずつ計21名の大学・研究機関および企業の研究者がSSHコラボプロジェクト委員として、データの収集・分析や、仮説－検証－考察のサイクルを意識した研究の進め方等の基礎的なスキル、課題研究の指導・助言を定期的に行った。しかし、各学年の課題研究のグループ数は60以上と多く、研究分野も多岐にわたることから、より専門的な指導が必要な場合には、委員だけで全ての研究分野を網羅することは難しい状況であった。先導I期(令和5～7年度)では、各グループの研究分野・テーマ、研究の進捗状況に応じた連携・支援を行うことで、課題研究の深化を目指し、1年目は研究支援システムの構築を行った。2, 3年目は、システム活用の定着を図った。

##### (1) ねらい

多様な考えを持った他者や専門的知識を持った研究者と積極的に関わりコラボレーションしながら、異なる視点やスキルを活かして課題に取り組んだり、突出した能力を持った生徒がその能力を存分に発揮したりできる環境を整える。

##### (2) 仮説

生徒自らが積極的に活用できる研究支援システムを構築することにより、各グループの研究分野・テーマ、研究の進捗状況に応じた連携・支援の充実を図ることができる。

##### (3) 方法

- ・SSHコラボプロジェクト委員以外にも専門分野がよりマッチした研究者に、生徒自らが必要な時期に随時、研究支援の依頼ができるようにした。研究支援を依頼する際には、「研究支援依頼書」を活用した【③-6参照】。
- ・高校課題研究や中学校職場体験等で、これまでに連携した研究機関・企業等のリストを作成し、QRコードから共有ドライブにて生徒が閲覧できるようにした。リストにない新たな研究機関や企業等にも、生徒自らが積極的に支援を受けられるよう連携マニュアルを作成した。外部機関との連携の際には、課題研究担当教員や研究支援部担当がサポートに当たる体制を整えた。
- ・本校の課題研究テーマ一覧を県内他校の課題研究担当教員に公開し、連携を呼びかけた。研究内容の似ている他校グループとの情報交換を行った。
- ・本校以外で開催される課題研究発表会の一覧表を生徒に配付し、積極的な参加を促した。

##### (4) 成果・課題

第2学年においても、第3学年と同様に、研究支援システムを活用し、6割以上のグループが外部機関による研究支援を依頼した。理数では大学教員による支援が柱となっており、専門性の高い指導を受けている。今後は県内企業との連携をさらに進めたい。また、同窓会や福井県等による研究活動費用の助成支援も定着した。【①-⑤参照】

#### 2. 全国SSH校課題研究や学術論文の活用

全国SSH校の課題研究論文集に記載されている課題研究テーマリストを第IV期に作成した【③-8参照】。先行研究調べの際に、「課題研究ノート」に掲載したQRコードから検索した後、本校図書館にて閲覧できるシステムが完成している。リストの更新を行うとともに、「本校先輩の研究論文」、「全国SSH校課題研究」、「学術論文」の活用を積極的に促した。

##### (1) ねらい

課題研究のテーマ設定時に、様々な研究に触れることができる環境を整える。また、課題研究を進める中で、学術論文等の高いレベルの研究論文を積極的に活用する生徒を増やす。

(2) 仮説

学術論文等の高いレベルの研究を読み込むことで、研究への理解を深め、新たな課題を見つける力を高めることができる。

(3) 方法

第1学年次の「K o A - I」での基礎講座において、「本校先輩の研究論文」，「全国SSH校課題研究」，「学術論文」の検索・閲覧方法を学び、その活用を積極的に促した。

(4) 成果・課題

- ・「全国SSH校課題研究」のリストを今年度も更新し、現在14,600件以上の先行研究を検索・閲覧できるようになった。
- ・「本校先輩の研究論文」，「全国SSH校課題研究」，「学術論文」の活用が取組前の過年度卒業生と比べて増やすことができ、活用が定着した【①-⑤参照】。

3. 内進生（高志中学校からの内部進学生）と高入生（高校からの入学生）が協働する課題研究

令和4年度入学生から、高入生・内進生ともに全員が「探究創造科」となり、課題研究を実施する「K o A」の授業を混合履修とした。さらに令和5年度からは、混合クラスとすることで、より一層多様な視点や発想を交流できるようになった。

(1) ねらい

多様な能力を持った生徒が他者と協働しながら、課題解決に向けて取り組める環境を作る。

(2) 仮説

異なる立場からの批判的議論を積み重ねて研究を深化させるために必要な3つの力「批判的思考力」「協働的思考力」「創造的思考力」を伸長させることができる。

(3) 方法

本格的な課題研究に取り組むための準備として、4月から7月まではデータサイエンス講座、9月から12月までは2年次の選択希望別に「理数創造コース」と「人文創造コース」に分かれて、予備的研究に取り組んだ。1月からは、進路希望やコース選択に応じた研究テーマの設定、先行研究調べ、仮説立案、研究計画等を行った。予備的研究、本格研究のいずれにおいても、高入生・内進生の混合によるグループ編成を可能とした。

(4) 成果・課題

2年生は1年次と比較して「批判的思考力」が伸長した。1年生は過年度生と比較して「批判的思考力」「協働的思考力」が大きく向上した。現3年生からは高入生・内進生の混合クラスとなり、多様な意見が交わりやすく、イノベーションが起きやすくなったのではないかと。

4. 学校設定科目「K o A - I」（1年・2単位）

(1) ねらい

幅広い分野に興味を持ち、科学や科学技術と社会の課題を知る。調査・研究・発表・議論の基本的な技能を身に付ける。

(2) 仮説

データの分析の方法や解釈の仕方、プレゼンテーションの方法などについて学ぶデータサイエンス講座を行うことにより、課題研究で必要となる情報活用能力の基礎を身に付けることができる。

本格的な研究を行う前の準備として、予備的研究を行うことにより、調査研究やデータ処理、分析・まとめ・発表・議論など研究を行うのに必要な能力および基本的な研究の手法を身に付けることができる。講義の前後でのディスカッションや発表活動を通して、論理的思考力・言語運用能力・情報活用能力・プレゼンテーション能力を育成することができる。

(3) 内容・方法

基礎講座を行った後、理数創造コースと人文創造コースに分かれて研究に取り組む。

理数創造コースは、予備的研究において、自分の関心のある分野に関する先行研究を行った上でグループを決め、グループ研究テーマの設定を行う。各グループで研究活動を行い、中間発表会で

は研究の背景と目的, 先行研究, 研究計画などについて説明する。

人文創造コースは, 予備的研究では, 教員が設定した具体的なテーマについて, セミナーで学んだことを応用し, 実際の研究の流れとその要点について理解した。最後の本格研究では, グループでテーマを設定し, それに基づいて主体的に研究を進めるとともに, 2年次につながる展望を持った。

#### 理数創造コース・人文創造コース共通

	学習項目	学習内容	学習の要点 (到達目標)
4月	【基礎講座】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究で身に付ける力</li> <li>・研究と調べ学習の違い</li> <li>・研究テーマと研究計画</li> <li>・研究ノートの使い方</li> <li>・チェックリストの使い方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究学習および高志高校の取り組む課題研究の特徴を理解できる。</li> <li>・チェックリスト等を活用した研究の進め方を理解できる。</li> <li>・発表会, コンテスト, 校外研修等に対する意欲を高められる。</li> </ul>
5月 ～ 7月	【データサイエンス講座】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの形式について知る。</li> <li>・表計算ソフトの使い方を知る。</li> <li>・グラフの作成方法を知る。</li> <li>・代表値を用いた分析方法を理解する。</li> <li>・データベースを活用し, 自身の主張を形成する。</li> <li>・主張を裏付ける正しいデータの扱い方について考察する。</li> <li>・プレゼンテーションソフトの使い方を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの形式に応じて, 適切なアンケートの作り方を理解できる。</li> <li>・分析の目的に合わせたグラフの作成方法について理解できる。</li> <li>・分析の目的に合わせた適切なデータの活用方法を理解できる。</li> <li>・適切なデータの解釈方法を学習する。</li> <li>・スライドを用いて, 分かりやすくプレゼンテーションができる。</li> </ul>

#### 理数創造コース

	学習項目	学習内容	学習の要点 (到達目標)
9月	【メンター指導】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学や企業等で行われている研究についてメンターから講義を受け, 現状や課題を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究者の講義から今後自身が取り組む課題研究のイメージを深めることができる。</li> <li>・研究テーマの設定方法や研究の手法・心構えなどについて理解することができる。</li> </ul>
9月 ～ 12月	【予備的研究】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮説の立て方</li> <li>・先行研究 ・実験の手法</li> <li>・研究ノートの使い方</li> <li>・調査, 研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問い, 仮説立案, 実験, 仮説検証, 考察, 問いという一連の研究のサイクルを実際に体験し, 基本的な研究の手法を身に付ける。</li> </ul>
1月 ～ 2月	【本格研究】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ決め</li> <li>・研究テーマの検討, 決定</li> <li>・調査, 研究</li> <li>・発表準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の関心がある分野を考慮してグループを作り, 研究テーマを決定できる。</li> <li>・探究可能な課題を設定し, 適切に情報収集 <ul style="list-style-type: none"> <li>・分析・考察をすることができる。</li> </ul> </li> <li>・多様な視点から研究を深めることができるか議論する。</li> </ul>
2月	【課題研究テーマ報告会(メンター指導)】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会と相互評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の目的や方向性を整理し, ポイントを絞ってわかりやすく発表できる。</li> </ul>

人文創造コース

時期	学習項目	学習内容	学習の要点（到達目標）
9月	【ガイダンス】	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究とは何か</li> <li>研究ノートの使い方</li> <li>レビュー（レポート）作成法</li> <li>どのように研究（探究学習）を進めるか …ブレインストーミング、マインドマップ、ファシリテーション …CiNii, Google Scholar等の論文検索の利用</li> <li>協働探究の方法と意義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究と調べ学習との違いが理解できる。</li> <li>研究ノートの重要性について理解できる。</li> <li>学んだことをレポートの形でまとめ、報告することができる。</li> <li>研究の進め方について基本的なイメージを持つことができる。</li> <li>アイデアを拡散させ、様々な観点について検討することができる。</li> <li>先行研究の収集方法が理解できる。</li> <li>協働探究の重要性とその具体的な方法について理解できる。</li> </ul>
10月	【予備的研究1】 文系の基礎的な研究手法について理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ収集</li> <li>先行研究のレビュー</li> <li>データ分析</li> <li>論文や発表スライド</li> <li>批判的思考（質問生成）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ収集とその管理の方法が理解できる。</li> <li>先行研究をいかに読み、まとめるかが理解できる。</li> <li>収集したデータの分析や解釈の方法を理解できる。</li> </ul>
11月	【予備的研究2】 文系の基礎的な研究手法について理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ収集</li> <li>先行研究のレビュー</li> <li>データ分析</li> <li>論文や発表スライド</li> <li>批判的思考（質問生成）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>論文や発表スライドの流れ（書き方、発表方法）について理解できる。</li> <li>自他の発表について質問を考えながら聞くことにより、批判的思考力を高めることができる。</li> </ul>
1月	【本格研究】 テーマを設定し、他者と協力して主体的に研究を進める	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ設定</li> <li>データ収集</li> <li>先行研究のレビュー</li> <li>データ分析</li> <li>論文や発表スライド</li> <li>批判的思考（質問生成）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関心のある研究テーマについて他者とすりあわせ、より具体的な方向性を打ち出すことができる。</li> <li>データ収集とその管理を行うことができる。</li> <li>先行研究を自力で渉猟し、それらを収集・レビューして、自分の研究に生かすことができる。</li> <li>収集したデータを設定した観点に基づいて分析することができる。</li> <li>適切な流れで論文や発表スライドをまとめることができる。</li> <li>自他の発表を、質問を考えながら聞くことにより、批判的思考力を高めることができる。</li> </ul>

(4) 成果・課題

①基礎講座

基礎講座では、課題研究が目指すもの、本校が取り組んでいる課題研究の特徴、チェックリストを活用した研究の進め方、研究ノートの使い方などについての意識を持たせることができた。

②データサイエンス講座

データサイエンス講座では、タブレット PC を用いて実際にデータを処理したり、データの解釈の仕方を学んだり、まとめた内容についてスライドを作成して発表を行ったりすることで、データ分析の方法やプレゼンテーションの方法について学び、実際の課題研究において必要なスキルを身に付けることができた。科学的根拠を示すうえで、データを適切に扱うことの重要性を意識するこ

とができた。

### ③メンター指導

大学や企業等で行われている研究についてメンターから講義を受け、今後自身が取り組む課題研究のイメージを深めることができた。また、研究テーマの設定方法や研究の手法・心構えなどについて理解することができた。

### ④予備的研究

(理数創造コース)

- ・担当教員から提示されたテーマについて、研究計画の立案、実験の実施、考察を行うことにより、実際の研究の流れについて理解することができた。研究ノートをとることの重要性を意識することで、実験結果や研究の計画などをノートに記録する習慣を身に付けることができた。

(人文創造コース)

- ・「国語」「地歴公民」「地域課題」「英語・国際課題」のコースを設定した。各コースで、生徒自身の興味関心に沿ったテーマについて予備的研究を進めることにより、研究の流れについて理解することができた。また、研究分野に関する基礎的な知識を獲得することができた。
- ・研究ノートにアイデアをまとめ、そのアイデアを具体化する手法の基礎を体験することができた。

### ⑤本格研究

- ・事前に提出させた研究計画をもとに大まかなチーム分けを行ったことで、円滑にチームでのテーマ設定を行うことができた。
- ・自ら主体的にテーマを設定したことで、意欲的に学習に取り組むことができた。
- ・予備的研究での経験を生かし、見通しを持って学習に取り組むことができた。
- ・大学教授や埋蔵文化財センターなどの専門機関と連携し、テーマ設定および研究に関する高度で専門的に知識や技能を学んだ。

## 5. 学校設定科目「K○A-Ⅱ」（2年・2単位）

### (1) ねらい

「K○A-Ⅰ」から継続して課題研究に取り組み、科学的思考力および探究力・分析力・表現力・コミュニケーション能力の伸長を図る。

### (2) 仮 説

継続的な課題研究や発表活動を通して、独創性・創造性を育成することができる。また、論理的思考力・言語運用能力・情報活用能力・プレゼンテーション能力を育成することができる。

さらに、研究支援システムによる生徒の研究の実情に合ったメンター指導や中間報告会を実施することで、生徒自身が方向性や進捗を確認しながら研究をすすめるためのプロジェクトマネジメント能力を育成できる。

### (3) 内容・方法

各グループ（理数創造科 36 グループ，人文創造科 31 グループ）がそれぞれの課題研究テーマに沿ってグループ研究を継続する。

#### 理数創造コース

	学習項目	学習内容	学習の要点（到達目標）
4月 ～ 12月	・課題研究	・K○A-Ⅰで取り組んだ課題研究をグループで継続する。 ・研究支援システムを活用したり、グループ間で討議したりしながら、課題研究を進める。	・グループで立案した計画に基づき研究を進めることができる。 ・多様な考えを持った他者や専門的知識を持った研究者と積極的にコラボレーションしながら、研究を深化させることができる。

1月	・課題研究	・2年生課題研究発表会や福井県合同課題研究発表会に向けての発表準備	・発表会に向けての発表資料（口頭発表スライド、ポスター）を作成できる。
2月 3月	・2年生課題研究発表会 ・福井県合同課題研究発表会	・研究の中間報告を口頭発表形式で行う。 ・質疑応答から多様な視点を学ぶ。 ・メンターから研究について指導助言を受ける。	・研究の経緯やその時点での成果について、スライドを用いてプレゼンテーションできる。 ・質問のポイントを理解し、的確に応答することができる。 ・他グループの発表を聞き、研究の改善や発展 ・深化につながる質問をすることができる。 ・メンターの助言や聴講者からの質問をもとに課題を把握し、今後の方向性を修正できる。
	・課題研究	・課題研究をグループで継続する。	・発表会を通して把握した課題を踏まえて計画を修正し、研究を深めることができる。 ・3年生の最終発表に向けて研究の見通しを立てる。

#### 人文創造コース

	学習項目	学習内容	学習の要点（到達目標）
4月	【課題研究オリエンテーション】		
～	・課題研究	・K o A - I で取り組んだ課題研究をグループで継続する。	・グループで立案した計画に基づき研究を進めることができる。 ・先行研究や文献を踏まえ、研究テーマや仮説を見直しながら調査研究・開発を進めることができる。 ・街頭調査などの結果を分析し、探究可能な課題の設定や有効性を確認することができる。
12月 1月	・課題研究	・2年生課題研究発表会や福井県合同課題研究発表会に向けての発表準備	・発表会に向けての発表資料（口頭発表スライド、ポスター）を作成できる。
2月 3月	・2年生課題研究発表会	・研究の中間報告を口頭発表形式で行う。 ・質疑応答から多様な視点を学ぶ。 ・助言者から研究について指導助言を受ける。	・研究の経緯やその時点での成果について、スライドを用いてプレゼンテーションできる。 ・質問のポイントを理解し、的確に応答することができる。 ・他グループの発表を聞き、研究の改善や発展 ・深化につながる質問をすることができる。 ・助言者や聴講者からの質問をもとに課題を把握し、今後の方向性を修正できる。
	・課題研究	・課題研究をグループで継続する。 ・発表会での助言を受けての補足実験や調査を行う。	・発表会を通して把握した課題を踏まえて計画を修正し、研究を深めることができる。 ・3年生の最終発表に向けて研究の見通しを立てることができる。

#### (4) 成果・課題

- ・「K o A - I」から継続して課題研究に取り組むことにより、各グループの研究内容に深まりが見られた。

- ・研究支援システムの活用やグループ間での討議を通して、様々な意見や考え方に触れる経験を多く積むことで、自身の視点の広がりや質問力の向上を実感した生徒の割合が高くなった。
- ・仮説検証に重点を置いて探究活動を行えた。このことにより、検証さらに考察まで改善された。
- ・毎時間探究活動終了時に研究ノートとタブレットを用いて振り返りを行い、自己評価を積み重ねていくことで探究活動での自己の変遷を明確に確認できるようになった。
- ・生徒と担当教員が「ルーブリック」や「チェックリスト」を一緒に見ながら、研究の進捗状況を確認する場面が多くなった。
- ・メンター指導のシステム変更に伴い、積極的にメンター指導を受けるグループが増え、研究内容が深まった。また、メンターだけでなく外部機関（企業や大学）にて研究を行うグループもあった。

## 6. 学校設定科目「K o A - III」（3年・1単位）

### (1) ねらい

「K o A - II」から継続する課題研究の取組や、校内外の発表機会やコンテスト等に参加することを通して、研究内容の深化とプレゼンテーション能力の向上を図る。また、研究内容を論文にまとめることを通して、科学的思考力および探究力・分析力・表現力の伸長を図る。

### (2) 仮説

継続的な課題研究や発表活動を通して、独創性・創造性を育成できる。また、論理的思考力・言語運用能力・情報活用能力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を育成できる。メンターや外部指導者の指導、生徒研究活動発表会、論文の執筆などを通して、生徒自身が方向性や進捗を確認しながら研究をすすめるためのプロジェクトマネジメント能力を育成できる。

さらに、学びの報告書および学びの設計書の作成を通し、高校での学びと大学での学びをスムーズに接続できる。

### (3) 研究内容・方法

「K o A - III」は「K o A - II」から継続して、各グループの研究とそのまとめに取り組む（理数創造コース 32 グループ、人文創造コース 34 グループ）。

#### 理数創造コース

	学習項目	学習内容	学習の要点（到達目標）
4月 5月 6月	・課題研究 ・発表資料作成	・K o A - IIでの調査研究を継続する。 ・研究成果を発表資料（発表要旨・スライド・ポスター）にまとめる。	・K o A - IIでの計画に基づき、適宜修正しながら研究を進めることができる ・研究の経過を論文にまとめることができる。
7月	・生徒研究活動発表会	・これまでの研究成果と課題を口頭発表形式、ポスター発表形式の両方で発表する。	・視覚資料を効果的に用いながら研究成果を発表できる。 ・アドバイスを傾聴し、理解できる。
9月 11月	・論文作成 ・学びの報告書作成 ・学びの設計書作成	・発表会での助言を受けて、補足、修正、追実験、追調査等を行い、論文を完成させる。 ・研究の経緯を学びの報告書に、今後の展望を学びの設計書にまとめる。	・発表会での助言を反映し、論文を完成できる。 ・学びの報告書および学びの設計書を作成することで、卒業後の学びにつなげることができる。

#### 人文創造コース

	学習項目	学習内容	学習の要点（到達目標）
4月 5月	・課題研究	・K o A - IIでの調査研究を継続する。	・K o A - IIで立案・修正された計画に基づき研究をすすめることができる。

6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究</li> <li>・発表資料作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究</li> <li>・これまでの研究成果を発表資料（発表要旨・スライド）にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の経過を論文にまとめることができる。</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒研究活動発表会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究成果と課題をポスター発表形式で発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚資料を効果的に用いながら研究成果を発表できる。</li> <li>・助言者などからのアドバイスを傾聴し、理解することができる。</li> </ul>
9月 11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論文作成</li> <li>・学びの報告書作成</li> <li>・学びの設計書作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会での助言から、補足、修正、追実験、追調査等を行い、論文を完成させる。</li> <li>・研究の経緯を学びの報告書に、今後の展望を学びの設計書にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会での助言を反映し、論文を完成できる。</li> <li>・学びの報告書および学びの設計書を作成することで、卒業後の学びにつなげることができる。</li> </ul>

#### (4) 成果・課題

- ・「K o A - II」から継続して課題研究に取り組むことで、理数創造コース・人文創造コースとも研究内容を深めることができた。
- ・研究内容のとりまとめや発表の機会を設けたことで、論理的思考力・言語運用力・情報活用能力・プレゼンテーション能力を育成することができた。
- ・研究終盤でのメンター指導の実施により、研究をどのようにまとめていけばよいかを生徒たち自身が確認し、調整していくプロジェクトマネジメント能力を育成することができた。
- ・「チェックリスト」を活用することで、論文としてまとめる際のフォーマットや内容に関する注意事項を理解することができた。
- ・学びの報告書および学びの設計書を作成することで、高校での学びを整理し、卒業後の学びに接続する準備を整えることができた。

### 7. 学校設定科目「英語活用PT」

#### (1) ねらい

国際的に活躍する科学技術系人材の素地を、主に表現力および言語運用力の観点から養う。

#### (2) 仮説

英語を活用して議論したり、調査・発信を行ったりする経験を繰り返し積むことで、言語技術はもとより、論理的思考力や批判的思考力が向上する。また、科学的なトピックや関連する社会的課題等を多く扱うことで、科学に対する興味・関心を高めることができる。

#### (3) 内容・方法

1年内進生を対象に、科学的なトピックを盛り込んだ以下の内容（抜粋）で、議論やディベートおよびプレゼンテーションに焦点を当てた講座を展開した。

単元名	学習の要点	備考
Animal Experiment	動物実験に関する問題について学び、その是非について議論する。	別教材によるディスカッション等を含む
SNS Regulation	SNSの功罪について学び、その利用制限の是非について議論する。	
AI in the Future	AI利用の利点と悪影響について議論する。	

#### (4) 成果・課題

- ・科学的な英語の文章を読み、そのトピックについての考察や意見・考えの発信にも重点を置くことで、科学技術や社会問題に興味を持ち、自分の意見を持てるようになった。また関係する語彙や表

現が身についた。

- ・ディベート形式での意見交換・議論やプレゼンテーションを行うことにより、意見や考えを論理的かつ説得力のある仕方で伝えようとする意識や、批判的思考力が高まった。また英語で積極的にコミュニケーションを取ろうとする生徒が増えた。
- ・論拠を示しながら発言する力や、聞き手からの質問や指摘に対して的確に応答する力などがまだ不足している。

## 8. 学校設定科目「英語活用BE」

### (1) ねらい

国際的に活躍する科学技術系人材の素地を、主に表現力および言語運用力の観点から養う。

### (2) 仮説

英語を用いて、日常生活に関する基礎的な事実情報や意見等を表現する経験を繰り返し積むことで、表現力が向上する。また、科学的なトピックや関連する社会的課題等を多く扱うことで、科学に対する興味・関心を高めることができる。

### (3) 内容・方法

1年高入生を対象に、科学的なトピックを盛り込んだ以下の内容（抜粋）で、基礎的英語表現力の習得に焦点を当てた講座を展開した。

単元名	学習の要点	備考
The Future of Robots	身近な科学技術（ロボットやAIなど）について理解し、それらの利点や課題などを考え表現する。	別教材によるディスカッション・プレゼンテーション等を含む
News around the World	身近に起きている諸問題（環境問題・社会問題など）について理解し、それらの原因や解決方法について考え表現する。	
Poverty in the World	世界の貧困に苦しむ子供たちの現状について理解し、それらの原因や解決方法について考え表現する。	

### (4) 成果・課題

- ・具体的な場面や状況を設定した表現活動や意見を述べる活動を充実させ、既習の表現を活用して意見や考えを積極的に表明しようとする姿勢が身に付いた。また、未習の単語・表現等を学ぼうとする姿勢が身についた。
- ・適宜、ALTとのTTによる授業を行い、時事的・科学的な話題でディスカッションする時間を設けたことで、科学に対する興味を刺激することができた。
- ・表現しようとする態度の向上はみられるが、文法的に適切な英文で正確に自分の意見を伝えることができない生徒がまだ多い。

## 9. 学校設定科目「英語活用DD」

### (1) ねらい

国際的に活躍する科学技術系人材の素地を、主に表現力および言語運用力の観点から養う。

### (2) 仮説

英語を活用して議論する経験を繰り返し積むことで、言語技術はもとより、論理的思考力や批判的思考力が向上する。また、科学的なトピックや関連する社会的課題等を多く扱うことで、科学に対する興味・関心を高めることができる。

### (3) 内容・方法

2年生選択者を対象に、科学的なトピックを盛り込んだ以下の内容（抜粋）で、議論やディベートに焦点を当てた講座を展開した。また、授業の多くをALTとのTTの形態で展開した。

単元名	学習の要点	備考
Animal Rights or Human Profits?	動物実験の問題点について学び,その是非について議論する。	別教材によるディスカッション等を含む
High school students should actively use generative AI tools like ChatGPT?	生成A Iの積極的活用の是非について議論する。	
The Pros and Cons of E-Sports in High School	Eスポーツの利点と弊害を考え,学校の部活動に導入すべきか否かを議論する。	

#### (4) 成果・課題

- ・時事的で科学的な話題をもとにした活動を多く設定したことにより,科学技術に関する世の中の動きに関心を持つ生徒が増えた。
- ・ディベート形式での意見交換を繰り返し行うことにより,説得力のある論を分かりやすく伝えようとする意識が高まった。また,相手の意見に客観的に反論するスキルが向上した。
- ・複数の意見や視点から情報を整理し,有効なものを選んで相手に伝えるようになった。また,意見をサポートするエビデンスとして適切な情報やデータを活用できるようになった。
- ・話し方,伝え方の点で不十分な生徒が若干みられる。

### 10. 学校設定科目「英語活用RP」

#### (1) ねらい

国際的に活躍する科学技術系人材の素地を,主に表現力および言語運用力の観点から養う。

#### (2) 仮説

英語を活用して調査や発信を行う経験を繰り返し積むことで,言語技術はもとより,情報処理能力やプレゼンテーション能力が向上する。また,科学的なトピックや関連する社会的課題等を多く扱うことで,科学に対する興味・関心を高めることができる。

#### (3) 内容・方法

2年生選択者を対象に,科学的なトピックを盛り込んだ以下の内容(抜粋)で,調査と発信に焦点を当てた講座を展開した。

単元名	学習の要点	備考
Animal Rights or Human Profits?	動物実験の必要性和弊害について議論し,自分の意見を述べる。	別教材によるプレゼンテーション・ディスカッション等を含む
High school students should actively use generative AI tools like ChatGPT?	生成A Iの積極的活用の是非について議論する。	
Innovators of the World	世界を大きく変えた科学技術分野の革新者について調査し,その社会的影響等について自分の意見を述べる。	

#### (4) 成果・課題

- ・科学的な英語の文章を読んだり,インターネット等で調査して,トピックについての考察や意見の発信にも重点を置いた。その際,メリット,デメリットの両方を検討するよう指導したことで,物事を論理的・客観的に見る力がついた。
- ・英語で意見交換やプレゼンテーションをする経験を繰り返したことで,他者の意見を聞き要点を理解しまとめる力や,客観的な立場で物事を捉え,自分の意見や考えを英語で述べる力を伸長できた。
- ・エビデンスとして用いるデータの信憑性を十分考慮し取捨選択する姿勢や,聞き手からの質問や指摘に,的確に応答する力をさらに向上させたい。話し方・伝え方の向上が必要な生徒もみられた。

## 11. 学校設定科目「英語活用AE」

### (1) ねらい

国際的に活躍する科学技術系人材の素地を、主に表現力および言語運用力の観点から養う。

### (2) 仮説

英語を用いて、身の回りのことや社会情勢等に関する事実情報や意見・考えを、多様な形態で表現する経験を繰り返し積むことで、言語運用力が向上する。また、科学的なトピックや関連する社会的課題等を多く扱うことで、科学に対する興味・関心を高めることができる。

### (3) 内容・方法

2年生選択者を対象に、科学的なトピックを盛り込んだ以下の内容（抜粋）で、情報や意見を確実に伝達するための適切な表現や、効果的な論理展開などに焦点を当てた講座を展開した。

単元名	学習の要点	備考
Pets	ペットを飼うことの有用性と弊害について考え、動物の活用方法について表現する。	別教材によるディスカッション等を含む
High school students should actively use generative AI tools like ChatGPT?	生成AIの積極的活用の是非について議論する。	
Difference between Japan and Study Trip Destination	自分たちが暮らす街と研修旅行で訪問した都市とを比較し、その違いや考察を表現する。	

### (4) 成果・課題

- ・トピックや発問を工夫したり、意見交換する場面を増やしたりしたことで、聞き手や読み手に分かりやすくなるよう留意しながら、意見や考えを表現しようとする姿勢が身に付き、自信を持って意見を表明できる生徒が増えた。
- ・適宜、ALTとのTTによる授業を展開し、時事的・科学的な話題でディスカッションする時間を設けたことで、科学に対する興味を刺激することができた。
- ・自己表現への意欲は向上し活発になされるようになった反面、伝えたい内容を文法的に正しい英文で表現する力が不足している。

## 12. 学校設定科目「英語表現CW/CW+」

### (1) ねらい

国際的に活躍する科学技術系人材の素地を、主として表現力および言語運用力の観点から養う。

### (2) 仮説

英語を通して世界の諸事情に関する事実情報や意見・考えなどを多角的に考察したり、社会の発展と人々の幸福・希望に貢献する提案をしたりする経験を繰り返し積むことで、論理の展開や適切な表現方法を工夫しながら発表する能力を高めることができる。

### (3) 内容・方法

3年生を対象に、科学的トピックを盛り込んだ以下の内容（抜粋）で、世界の諸問題についての考察や論理の展開に焦点を当てた講座を展開した。

単元名	学習の要点	備考
Are You Ready for Cultured Meat?	人工培養肉の普及によって家畜が消える未来はあるのかについて議論する。	別教材によるディスカッション等を含む
No Car, Happy Life? Carless Cities in Spain	車社会である自分たち街や、車のない他国の都市計画について議論する。	
Building Down and Building Under Water	地下都市や海中都市の建設は可能か、そのデザインについて議論する。	

#### (4) 成果・課題

- ・科学的分野に関する英文を扱うことにより、科学に対する興味関心を高めることができた。また分かったことをまとめ発表することにより、関連する語彙力・表現力が伸長し、また論理的に説明できる生徒が増えた。
- ・社会の諸事情・諸問題の原因を調査・分析し考察することによって、テーマに対する理解を深めることができた。また、解決のための具体的な提案をまとめて発表し、討論した。他者の意見を聞き、自分の意見と比較しながら批判的な視点で物事を捉えて考察する力が伸長した。
- ・聞き手の理解度を確認しながら自分の意見を述べようとする姿勢がまだ不足している。

### [2] 課題解決能力を育てる探究の手法の研究および教育プログラムの発展・普及

#### 1. 「探究の手引き（教員用）」，「課題研究ノート（生徒用）」の開発・活用について

研究ノートには基本的な研究の進め方や発表要旨・ポスター・論文の作成方法等を掲載しており、生徒はこれらを確認しながら研究データの蓄積や研究発表の準備等を行い、研究活動を充実させる。

##### (1) ねらい

生徒が必要となる項目を押さえながら主体的に課題研究に取り組める環境を整え、課題研究の充実・深化をはかる。

##### (2) 仮説

「探究活動のフェーズごとのルーブリック」を「SSH課題研究チェックリスト」とともに活用することにより、各フェーズにおける自らの研究への取り組みを具体的に自己評価できるようになる。

##### (3) 方法

- ・「探究活動のフェーズごとのルーブリック」，「SSH課題研究チェックリスト」を、先行研究調べ、仮説立案，論文作成等，それぞれの場面でポイントをチェックしながら活動させた【③-2，3参照】。
- ・課題研究に取り組む「K〇A-I・II・III」の授業で活用する「探究の手引き（教員用）」，「課題研究ノート（生徒用）」に著作権に関する注意を追加するなど，改善を図った。
- ・「探究の手引き」，「課題研究ノート」に掲載したQRコードから，発表要旨や研究論文の雛形にアクセスすることで，体裁の共有化を図った。

##### (4) 成果・課題

- ・「探究活動のフェーズごとのルーブリック」により，各フェーズにおける自らの研究への取り組みを具体的に自己評価できるようになった。
- ・「SSH課題研究チェックリスト」により，先行研究調べ，仮説立案，論文作成等，それぞれの場面でポイントをチェックしながら探究活動ができるようになった。

#### 2. K〇A-L

##### (1) ねらい

各教科における探究的な取組を整理し，各教科と各種の研修および課題研究とが連動して課題解決能力の育成に取り組む教育プログラムを開発する。

##### (2) 仮説

各教科が連携して実施する学習指導プログラムにより，課題解決能力を育成できる。また，課題研究の進捗や生徒の技能向上の段階に応じた時期や内容の研修を計画的に設定することにより，生徒の能力を進化させることができる。

##### (3) 内容・方法

探究的な学習推進リーダーを各教科に1名ずつ配置した。課題研究のみならず，すべての教科科目で「探究的な学び」や「創造的な視点」を取り入れた学習を推進し，探究的な学習推進リーダーが中心となり，各教科で大学教授等の助言者を招いての授業研究会を実施した。

#### (4) 成果・課題

学校設定科目の実践や校内研修の実施を通して、探究型学習の指導力向上に取り組んだ。年度末に「探究的な学習に関するアンケート」（教員対象）を実施して、その効果を検証している。このアンケートは各質問項目について、「5：とても当てはまる」「4：まあ当てはまる」「3：どちらともいえない」「2：あまり当てはまらない」「1：全く当てはまらない」の5点法で回答を求めるものである。半数以上の項目で平均値が4を超えており、探究型学習の定着が見られる（②-IV-5参照）。

### 3. 大学・研究機関・企業等と連携した研修・講座

#### (1) ねらい

最新の研究成果や高度な内容に触れ、授業で取り組む課題研究について幅広い視点で深く考えることができる力を養う。

#### (2) 仮説

生徒が大学や研究機関・企業の研究者から直接指導を受け、高度な設備の整った施設で実験等を体験することにより、先端研究への理解を深めるとともに、課題研究をすすめる上で必要な科学的視点を獲得することができる。

#### (3) 内容・方法

1・2年生希望者を対象に、下表の通り計画・実施した。

実施日	研修・講座名	内容等	対象生徒
7月17日(木)	化学系企業研修	・日華化学株式会社研究員による企業における化学研究の現状および界面活性剤に関する講義を聴講した。その後、界面活性剤の合成および評価を行う実験を実習した。	1・2年生希望者
7月30日(水) ・31日(木)	研究機関研修	・名古屋大学理学部 トランスフォーマティブ生命分子研究所にて研修を実施した。 ・世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ、トヨタ会館、自然科学研究機構核融合科学研究所での施設見学実習を実施した。	1・2年生希望者
10月2日(木)	若狭湾エネルギー研究センター研修	・センター所属の研究者の指導のもと、「アルデヒド脱水素酵素の遺伝子型判定」「 $\beta$ 線と $\gamma$ 線の吸収曲線の測定」等の7種より選択した実験研修に取り組み、その成果を発表した。	1・2年生希望者
1月13日(火)	統計学研修	・滋賀大学 西尾治幾助教による収集データの統計処理や分析方法についての講座を受講した。	1年生

#### 各研修・講座の様子等

##### 【化学系企業研修】

高校1・2年生の希望者29名が参加した。会社概要についての説明の後、3つのグループに分かれて、「化粧品製造所」「NIC(NICCA INNOVATION CENTER)」等の見学研修を行いました。製品を作るには働く環境、よりよい雰囲気作りも大切であることを学んだ。また、研究員による界面活性剤の働きに関する講義を受け、異なる活性剤で2種類のトリートメント作りに挑戦し、その効果の違いを検証する実験研修を行いました。参加した生徒からは、「自分の身近なところに、世界で活躍するような企業があることに驚いた。」「会社の中では、照明を少なくし、太陽光を直接取り入れて明るさを調整するなど、環境に気を配られていた。」「KoAの実験でも様々なことの対照実験を行うので、検証の方法など、この研修で学んだことを活かしていきたい。」等の声が聞かれた。



## 【SSH研究機関研修】

高校1・2年生の希望者31名が参加した。先端の科学技術や研究の現場に触れ、科学的知識や科学研究に対する理解・興味関心の向上を図り、将来的に大学院への進学や研究者・技術者を目指すきっかけを目的として、中京方面の大学や研究機関等で研修を行った。実施後には、本研修での学びを報告書にまとめ、報告会を実施した。研修報告書は校内に展示した。



### ①名古屋大学理学部 トランスフォーマティブ生命分子研究所訪問

南保正和特任准教授から全体説明を受けた後、生命農学研究科

大川妙子准教授から動物学について、佐藤良勝特任准教授からイメージングについて、土屋雄一郎特任教授から研究紹介を受けた。その後、実験設備の見学を行い、研究内容についての理解を深め、大学入学後の研究のイメージを膨らませた。「分野ごとの専門家が連携しながら、幅広い内容の研究に取り組んでいた。専門ごとの垣根を越えて、研究者たちが一体となって課題に向き合っている様子が印象的だった。」「教授や准教授の先生方と大学院生が和やかに会話を交わしている様子を目にし、分野の違いだけでなく立場の違いによる隔たりも感じられず、非常に良好な雰囲気が形成されていて、この環境が良い研究に繋がっているのだろうと感じた」等の声が聞かれた。



②世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ

国内外に誇れる世界最大級の淡水魚水族館で展示物の観察や体験型研修を通して、環境や生命の多様性についての理解を深めた。バックヤード見学では、水質検査室・臨床検査室・予備水槽を見学し、見えない部分で活かされている技術を知ることができた。「メコン川の魚もアマゾン川の魚もピラルクーなどの大きい魚はゆっくり泳ぎ、また、テッポウウオなどの小さい魚は外敵からいかにして身を守るか、どうやって餌を食べるかなどについて環境に適応しながら進化してきたことを強く実感した。」等の声が聞かれた。

### ③自然科学研究機構核融合科学研究所

核融合エネルギーの実現に向けたプラズマ物理や材料科学等の研究課題を扱う国立研究所を見学し、先端研究への理解を深めるとともに、各自が取り組んでいる課題研究を進める上で必要な科学的視点を得た。「核融合という発電方法を初めて知ったが、この方法が世に普及すれば持続可能な社会への大きな進歩となると思った。」「見学を通して、多くの人が未来の子どもたちのために日々試行錯誤を繰り返していることや実際に普及した後を見据えて研究を更に上のステージへと進めていることを知り感動した。」等の声が聞かれた。

### ④トヨタ会館

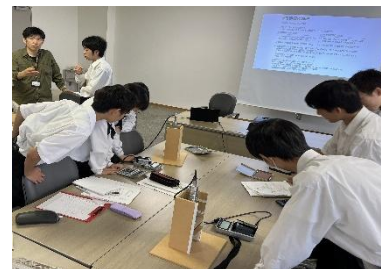
展示物の観察や体験型研修を通して、日本の産業、科学技術についての理解を深めた。自動車の製造プロセスや革新的な技術、最新の科学技術や未来の社会に向けたトヨタの取り組みについて学び、産業界の現実を理解し、科学技術がどのように社会を変えていくのかについて深く考えるきっかけとなった。

## 【若狭湾エネルギー研究センター研修】

高校1・2年生の希望者48名が参加した。7つの講座に分かれて高度な実験・観察等を行い、活動の内容・結果・考察等まとめて発表し、互いに活発な質疑応答を行った。

<講座テーマ>

「環境水等に含まれる微量金属分析」, 「プログラミングと近似計算の基礎」, 「アルデヒド脱水素酵素の遺伝子型判定」, 「β線とγ線の吸収曲線の測定」, 「金属の蒸発と薄膜生成実験」, 「発光ダイオードの特性と光子数の算出」, 「放射線による細胞内のDNA損傷の検出」



## 【統計学研修】

高校1年生全員に統計学研修講座を実施した。滋賀大学データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター講師の西尾治幾先生に、次の内容でご講義いただいた。

「実践！統計学を用いたデータ分析」

### 【講義】

- ・データの取り方
- ・統計手法（t検定，線形回帰，相関分析）
- ・フィッシャー統計学とベイズ統計学

### 【実習】

- ・菌根菌が植物の成長に与える影響（先輩の課題研究）
- ・ふくめしについてのアンケート（先輩の課題研究）



本講義は、講義と実習を織り交ぜて実施された。講義では有意差，相関関係と因果関係，統計学の発展の歴史などについて説明を受けた。実習ではこれらを用いて高志高校のこれまでの課題研究の実際のデータを元に、統計的研究手法を用いて自分達自身の課題研究がどうすれば説得力を持つものになるかを考えた。生徒たちは端末を用いて，2標本間に統計的な有意差があるかを調べるためのt検定の方法や2つのデータの間の相関係数の求め方などを実際に計算して確かめた。講義を通して，生徒たちは統計処理の方法やデータの解釈の方法など，課題研究を行う上で有用な考え方を理解することができた。生徒からは，「統計学を用いることで自分たちの研究が正しく立証できていることの証明となることが分かった」「データの優位性の確かめ方を実習で学んだので，今後の自分の研究に活かしたい」などの感想があった。以下は講義終了後に行った生徒アンケートの結果である。

①この講義を通して，課題研究における統計やデータの大切さについて理解できたか。

よく理解できた 54% ある程度理解できた 40.3%

②この講義を通して学んだことは，今後のあなたの課題研究に生かせそうか。あるいは有効だと感じたか。

とてもそう感じる 42% ある程度そう感じる 52.3%

③この講義を通して学んだことのなかに，数学や理科等の学習を進めていくうえで参考になる点があったか。

大いにあった 47.7% それなりにあった 46.6%

## (4) 成果・課題

- ・生徒たちに身近な話題や研究内容に根ざした研修・講座を実施することで，生徒は課題研究をすすめる上で必要な多角的な科学的視点をもつとともに，統計学への理解を深めることができた。
- ・学術研究を行っていく上での正しいデータの扱い方やその重要性について学ぶとともに，数学や理科で学ぶ内容をいかに実際の研究に生かすことができるかを知ることができた。

## 4. SSH講演会

### (1) ねらい

著名な研究者による講演をとおして，科学研究者としての心がまえや，研究に対する情熱に触れ，科学研究の意義や面白さ，社会と科学技術の関わりなどについての理解を深めるとともに，科学技術・研究への興味・関心を高める。

### (2) 仮説

大学・研究機関等と連携して事業を実施することにより，生徒の科学技術・研究に対する意欲を喚起することができる。

### (3) 内容・方法

- ・理化学研究所生命機能科学研究センター 先端バイオイメージング研究チーム チームリーダー 渡邊朋信 氏を講師に招き，「研究で幸せになる」のテーマでSSH講演会を開催した。高校生の1，2学年・中学生の全学年を対象とした。



#### (4) 成果・課題

- ・講演会後のアンケートでは、自然科学や科学技術について興味が「とてもわいた」「わいた」と79%の生徒が答えており、生徒の科学技術・研究に対する意欲を喚起することができた。
- ・研究者としての心構えや、研究内容の社会的意義などについても学ぶことができた。
- ・感想には、「自ら学ぶ力を身につけることの大切さに気づいた」「未来の社会を自分ごととして考えられた」「アナロジー思考という新しい考え方を活用し、思考力を高めていきたい」「出会いは奇跡である」「1回1回のチャンスがとても貴重なものであり、大切にしていきたい」など、個々に学びを得ていた。

### 5. 1年生課題研究テーマ報告会（2月）

#### (1) ねらい

今後、本格的に取り組んでいく課題研究について、研究テーマや研究計画を具体化する。また、研究内容について発表する機会を持つことで、プレゼンテーション能力の向上を図るとともに、多様な視点から研究を深めるヒントを得る。

#### (2) 仮説

課題研究の意義や先行研究、仮説立案、研究の方法をメンターに発表し、指導・助言をいただくことで、今後の見通しを立てることができる。また、課題研究の進捗や生徒の能力向上の段階に応じた発表経験を積むことで、プレゼンテーション能力等を向上させることができる。

#### (3) 内容・方法

理数創造コースにおいて、物理、化学、生物、地学、数学、家庭の各分野で、研究テーマや研究計画などの発表会を行い、9名の外部講師から指導・助言をいただいた。人文創造コースにおいても、国際課題と地域課題の分野で、1名の外部講師から指導・助言をいただいた。

#### (4) 成果・課題

発表会を実施したことで、生徒たちが他のグループの研究内容や手法を知り、自他の研究を客観的に捉え直すことができた。また、メンターからいただいた助言を研究内容の再構築に生かすことができた。



### 6. 2年生課題研究発表会（2月）

#### (1) ねらい

「K o A - II」において取り組んでいる課題研究について発表する機会を持ち、研究内容や進捗状況を共有するとともに、プレゼンテーション能力の向上を図る。

#### (2) 仮説

他の研究グループと交流を行うことで、より広い視野と豊かな感性を持ち、多様な立場で活躍する科学技術関係人材を育成することができる。

#### (3) 内容・方法

- ・本校中学生、高校1・2年生が参加した。中学生は一部の発表を聴講した。
- ・2年生全員による分科会でスライドを用いた口頭発表を実施した。
- ・SSH運営指導委員、コラボプロジェクト委員、希望する他校関係者および保護者が来校した。

#### (4) 成果・課題

- ・自らの課題研究に対して指導・助言をもらい、3年生の最終発表会に向けて仮説や研究方法、発表のまとめ方など様々な面を見直し、今後の活動に活かしていく機会となった。
- ・高校1・2年生、中学生等、異なる集団の発表交流の場となった。それぞれにとって、課題研究に対する異なるアプローチを学ぶ良い機会となり、様々な視点を身に付けることに効果があった。
- ・分野が近い研究を組み合わせた発表会にした。その結果、活発な意見交換がなされた分科会が多かった。高校1年生が司会・進行を務めたが、活発な質疑が行われるよう、どの分科会においても非



常に上手く会場の雰囲気作りを行ってくれた。今後も、司会・進行の能力の育成を継続するとともに、そもそもの土台として、発表を聴講しながら「問いを立てる」力を育てていくことが課題である。

## 7. 生徒研究活動発表会（3年生・7月）

### (1) ねらい

発表会を通して、生徒に科学探究の面白さを体感させ、科学を探究する心の育成とプレゼンテーション能力の向上を図る。

### (2) 仮説

文系・理系いずれも対象とした研究交流や相互発表等を行うことで、より広い視野と豊かな感性を持ち、多様な立場で活躍する科学技術関係人材を育成することができる。



### (3) 内容・方法

- ・高志中学校1～3年生および高校1・2年生の全クラスより、発表者以外の全校生徒が聴講者として参加した。
- ・今回の発表会は口頭発表（各科目代表グループ）およびポスター発表形式で実施した。

### (4) 成果・課題

- ・生徒一人ひとりが主体的に課題を設定し、実験や調査を通して得られた知見を論理的にまとめ、プレゼンテーションを行うことができた。
- ・それぞれの発表で活発な質疑応答がなされ、多角的な視点から研究内容を深めることができた。
- ・大学や教育委員会等の関係機関、他の中学校生徒、教員等、多数の参加があった。本校の研究開発が県内でも大きな注目を集めていることの証左であり、また第V期の主眼の一つである「成果普及」の観点からも非常に有意義な機会となった。
- ・口頭発表を各科目の代表グループが行ったため、内容が濃く、質疑応答も盛んにおこなわれた。
- ・発表会に参加した生徒の探究意欲をさらに高め、継続的な学びにつなげるために評価を簡略化したため観覧者が発表を聞くことに集中できるようになった。
- ・今回の発表会を、生徒のプレゼンテーション能力向上だけでなく、論理的思考力や問題解決能力を育成する場として捉え、発表内容や形式について更なる工夫が必要である。

## 8. 米国海外研修

### (1) ねらい

交流校や大学、研究機関等を訪問し、課題研究に関するプレゼンテーションや、合同研究活動等を行う。あわせて多様な考え方や価値観を学び、国際感覚を磨く。

### (2) 仮説

学習歴や将来の目標設定の持ち方などが異なる海外の高校生との課題研究発表や合同研究、また海外の大学生と課題研究等についてディスカッションすることにより、科学的探究に関する経験を広げ、柔軟な発想力や実践的な英語運用能力の向上および多様な立場で世界に貢献しようとする意欲の増進を図ることができる。



### (3) 研究内容・方法

- ・2年生希望者を対象に10月18日（土）より7泊9日の日程で一連の研修を行い、20名が参加した。ニュージャージー州とニューヨークを中心に、現地の高校、大学、国際機関で研修を行った。
- ・ニュープロビデンス高校では、課題研究について発表や意見交換を行ったほか、サイエンスクラブの特別講義、科学的な授業への参加、放課後のホームビジットを経験した。課題研究のプレゼンテーションは、理科、数学、情報の授業の中で行われ、当該分野の授業を受講する生徒に対して発表しディスカッションを行うとともに、担当教員から評価と助言を受けた。また、ニュープロビデンス高校STEM講座とのコラボレーションでは、投石器に関する合同実験研究を行い、実験結果に関する原因やよりよい結果を得るための手法について英語で討議した。

- ・ラトガース大学とプリンストン大学では、大学生の案内で研究室を見学するとともに、大学生の学問分野についての説明やそれに関する質疑応答を行った。同時に、国際的に学術研究をすることの魅力にも触れた。
- ・ニューヨークでは、アメリカ自然史博物館、メトロポリタン美術館、国連本部を現地ガイドによる英語での説明を聞きながら見学し、世界の課題解決に科学がどのように貢献できるのかを学ぶとともに、英語で意見交換や質問を行った。

#### (4) 成果・課題

- ・現地の高校生、高校教員、大学生に対して課題研究のプレゼンテーションを行い、内容について議論することで、研究の課題を把握するとともに、研究意欲が高まった。
- ・英語でのディスカッションを通して、英語運用能力が大きく向上した。
- ・トップレベルの大学の学生と議論したり、大学施設を見学したりすることで、学問、特に自然科学探究への意欲が高まった。
- ・昨年度、現地高校生に対する課題研究の発表の一部において聞き手の背景知識や理解度、学習意欲の差などにより、プレゼンテーションの理解が不十分になったり、その後の質疑応答を通じた議論を深めることができなかつたりしたという課題があった。この点を踏まえ、今年度は事前に研究内容を共有することであらかじめ背景知識を補足し、聴衆である現地高校生に事前に質問を考えておいてもらったことで、今年度はより活発な質疑応答がなされた。

### 9. シンガポール海外研修

#### (1) ねらい

大学ランキング上位に位置する大学や、国営の研究機関等を訪問し、課題研究に関するプレゼンテーションや最先端の実験等を行う。あわせて多様な考え方や価値観を学び、国際感覚を磨く。



#### (2) 仮説

大学や研究機関、行政機関等での講義や研修、施設見学等をとおして、世界的視野での科学研究や社会の課題解決の取組について学び、国内外で多様な立場で社会に貢献しようとする意欲を喚起できる。また、現地大学における課題研究についての発表や講義受講、文化交流等とおして研究意欲を高めるとともに異なる考え方や文化に触れ、世界の多様性を学ぶことができる。研修は英語で実施し、主体的な発表や具体的議論をとおして英語運用能力の向上を図る。同時に他民族国家であるシンガポールにおいて、教育機関・現地学生と交流議論を重ね、また食・歴史・文化に触れることで、多様な考え方や価値観を学び、国際感覚を磨く効果を得ることができる。

#### (3) 研究内容・方法

- ・2年生希望者を対象に10月18日(土)より4泊6日の日程で一連の研修を行い、29名が参加した。シンガポール国立大学やナンヤン工科大学、ガーデンズバイザベイ、スマート農園等にて研修を行った。
- ・シンガポール国立大学ではAIが現代まで進化してきた流れや、実際にプログラミングを用いてAIの仕組みについての講義を英語で受講した。また、所属している大学生と交流セッションによる相互の国や文化等についてのプレゼン並びに理系的課題探究テーマに関して発表があった。特に研究発表に関する現地大学生からの指摘や助言が大変的確で今後の研究の参考になった生徒が多くいた。
- ・ナンヤン工科大学では航空宇宙論についての講義を英語で受け、キューブサーキット組み立てワークショップを行った。内容が大変高度で専門用語が多く聞き取りに苦戦する生徒もいたが、大学生のサポートもあり無事最後まで作業を行うことができた。
- ・スマート農園では施設見学を通して、水不足や農地不足に悩む国が食料自給率を維持するために、水耕栽培や最新のバイオ技術などを学んだ。

- ・ ガーデズバイザベイでは熱帯に属する植生について学ぶことができた。

#### (4) 成果・課題

- ・ 現地大学教員・学生で講義やレクチャーを受けることで、AIに関する基本的な知識やAI技術の根本となるプログラミングの利用方法を学ぶことができた。
- ・ 英語でトップレベルの大学の大学生とディスカッションしたり大学施設を見学したりすることによって、英語運用能力の大きな向上が得られた。
- ・ 海外では日本では大きな問題になっていないことも、国をあげて取り組まなければならないほどの課題があることなど、改めて日本の科学技術が進んでおり、恵まれた環境に自分たちがいることを知る大変良い機会となった。
- ・ シンガポールは多国籍国家であるため、英語にも様々な特徴があり、本校生徒の英語力では聞き取れないこともあった。自ら英語で表現する力の向上が必要であると感じた。

### 10. 香港海外研修

#### (1) ねらい

現地の大学や研究施設等での研修により、世界的視野での科学研究と社会課題解決の関連性を学び、国内外で多様な立場で社会に貢献する意欲を喚起する。また、交流相手校での課題研究発表や合同授業を通じ、研究の課題や意義を明確にするとともに、科学的文脈における英語コミュニケーション能力の向上を図る。



#### (2) 仮説

物理学・工学の最先端現場である輸送インフラ施設や宇宙科学施設での視察、および現地の進学校や都市大学の学生との英語によるディスカッションを行うことで、科学技術の社会実装に対する理解を深めることができる。また、異なる文化背景を持つ聴衆に対して自身の課題研究をプレゼンテーションするプロセスを経て、論理的思考力と国際的な研究発信能力の向上が期待できる。

#### (3) 研究内容・方法

- ・ 2年生の希望者16名が参加し、令和7年10月19日（日）より6泊7日の日程で実施した。
- ・ Bishop Hall Jubilee Schoolにおいて、自身の課題研究に関する英語プレゼンテーションを実施した。専門内容を論理的に説明し、質疑応答に対応する即興性を磨くとともに、現地の授業参加やキャンプ合宿を通じて異文化間での協調性と問題解決能力を高めた。
- ・ 城市大学では、講義聴講、研究室見学および大学生とのディスカッションを行い、学術的な探究心を高めた。日本と香港の学術環境の違いを比較し、将来の専攻選択やグローバルなキャリアパスについて多角的に検討した。
- ・ 香港の先進的な科学施設およびインフラ拠点を視察した。香港太空館では、宇宙飛行の歴史や天体の性質について、高精細映像や展示を通じた体験的学習を行い、英語による解説を通じて天文学・宇宙科学分野の国際的な知見に触れた。香港地下鉄ライトレール車両基地では、物理学・工学の視点から「力学（加減速・摩擦）」「電磁気学（モーター・ブレーキ）」「熱力学（空調システム等）」の応用実例を視察し、車両設計や運行管理システム等の実際について現地スタッフと専門的な質疑応答を行った。

#### (4) 成果・課題

- ・ 企業や科学施設での現場視察を通じ、自然科学の理論が高度な社会実装へと繋がる過程を多角的に理解するとともに、理系分野における英語での情報収集・発信能力を養った。
- ・ 交流校でのプレゼンテーションでは、異文化の聴衆に合わせた表現を工夫することで、専門的な内容を英語で論理的に伝える実践的な能力が培われた。
- ・ 現地の大学生との対話により、国際的な研究環境への適応力や自己表現力の重要性を再認識し、将来設計を広い視野で捉え直す機会となった。
- ・ 事前研修においてプレゼンテーション原稿やスライドの推敲を重ねたが、現地での質疑応答におい

て、より専門的な用語を用いた深い議論に対応するためには、科学英語の語彙力強化が継続的な課題として挙げられる。

- ・ 大学訪問や B&S 班別プログラム等の計画段階から、現地の学生とより密な科学的交流を行うための仕掛け作りをさらに検討する必要がある。

## 11. 外国人研究者による科学レクチャー（サイエンスダイアログ）

### （1）ねらい

外国人研究者による講義を聴くことで、話の論理的な構成の仕方や、科学的内容のプレゼンテーションの展開方法を学ぶ。高度な研究内容や研究者の生活の様子に触れ、科学に対する学習意欲を向上させる。



### （2）仮 説

外国人研究者より科学的な刺激を受けることで、実践的な英語運用能力と多様な立場で世界に貢献しようとする意欲を育てることができる。

### （3）内容・方法

- ・ 今年度は、希望者を対象に実施した。日本学術振興会（JSPS）のサイエンスダイアログプログラムを活用し、国内で活躍する外国人研究者を招き、研究内容等についての講義を依頼した。
- ・ 講師にインド出身で、京都大学で研究する Dr. Srijon GHOSH 氏を迎えた講義には 17 名が参加した。超高速分光による核酸塩基の光化学素過程に関する難解な講義ではあったが、生徒たちは熱心に聴講していた。

### （4）成果・課題

- ・ 海外から来日している研究者の経験を聞くことで、科学に対する学習意欲へのよい刺激となり、さらには、海外で学ぶことへの関心を強く持った生徒もいた。
- ・ 英語での質疑を通して、自分の考えを英語で表現することができ、かつ、やりとりをすることができる、という自信をつけることができた。
- ・ 研究者として、科学を学ぶ基本的な心構えを生徒に伝えてくれた。
- ・ 専門分野に関する英語の中には生徒の理解を超えたものもあった。
- ・ 実験等を含む内容にできれば、さらに生徒の意欲を喚起すると思われる。

## 12. SSH英語コミュニケーション研修

### （1）ねらい

- ・ 英語に関する論文を読んだり、英語によるスピーチを聞いたりすることで、科学についての興味関心を喚起する。
- ・ 科学的なテーマで英語によるディスカッションを行い、県内ALTからの助言指導のもと、英語運用能力の向上を目指す。
- ・ ディスカッション後に英語で質疑応答をしたり、英語でスピーチを行うことにより、英語を的確に理解したり説明したりする力を身に付ける。

### （2）仮 説

特定の能力向上に焦点を当てた活動を授業時間外で展開することにより、生徒の課題解決能力の育成に向けた種々の取組を補完することができる。

### （3）内容・方法

- ・ 1・2年生希望者を対象とし、放課後に実施した。参加生徒 22 名を小グループに分け、グループごとに県内各校より招いたALT12名を配置（ALT1名に対し生徒2～3名）し、英語でディスカッションを行った。
- ・ ALTの経験を聞いたり、他のメンバーの意見を聞いたりすることで、複眼的に思考しながらディスカッションに取り組むことができた。

### （4）成果・課題

- ・ 参加した生徒、特に来年度選択型研修旅行で海外コースを選択しようとしている生徒にとって、少

人数のグループで、全活動を通して英語でコミュニケーションを図るという経験ができた。特に1年生については、文理を問わず応募者があり、積極的に活動していた。

- ・科学的なトピックについて、興味関心を持つことができたと同時に、理解した内容や考えたことを英語で論理的に表現する経験ができた。
- ・今年度は日程の調整が難しく、学年末考査直前にしか実施できなかったこともあり、例年に比べて参加希望者が少なかった。また、今年度の研修では、プレゼンテーション技法までは扱うことができなかった。次年度以降はプレゼンについても触れることができる企画としたい。

### 13. 「K o A - L Map」について

#### (1) ねらい

探究の時間だけでは身に付けさせることが難しい探究に必要な8つの力を、各教科が連携して育成に取り組むことができるよう、各教科の3年間の学習において、各教科が教育課程のどの段階で、どのような資質・能力を育成しようとしているか「見える化」するMapを作成することで、効果的な育成を図る。

#### 探究に必要な8つの力

- |                |
|----------------|
| ①理解力・分析力・情報活用力 |
| ②表現力・発表力       |
| ③質問力・批判的思考力    |
| ④論理的思考力        |
| ⑤創造力・問題解決力     |
| ⑥コミュニケーション力    |
| ⑦協働・協調・リーダーシップ |
| ⑧内省する力・調整力     |

#### (2) 仮説

「K o A - L Map」を活用することで、各教科・科目の授業においても探究に必要な8つの力を意識して、「探究的な学び」や「創造的な視点」に立った授業を展開することができる。また、教科・科目を越えて連携し、計画的に内容を配置することができる。

#### (3) 方法

各教科で新たな取組を考案し、各教科を代表するSSH委員や探究的な学習推進委員が中心となって、「K o A - L Map」の修正・活用を行った【③-4参照】。また、Map上で実際に行った授業における指導案等を蓄積した。

#### (4) 成果・課題

- ・新課程に対応する新たな取組を「K o A - L Map」に位置付けることができた。また、授業における指導案を保存することで、より授業の内容を精選できた。さらに他教員がこの指導案を参考にすることで教科横断型授業への理解度を高めることができた。
- ・「K o A - L Map」を活用して、複数教科連携型の探究的授業を行う回数が増えた。また各教員が生徒を指導する中で他教科とのかかわりを意識するようになった。

### [3] 課題解決能力の伸長度を総合的に評価する手法

#### 1. 「探究活動の各フェーズにおけるルーブリック」を活用した観点別評価

第IV期に「探究活動の各フェーズにおけるルーブリック」を作成した。作成にあたり、「ルーブリックを用いた探究の評価」に関する分野に造詣の深い、兵庫教育大学の徳島祐祐助教に指導していただいた。完成したルーブリックを研究ノートに掲載した。「探究活動の各フェーズにおけるルーブリック」をもとに、課題研究の取組について観点別評価を行った【③-2, 9参照】。

#### (1) ねらい

課題研究に観点別評価を導入することにより、身に付けるべき資質・能力について、生徒と支援する教員がより一層共通認識を持つための契機とする。担当教員が生徒の成長を楽しみながら、生徒が失敗しても励まし支援し、失敗を恐れず積極的に挑戦できる環境を整える。

#### (2) 方法

「K o A - I・II・III」での課題研究の取組について、「探究活動のフェーズごとのルーブリック」を活用した観点別評価を行った。

#### (3) 成果・課題

生徒と担当教員が「ルーブリック」や「チェックリスト」を一緒に点検し、研究の進捗状況を確認する場面が増えた。また、観点別評価を行う上で最も大きな根拠となる「課題研究ノート」への研究方法、研究結果、考察等の記載内容の充実度が、過年度生と比較して、格段に向上した。

## 2. 生徒の自己評価能力を向上させる取組

### (1) ねらい

課題解決能力の伸長について、生徒が適切に自己評価できるようにする。

### (2) 仮説

KoAの時間に、毎回、その日の活動について、「批判的思考」「協働的思考」「創造的思考」の3観点で振り返りを行う時間を短時間設け、研究ノートに5点法で記入(Google Formにも入力)することで自己評価能力が高まる。

### (3) 検証方法

「KSA」における肯定的自己評価、「GPS」による客観評価の結果を分析し、成果を検証した。

### (4) 分析結果

- ・「KSA」における肯定的自己評価の結果、令和7年度3年生のKSA調査について、1年生次との比較で、全67項目のほとんどの項目で伸長した。特に3年生次2回目(7月実施)での伸長が大きく、課題研究最終発表会の達成感の現れであろう【③-7参照】。
- ・「GPS」による客観評価の結果、大学生平均との比較では、1・2年生ともに「思考力」は3観点バランスよく上回っているという結果であった。「姿勢・態度」については、「リーダーシップ」の項目が一番上回っており、自主性やチャレンジ精神を育むことができているという結果であった。【②-IV-1参照】。

## 3. 電子ポートフォリオ

### (1) ねらい

課題研究の材料やレポート、成果物等をはじめ、様々な学習活動の記録になるもの(ポートフォリオ)を電子データとして蓄積することで、活動の振り返りや評価をよりしやすくする。

### (2) 仮説

学習の成果物を蓄積することで、学習活動の振り返りが容易になり、より妥当性の高い自己評価や教師による評価が可能になる。また、多面的な視点からの生徒の実態把握が可能になる。

### (3) 内容・方法

- ・Chromebookが1年～3年生の全生徒に1台ずつ貸与されている。Googleが提供する一連のサービス(「Google Classroom」「Google Drive」「Google Slide」「Google Document」「Google Spreadsheet」「Google Form」)の活用を引き続き行った。
- ・「Google Drive」に各グループ専用フォルダを作成し、そのフォルダに上述のアプリを使用して発表資料、論文、実験データ(記録写真含む)を蓄積し、生徒に一元管理するよう指導した。また、「Google Form」を利用して、SSH講演会や統計学研修、若狭湾エネルギー研究センター研修、研究機関研修などの各種SSH事業、メンター指導の振り返りレポート、KoAの時間の終わりに毎回入力する自己評価、KSAへの回答を回収蓄積した。

### (4) 成果・課題

- ・Googleが提供するサービスを活用することにより、生徒によるデータの一元管理や振り返り、教師による評価が容易になった。また、Googleの一連のサービスは学校外からでも利用できるため、生徒の自発的な学びでの活用が増えている。

## [4] 研究開発成果の発信・普及 ～課題研究発表会や教員研修会の開催～

### 1. 探究型学習会(教員対象)の開催

#### (1) ねらい

先導的改革型SSH指定校として、研究の成果を発信したり、教員研修の機会を作ったりすることで、福井から多様な科学的探究力を備えた科学技術人材をより多く育成するとともに、他の小・中・高等学校における探究活動の充実に貢献することを目指す。

#### (2) 仮説

教員対象の研修会等で、本校の研究開発の成果を発信したり、各学校の課題研究の取組みや指導

方法・評価方法等についての情報交換や研修等を行ったりすることで、県内外の探究活動の充実に貢献することができる。

### (3) 内容・方法

「福井県合同課題研究発表会」の同日に教員研修会を開催したほか、県内中高の教員対象の「探究ワークショップ」を実施した。研修会の内容は以下の通りである。

[福井県課題研究教員研修会]

- ・『福井県合同課題研究発表会』と並行して実施する（3月14日実施予定）。
- ・先導的改革型SSH指定校としての本校の研究成果を発信する。
- ・各校で実施されている外部発表会の開催時期・内容、実施や参加にあたっての課題を共有する。
- ・発表会の分科会・ポスター発表を参観し、指導者の知見を広める。

[探究ワークショップ]

- ・「教育と探求社」と共催し、福井県内の教員を対象に全5回実施した。本校の実践事例を発信するとともに、研修を行った。

令和5年度 第1回「教科と探究における“問い”について考える」

令和5年度 第2回「学びを生み出す“ファシリテーション”」

令和6年度 第3回「～先生方と考える“人生において大切なもの”自己探究～」

令和6年度 第4回「～生徒が自ら考えたいくなる問い～」

令和7年度 第5回「～探究学習で大切にしたい願いを考える～」

### (4) 成果・課題

- ・福井県課題研究教員研修会では、各学校での取組を共有するとともに、発表会における効果的な評価についてポスター発表を通して研修し、自校での発表会にも活かせるようにした。また、令和5年度にスタートした探究ワークショップをこれまでに5回実施し、のべ59校93名の教員が参加した。

## 2. 福井県合同課題研究発表会

### (1) ねらい

県内外のSSH指定校や課題研究に取り組む高等学校、および研究活動を行う小学校、中学校の研究発表の機会を充実させるとともに、各校の研究の深化と参加校間の研究交流に寄与する。

### (2) 仮説

課題研究の発表を介して県内小・中学、および県内外の高校との交流を図ることで、本校の研究の成果を広く発信することができる。同時に、本校および参加各校の課題研究の充実に資することができる。

### (3) 内容・方法

県内小・中学校、および県内外の高校からの参加者による、分科会形式の口頭発表、およびポスター発表を実施した。

### (4) 成果・課題

県内外に広く参加を募り、各学校が取り組む課題研究の発表や交流の場として実施しており、今年度の発表予定学校数は18校、口頭発表66件、ポスター発表88件の発表会となる予定である（3月14日開催予定）。成果発信の場として十分な成果を挙げている。

## 3. 「高志の学びフェア ～きて、みて、探究。～」

### (1) ねらい

- ・県内の中学生を対象として実験・実習を主とした講座を行い、高志高校の探究型学習に関する研究成果を広く公開する。
- ・本校生徒がアシスタントとして講座に参加することで、本校生徒の技能向上や知識定着を図るとともに、自然科学に対する興味関心を高め、科学的好奇心を一層喚起する。

## (2) 仮説

高志高校 SSH を中心として実施している課題研究や探究型授業の取り組みを中学生に広く体験してもらうことで、本校での取り組みについて県内に周知するとともに、その成果を広く県内中学生に普及させることができる。

## (3) 内容・方法

- ・ 県内中学2年生を対象に、10 講座（下表）を開講し、授業体験を実施する。
- ・ 本校生徒が実験補助や会場案内等のアシスタントを務め、参加中学生と交流する。

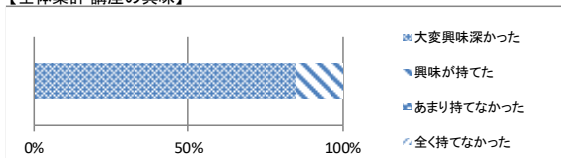
### 【実施講座】

領域	講座題目	講座内容
数学	身近なもので数学する	班を編成し、班の中で話し合いながら、身近なものを数学的に考えていきます。
物理	LEGOマインドストーム基礎実習	LEGOマインドストームを用い、小惑星探査機「はやぶさ」に代表されるような自律制御の基礎を実習を通して学びましょう。
化学	探究理科基礎実験	4人1組を6班編成し3種類の実験を2班ずつ交替で行います。実験の内容としては、濃度別溶液の調整、分光光度計を用いた濃度測定、抽出を行います。
生物	酵素について考えよう！	3人グループで、酵素のはたらきを立証する実験を、計画・実施・発表（全員）まで行います。
情報	日常のデジタルを体験しよう	日常生活で用いられているプログラミングについて学び、プログラミングに必要なスキルを学びましょう。
生活科学	洗濯の科学	界面活性剤の動きから、洗濯を科学的に考察します。3～4人グループで簡単な洗濯の実験を行います。
芸術と科学	夏の思い出を表現しよう	音楽、美術、書道の観点から芸術とは何かを学び、「夏の思い出」をテーマに作品を制作・鑑賞します。
国語	リファレンス アンド プレゼンテーション	探究学習とは何かを学び、テーマ別にグループに分かれて、図書室の書籍を使って実践し、その成果をプレゼンテーションします。
英語	英語で話してみよう	英語でのゲームや、身近なトピックについての会話、3人でペアになってディベートをしたりします。
社会	フィールドワーク ～ふくいの今と昔と未来～	高志高校周辺のフィールドワークに出かけ、過去と現在の地域の違いについて学び、今後の福井について考えます。（小雨決行。荒天時は高志高校内での活動となります。）

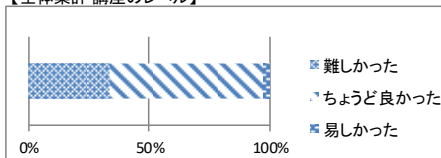
## (4) 成果・課題

- ・ 県内中学2年生 101 名の参加があり、どの講座においても積極的に活動する様子が見られた。
- ・ 昨年度より3講座多い10講座を開講できたことで、本校教員にとっても、普段の授業での実践について教科ごとに振り返る機会となった。
- ・ アンケート結果（下表）より、ほとんどの受講者から好意的な評価を得ている。本校の探究活動の取組を発信するよい機会となった。

【全体集計 講座の興味】



【全体集計 講座のレベル】



## 4. ホームページ、「SSHだより」等の媒体による成果発信

### (1) ねらい・仮説

ホームページや「SSHだより」を活用して成果を発信すれば、本校SSH研究開発に対する認知が広まり、他の高等学校における「総合的な探究の時間」等の充実に役立つ。

また、高志高校に入学を希望する中学生、高志中学校に入学を希望する小学校が増える。

### (2) 内容・方法

- ・ 積極的にホームページで成果を発信し、「SSHだより」（年2回）を刊行する。

### (3) 成果・課題

- ・ 計画どおりホームページでの積極的な成果発信、「SSHだより」の年2回の刊行ができた。
- ・ 「高志高等学校＝SSH指定校、課題研究に全校生徒が取り組む高校」というイメージが、広く県民に定着してきている。

・高志高等学校の入学選抜の実質倍率\*が、県内最高を継続（平成16年度入試以来、22年連続）している。令和8年度 1.97倍 令和7年度 1.82倍 令和6年度 1.90倍 令和5年度 1.39倍

\*実質倍率：第2志望の学科と合わせた全体の総志願者数を総募集枠で割った倍率のこと。本県では、複数の学科が設置されている高校に於いては、第1志望学科に合格できなかった場合、第2志望の学科に入学できる制度が設けてあるため、1つの学科に志願者が集中する場合がある。

## ②-Ⅳ 実施の効果とその評価

### 1 「批判的思考力」、「協働的思考力」、「創造的思考力」の伸長についての効果

本校では、1・2年生を対象に毎年12月にベネッセのGPS-Academic 中高版（以下、GPS）を実施している。令和7年度よりGPSは実施形態が変わり、社会で求められる力を測る観点として客観的評価の「思考力」「姿勢・態度」、主観的評価の「経験」の3項目を評価する検査となった。思考力については、さらに「批判的思考力」「協働的思考力」「創造的思考力」の3要素を、選択問題（CAT方式）により測定している。なお、GPSは大学生や社会人との一貫した指標に基づき比較可能であるため、本校では主に思考力および姿勢・態度の結果を他集団と比較・検証し、指導の改善・検証に活用する。過年度との比較について、ベネッセコーポレーションより提供の参考値を後述する。

#### 【測定している項目】

思考力	批判的思考力	情報を抽出し吟味する 論理的に考える	経験	自己管理	挑戦する経験 続ける経験 ストレスに対処する経験
	協働的思考力	他者との共通点・違いを理解する 他者を尊重し、ともに問題解決を進める		対人関係	多様性を受容する経験 関係性を築く経験 議論する経験
	創造的思考力	情報を関連づける 問題をみだし解決策を考える		計画・実行	課題を設定する経験 解決策を立案する経験 実行・検証する経験
姿勢・態度	レジリエンス	感情の制御（ストレス耐性） 立ち直りの早さ（回復力） 状況に応じ冷静に対応する力（自己統制力・柔軟性）			
	リーダーシップ	自ら先頭に立って進める力（自主性・率先性） 粘り強くやり抜く力（持続力・誠実性・勤勉性） 未知のものに挑戦する力（チャレンジ精神・開放性）			
	コラボレーション	相手の立場に立とうとする姿勢（共感性） 他者と関わろうとする積極性（外向性・親和性）			

#### 【結果】

令和7年度2年生 GPS全体結果

実施年度・学年	受検人数	思考力			姿勢・態度			
		思考力 総合	批判的 思考力	協働的 思考力	創造的 思考力	レジリ エンス	リーダ ーシッ プ	コロ ボ レーシ ョン
令和7年度 高2	234	50.5	50.2	50.6	52	47.9	49.4	50.8
令和5年度 大学平均	131,607	42.3	42.2	43.4	41	48.1	47.2	49.8
差		8.2	8	7.2	11	-0.2	2.2	1

令和7年度1年生 GPS全体結果

実施年度・学年	受検人数	思考力			姿勢・態度			
		思考力 総合	批判的 思考力	協働的 思考力	創造的 思考力	レジリ エンス	リーダ ーシッ プ	コロ ボ レーシ ョン
令和7年度 高1	236	50.7	51.3	50.9	51.9	47.9	48.9	50.4
令和5年度 大学平均	131,607	42.3	42.2	43.4	41	48.1	47.2	49.8
差		8.4	9.1	7.5	10.9	-0.2	1.7	0.6

#### 【参考】

令和7年度実施のGPS思考力総合結果をもとに、同じ能力の人が令和6年度GPSを受けたらどうなるのかをシミュレーションした結果の参考値を掲載。令和6年度までのGPSはS～Dの評価であり、高校段階で目指したいレベル「A評価」の各観点の基準は次のとおりである。

批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力
提示された資料から必要な情報を抽出し、その情報を客観的かつ正しく評価できる。	他社の信念や価値観を理解・尊重しながら、一定の条件下で合意形成ができる。	資料をもとに、よりよい解決策を選択したり他の事例に応用したりできる。

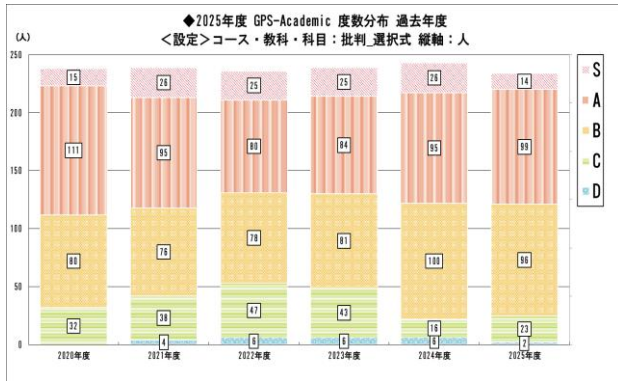
令和7年度2年生参考結果

批判的思考力(選択式)				協働的思考力(選択式)				創造的思考力(選択式)						
レベル	今回	前回	昨年度	一昨年度	レベル	今回	前回	昨年度	一昨年度	レベル	今回	前回	昨年度	一昨年度
S	14(6%)	23(10)	26(11)	25(10)	S	2(1%)	7(3)	2(1)	22(9)	S	2(1%)	7(3)	18(7)	5(2)
A	99(42%)	81(34)	95(39)	84(35)	A	94(40%)	90(38)	118(49)	104(44)	A	43(18%)	51(21)	65(27)	63(26)
B	96(41%)	105(44)	100(41)	81(34)	B	113(48%)	103(43)	87(36)	80(33)	B	124(53%)	102(43)	108(44)	115(48)
C	23(10%)	25(11)	16(7)	43(18)	C	24(10%)	35(15)	35(14)	29(12)	C	63(27%)	74(31)	51(21)	53(22)
D	2(1%)	4(2)	6(2)	6(3)	D	1(0%)	3(1)	1(0)	4(2)	D	2(1%)	4(2)	1(0)	3(1)

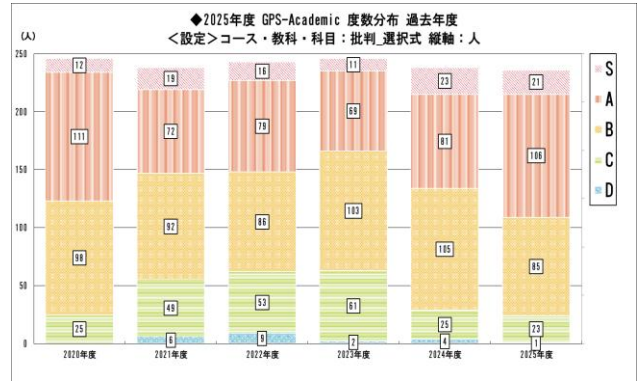
令和7年度1年生参考結果

批判的思考力(選択式)					協働的思考力(選択式)					創造的思考力(選択式)				
レベル	今回	前回	昨年度	一昨年度	レベル	今回	前回	昨年度	一昨年度	レベル	今回	前回	昨年度	一昨年度
S	21(9%)		23(10)	11(4)	S	2(1)		7(3)	6(2)	S	0(0%)		7(3)	4(2)
A	106(45%)		81(34)	69(28)	A	108(46)		90(38)	99(40)	A	39(17%)		51(21)	44(18)
B	85(36%)		105(44)	103(42)	B	97(41)		103(43)	86(35)	B	135(57%)		102(43)	127(52)
C	23(10%)		25(11)	61(25)	C	27(11)		35(15)	49(20)	C	60(25%)		74(31)	68(28)
D	1(0%)		4(2)	2(1)	D	2(1)		3(1)	6(2)	D	2(1%)		4(2)	3(1)

批判的思考力度数分布の過年度比較(2年生)



批判的思考力度数分布の過年度比較(1年生)



【考察】

大学生平均との比較では、1・2年生ともに「思考力」は3観点バランスよく上回っているという結果であった。「姿勢・態度」については、「リーダーシップ」の項目が一番上回っており、自主性やチャレンジ精神を育むことができているという結果であった。

参考値との比較では、2年生は1年次と比較して「批判的思考力」がA以上の割合が増加、「協働的思考力」「創造的思考力」はC、Dの累積が減り、B以上が上昇する結果がみられた。1年生は過年度生と比較して「批判的思考力」「協働的思考力」が上位レベルに分布しており、「創造的思考力」は例年以上にBに多く分布しているという結果であった。

＜伸ばした理由として考えられること＞

- ・「ルーブリック」や「チェックリスト」を生徒があらかじめ確認して研究に取り組んだことや、実験の結果や進捗状況を記録することの重要性を日常的に指導したことにより、「課題研究ノート」の記述がより充実し、「批判的思考力」の向上にも効果があった。
- ・「課題研究テーマ報告会」や「中間発表」などの研究の途中経過を報告する場面を設けたことから、相手の説明を鵜呑みにせず多角的な視点から聞くことにより、「批判的思考力」の伸長に効果があった。また、そこで見つけた問題点について解決策を生み出すことにより「創造的思考力」の伸長に効果があった。
- ・「外部の研究者からの研究支援」およびその際の「研究支援依頼書の作成」を通して、自分たちの研究のポイントを論理的にわかりやすく説明したり、改善点を検討したりすることにより、「批判的思考力」の伸長に効果があった。
- ・1年次に「データサイエンス」を学習することにより、情報を客観的かつ正確に用いることができるようになり、「批判的思考力」の伸長に効果があった。
- ・課題研究発表会で、事前に発表要旨を読み発表内容を理解するとともに、質問を考える時間を設けたことにより、「批判的思考力」の伸長に効果があった。

2 生徒の校外活動への効果

(1) 各種コンテストでの上位入賞が増加

「ふくい理数グランプリ」は、福井県内の中学・高校生の科学的な思考力・判断力・表現力を育成することを目的として、平成20年度から福井県教育委員会の主催で開催されている。高校生部門には本校からも毎年多数の生徒が参加している。令和7年度は高校生部門において、数学・生物・地学の各部門

で1位の成績を収め、2度目の総合1位で「第15回科学の甲子園全国大会」に県代表としての参加を決めた。中学生部門は、今年度も県代表として科学の甲子園ジュニア全国大会に出場することができた。今年度は中高揃っての全国大会出場となった。

令和7年度は、国際科学技術コンテストにおいて、化学オリンピックで銅賞・近畿支部長賞、数学オリンピック本選、女子数学オリンピック本選に出場するなど、理数系コンテストでの生徒の活躍が昨年度に引き続き多く見られた。

「ふくい理数グランプリ（高校生部門）」過去5年間の成績

年度	入賞	参加人数
R7	総合成績1位（第15回科学の甲子園全国大会出場権獲得） 数学最優秀賞、生物最優秀賞、地学最優秀賞、優秀賞2、奨励賞3 数学個人最優秀賞、数学個人優秀賞	58
R6	化学最優秀賞、優秀賞4、奨励賞2、数学個人優秀賞	63
R5	数学最優秀賞、数学個人最優秀賞、優秀賞4、奨励賞2	48
R4	総合成績1位（第12回科学の甲子園全国大会出場権獲得） 数学最優秀賞、物理最優秀賞、地学最優秀賞、優秀賞1、奨励賞3	45
R3	数学最優秀賞、化学最優秀賞、生物最優秀賞、優秀賞2、奨励賞2	60

「国際科学技術コンテスト」等の理数系コンテストの成績

年度	入賞
R7	数学オリンピック 全国大会出場 女子数学オリンピック 全国大会出場 化学オリンピック 銅賞・近畿支部長賞 情報オリンピック 敢闘賞 日本学生科学賞 出場（福井県代表） 科学の甲子園 全国大会出場 科学の甲子園ジュニア 全国大会出場
R6	数学オリンピック 全国大会出場 ジュニア数学オリンピック 全国大会出場 情報オリンピック 地区敢闘賞（5名） 宇宙甲子園 全国大会出場（缶サット部門） 科学の甲子園ジュニア 全国大会出場
R5	情報オリンピック 全国大会出場（2名） 優秀賞・中部ブロック1位、 （国際情報オリンピック日本代表最終選考会出場） 数学オリンピック 全国大会出場（1名）、地区表彰（1名） 科学の甲子園ジュニア 全国大会出場

### 3 学校推薦型選抜入試・総合型選抜入試への効果

次の表は、理系生徒の総合型選抜入試および学校推薦型選抜入試における難関大学および医学科の合格実績をまとめたものである。いずれの入試においても、「学びの報告書」および「学びの設計書」に記載した内容をもとに出願書類を記載したり、面接の準備を行ったりした。

理系生徒の学校推薦型選抜・総合型選抜入試による難関大学・医学科の合格数	
年度	合格大学
R8	東北大1、名古屋大1、自治医科大2、福井大(医)1
R7	東京大1、大阪大(医)1、福井大(医)1
R6	名古屋大1、金沢大(医)2、福井大(医)1

### 4 成果発信の効果

#### (1) 福井県合同課題研究発表会

SSHでの取組成果の発信・普及を目的として、平成22年度から「福井県合同課題研究発表会」を福井県教育委員会とともに開催している。

この発表会は県内外に広く参加を募り、課題研究の発表や研究交流の場として定着している。

16回目を迎えた令和7年度は、口頭発表66件、ポスター発表88件の応募数がある（3月14日開催予定）。成果発信の場として十分な成果を挙げている。

「福井県合同課題研究発表会」発表件数の推移

年度	発表校・発表機関				発表件数		
	県内高校	県外高校	中学校	合計	口頭発表	ポスター発表	合計
R7	9	7	2	18	66	88	154
R6	9	6	4	19	66	95	161
R5	5	5	4	14	66	73	139

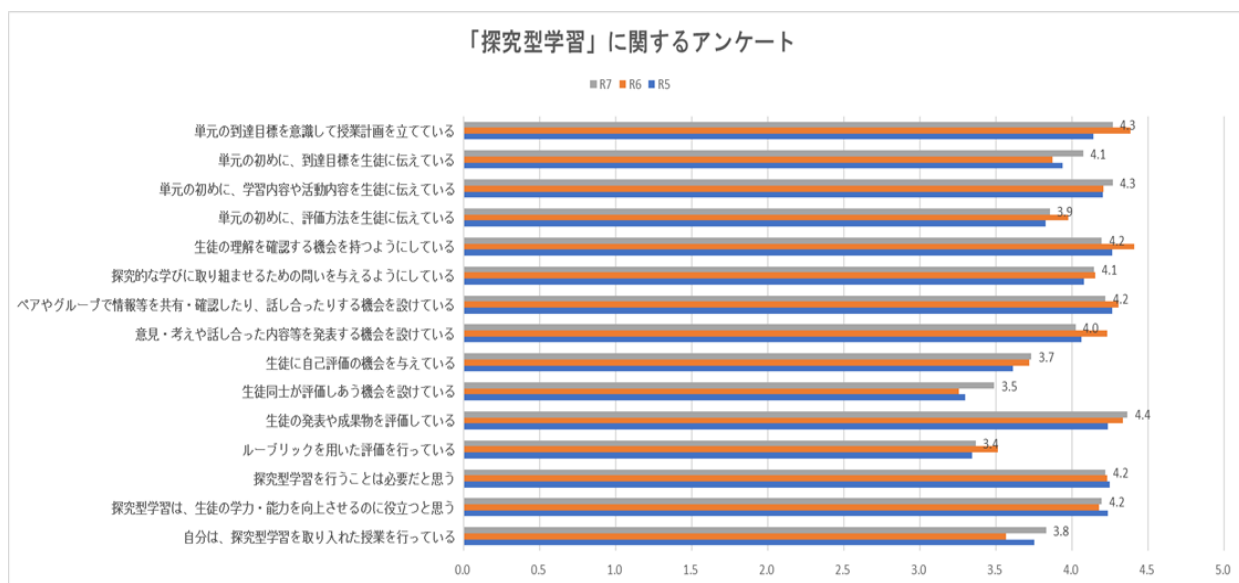
### 5 教職員や学校運営への効果

#### (1) 探究的な学習に関するアンケート（教員対象）

学校設定科目の実践や校内研修の実施を通して、探究型学習の指導力向上に取り組んだ。毎年度末に「探究的な学習に関するアンケート」（教員対象）を実施して、その効果を検証している。このアンケートは各質問項目について、「5：とても当てはまる」「4：まあ当てはまる」「3：どちらともいえない」「2：あまり当てはまらない」「1：全く当てはまらない」の5点法で回答を求めるものである。

令和5年度から令和7年の回答平均値の推移は、以下のとおりである。棒グラフの横の数値は、令和7年度の平均値である。半数以上の項目で平均値が4を超えており、探究型学習が定着してきてい

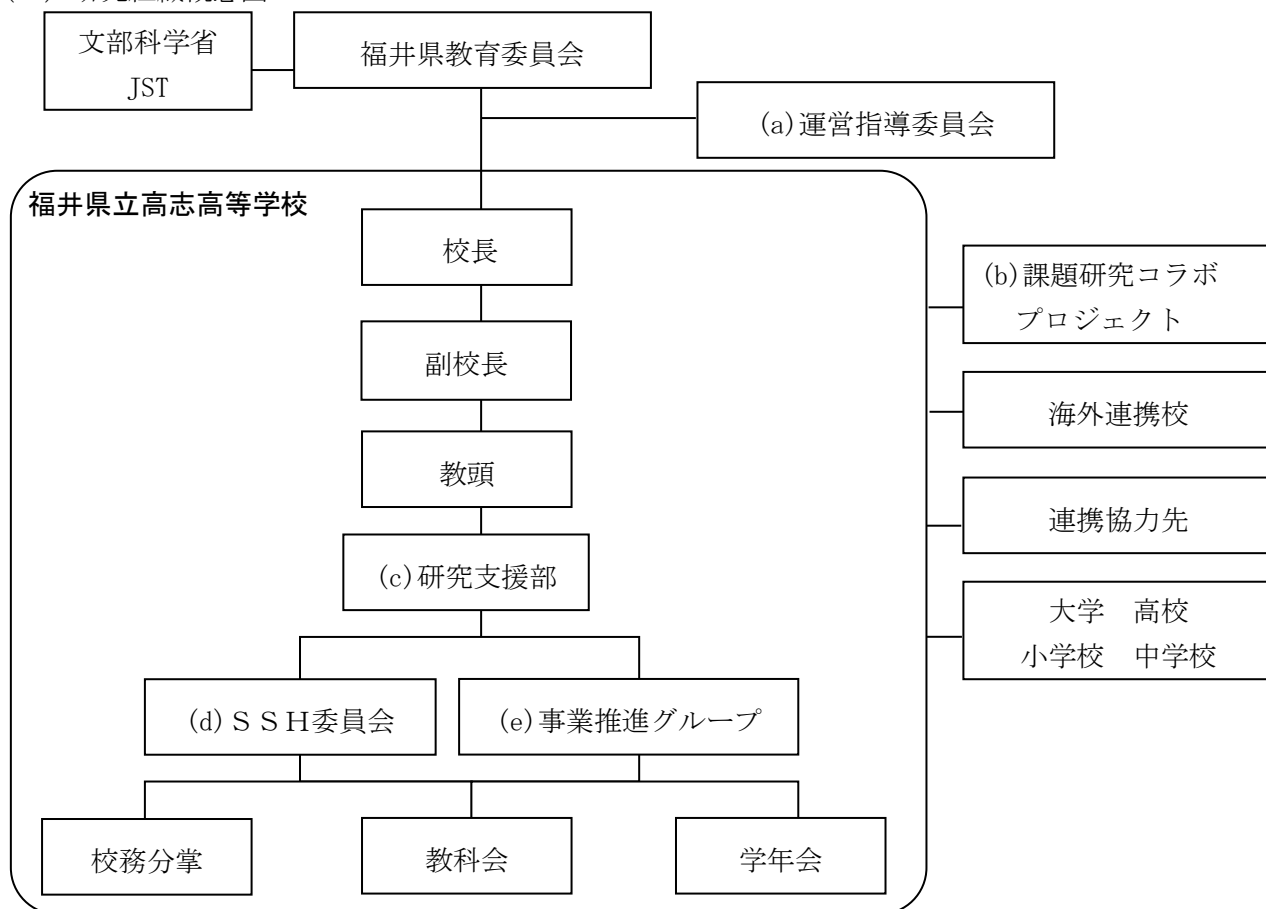
ることがわかる。「生徒に自己評価の機会を与えている」や「生徒同士が評価しあう機会を設けている」の項目は、他の項目と比べると平均値が低いですが、年々定着していつている。「ルーブリックを用いた評価を行っている」の項目については、他と比較すると平均値が低いため、各教科におけるルーブリックを用いた評価の事例を共有するなどして、探究型学習の充実を図っていく。



## ②-V 校内におけるSSHの組織的推進体制

### 1 研究体制

#### (1) 研究組織概念図



## (2) 研究組織

### (a) 運営指導委員会

S S Hの運営に関し、専門的見地から指導、助言、評価を受ける。

年に2回（7月と2月）定例の運営指導委員会を開催し、S S H研究開発の取組についての指導助言を受ける。生徒課題研究発表会（7月）および2年生課題研究発表会（2月）に参加していただき、生徒の変容について指導・助言を受ける。

○令和7年度高志高校S S H運営指導委員（敬称略）

委員長 日 弁 隆雄（福井県立大学生物資源学部教授）

委 員 小野田信春（福井大学名誉教授）

亀岡 郁雄（日華化学株式会社 化学品部門 界面科学研究所 知的財産戦略部 部長）

野路 佳男（福井県中学校校長会長 福井市明道中学校校長）

### (b) 課題研究コラボプロジェクト委員会

研究の進捗状況や方向性について継続的な指導・助言を受ける。年に2回（7月、2月）定例の研究協議会を開催し、課題研究指導の在り方や研究機関等との連携について指導・助言を受ける。各学年の発表会等に参加していただき、生徒の変容について指導・助言を受ける。

○令和7年度高志高校S S H課題研究コラボプロジェクト委員（敬称略）

#### 【校外委員】

福井大学 遠藤 貴広（大学院教職開発研究科准教授） 葛生 伸（工学研究科客員教授）

栗原 一嘉（教育学研究科教授） 佐々木 隆（工学研究科教授）

西村 保三（教育学研究科教授）

福井県立大学 篠原 秀文（生物資源学部准教授） 角田 智詞（生物資源学部准教授）

向山 厚（生物資源学部准教授） 松井 孝憲（生物資源学部准教授）

福井工業大学 岩野 優樹（機械工学科教授） 西岡 岳（機械工学科教授）

仁愛大学 西出 和彦（人間生活学部子ども教育学科教授）

日華化学株式会社 朝倉 遥（界面科学研究所 知的財産戦略部）

日本原子力研究開発機構 小菅 淳（敦賀総合研究開発センター）

#### 【校内委員】

西東 一彦(教頭)、山崎 秀樹、南 浩子(研究支援部)

数学、物理、化学、生物、地学、家庭から各1名

### (c) 研究支援部

研究開発事業の企画・運営の中核として、年間計画の作成、校内の各事業の企画・運営、関係機関等との連絡・調整や予算の執行、事務部・県担当者等との連絡に当たる。

### (d) S S H委員会

校長、教頭、教務部代表、各教科代表、研究支援部で構成し、S S H研究開発の中核として各事業の運営・調整等を行う。

### (e) 事業推進グループ

各事業の実施は全教員が関わる全校体制で行われる。その各事業の指導担当者によるワーキンググループ（K o A - L WG, K o A WG, 校内研修WG, 評価WG, 広報・普及WGなど）により企画運営を行う。

## (3) 研究の取組

### ① 研究支援部

S S H, 中高一貫教育, 国際交流, 選択型研修旅行, その他の中・長期的な教育課題への対応等を総合的に研究推進するために平成27年度から「研究部」を設置しており, 令和3年度から「研究支援部」に改称。高志中学校にも研究支援部が置かれており, 中高連携を含めて, 全体で取り組む体制となっている。

研究支援部は, 教員11人とS S H雇用事務員1人で構成し, 各事業に全員で対応に当たる。

研究支援部長を学校運営委員会の構成員とし, 他の部署・教科・学年と密接に連携して各事業を行っている。

## ②SSH委員会

全般的に各教科および校務運営との連携を図ったほか、教科間連携を含む取組「K o A - L」についての研究開発を行っている。

## 2 成果

- ・先導Ⅰ期からスタートした課題研究における研究支援システムについて、運営指導委員およびコラボプロジェクト委員から助言を受けながら、構築と運用をほぼ計画通りに進めてきた。研究支援システムの活用を定着させることができた。
- ・運営指導委員の亀岡委員，コラボプロジェクト委員の朝倉委員の御協力により，日華化学株式会社と連携した化学系企業研修を継続して実施することができた。
- ・サイエンス部で，未来協働プラットフォームふくい推進事業等の福井大学の支援を継続して受けている。コラボプロジェクト委員の栗原委員（福井大学）の御協力により，中高大が連携して行う実験研修を定期的に開催した。サイエンス部の各種コンテスト等での活躍は，メディア等にも度々取り上げられており，部員数も年々増加傾向にある【③-10 参照】。

## ②-VI 成果の発信・普及

### (1) 探究型学習会の開催

- ・県内中高の教員対象の「探究ワークショップ」を実施した。本校の取組の成果を発信するとともに，「～探究学習で大切にしたい願いを考える～」をテーマに研修を行った。また，「福井県合同課題研究発表会」の同日に研究協議会を開催予定である。

### (2) 「福井県合同課題研究発表会」の開催

- ・「福井県合同課題研究発表会」を主催し，本校の取組の成果を発信するとともに，校種を越えた研究交流を図る。県内外の小中高校に広く参加を募り，今年度の発表予定学校数・予定件数は18校，口頭発表66件，ポスター発表88件の発表会となる予定で，成果発信の場としての役割を果たしている。

### (3) 「高志の学びフェア ～きて，みて，探究。～」の開催

- ・県内中学生を対象に「高志の学びフェア ～きて，みて，探究。～」を開催し，本校SSHの研究成果の普及を図った。

### (4) ホームページや「SSHだより」，学校訪問の受け入れによる成果の発信

- ・福井県内唯一の公立併設型中高一貫教育校として，様々な機会・媒体を通して，本校SSHの研究成果等をより広く発信した。
- ・SSH先進校として，県外高等学校9校から学校訪問を受け入れ，本校の研究開発について普及を行った。

## ②-VII 研究開発実施上の課題及び今後の研究開発の方向性

### (1) 課題研究を充実・深化させる研究支援ネットワークシステム構築と活用

#### ① 課題とされること

- ・先導Ⅰ期では，生徒自らが積極的に活用できる研究支援システムを整えることができ，外部機関による支援の充実を図ることができた。この3年間で研究支援システムの運用が定着し，活用件数を増やすことができた。しかし，今後，開発した支援システムのさらなる活用を推進するには，外部機関による研究支援に充てる予算を増やす必要がある。

#### ②今後の方向性

- ・同窓会や官公庁による研究資金援助を積極的に活用するとともに，資金面における外部機関との連携についても更なる推進を図りながら，質の高い多様な課題研究の取組事例を増やす。

### (2) 課題解決能力を育てる探究の手法および教育プログラムの発展・普及

#### ①課題とされること

- ・「K o A - L MAP」の修正を随時行いながら，各教科で「探究的な学び」や「創造的な視点」に立った授業改善を行ってきた。教員アンケートの結果からも，探究型学習の定着が確認できる。先導的改革型SSH校として，取組を他校に広げていくことが求められている。

②今後の方向性

- ・探究学習支援に係る本校主催の教員研修会等の継続や、これまで研究開発した教材や各教科での取組を整理して、他校の教員も活用できるようにする。

(3) 課題解決能力の伸長度を総合的に評価する手法の効果的な活用

①課題とされること

- ・本校で研究開発した「K S A」の調査結果によって、先導 I 期で新たに開発したものを含め、様々な S S H の取組を評価している。評価の方法をさらに研究を深めたい。

②今後の方向性

- ・「K S A」には 67 の調査項目がある。それらの調査結果を最大限活用して、分かりやすく分析する方法を研究する。調査結果を他校にも示したり、研修会等で使用方法を説明したりすることで他校への普及も図っていく。

(4) 研究開発成果の発信・普及 ～課題研究発表会や研究協議会の開催～

①課題とされること

- ・先導的改革型の S S H 校として、研究開発の取組を県内外に発信することが求められている。

②今後の方向性

- ・管理機関に配置される「S S H コーディネーター」と協働し、他校との連携を深め、本校および連携校の探究活動の充実と研究開発の発信・普及を強化する。
- ・「福井県合同課題研究発表会」や県内外の教員を対象にした「探究ワークショップ」を外部機関や S S H コーディネーター等と連携・協働しながら発展させていく。
- ・中学 2 年生を対象にした探究型学習の体験授業、高志の学びフェアを
- ・ホームページから研究成果等の発信のさらなる充実を図る。

### ③ 関係資料

#### 1 令和7年度 課題研究テーマ一覧

【K o A - I】

【理数創造科】

No	グループ	研究テーマ
1	数学01	宝くじの確率と期待値
2	数学02	なぜ駅は渋滞するのか
3	数学03	多面体の内部の格子点の数
4	数学04	条件を変えたときの花紋折りの変化を調べる
5	数学05	タイトの飛び石の規則性
6	数学06	誕生日のパラドックスとその拡張
7	数学07	数列を利用したタイル作り
8	数学08	教室の座席配置の最適化問題
9	数学09	最小二乗法を用いた予測
10	数学10	算数の授業の質をそろばんを用いて向上させる
11	地学01	地震と建物の関係
12	物理01	球の回転と軌道の変化
13	物理02	層流と乱流の発生条件
14	物理03	発電効率について
15	物理04	様々な音色が人の感情に与える影響
16	物理05	音量や音程による発電量の違い
17	物理06	エネルギーハーベスティング
18	化学01	炭を用いた湿気に強い植物性の断熱材の製作
19	化学02	ビタミンCについて
20	化学03	ヨウ素を用いた時計反応
21	化学04	紙からエタノールをつくる
22	化学05	加熱によるレモン果汁の糖度の変化
23	化学06	機能性の高い石けんを作ろう
24	化学07	炭ブロックが持つ環境形成作用の調査及び植物発芽用培地の構築
25	化学08	環境に優しいプラスチックの作成
26	生物01	キトサンを用いた創傷被覆材の研究
27	生物02	カフェインや人工甘味料などを餌として過剰に摂取することでおこる影響と多世代への影響
28	生物03	家庭で簡単にできるアクアポニックスの作成と実験
29	生物04	植物精油のタバコシバンムシに対する忌避効果の持続性
30	生物05	根粒菌が共生しているマメ科植物の肥料の効果と持続時間
31	生物06	イシクラゲの高い吸水性を用いて、砂漠の乾燥した土壌の保水性を高める
32	家庭01	ブラークを取り除くことのできる歯みがきガムを作る
33	家庭02	えぐみや苦みを消す調味料を使って代替塩の味を食塩と近づけ、減塩食の満足度を高める
34	家庭03	健康促進のためのオートミールの活用

【人文創造科】

No	グループ	研究テーマ
1	国語01	挿絵で"わかる"は変わる
2	国語02	インターネット小説の流行と社会情勢の関係について
3	国語03	相手に分かりやすく話を伝える方法
4	地歴01	令和の選挙をふまえた今後の選挙とSNSの活用
5	地歴02	福井県とスケートボードの共存について
6	地歴03	芸術という概念がなかった時代からどのような経緯から
7	地歴04	多言語POPの導入によってインバウンドの消費が増えるのではないかな
8	地歴05	国の政策の影響から商社の株価変化を予測する
9	地歴06	福井アリーナ(仮)建設後の福井県の課題と解決策
10	英語01	日本の英語学習の課題と授業における解決策
11	英語02	日本で生きるのに英語は必要？不要？
12	英語03	字幕と吹き替えでキャラクターの性格表現はどう変わるのかー英語原作との比較から見る翻訳の工夫ー
13	英語04	越前筆笥の海外販路開拓に向けた「外国人モニターワークショップ」計画について
14	英語05	略語について
15	英語06	日本の英語教育について
16	英語07	日本人の英語力について
17	英語08	英字ニュースを活用した英単語の記憶に定着しやすい学習方法の提案
18	国際地域01	スポーツイベントではどのような広報で人が集まるのか？～イベントを通して福井のスポーツを盛り上げる！～
19	国際地域02	絵本を使った越前和紙の発信
20	国際地域03	仕組みによって世界を幸せにする
21	国際地域04	羽二重餅×タビオカで福井を発信!!
22	国際地域05	もったいないを、いただきます～福井で生まれたフードロス野菜を活用したおかずパン～
23	国際地域06	英語ディベートの認知度向上
24	国際地域07	大豆クッキーを活用して、タイの経済格差によって生じる不平等をなくす
25	国際地域08	パッケージ改良による県の特産品の県外認知の向上
26	国際地域09	福井の若者の居場所をつくるには
27	国際地域10	人口増加を目標に掲げた観光事業計画の作成
28	国際地域11	高校生はデジタルデトックスすべきか
29	国際地域12	語彙の発達に役立つ言語ゲームの開発
30	国際地域13	コミュニケーションをナッジとして利用することで人の行動を変える

【K o A - II】

【理数創造科】

No	グループ	研究テーマ
1	物理01	温度変化によるモーターの性能の変化
2	物理02	圧電素子を用いた効率的な発電方法の研究
3	物理03	安全かつ自由なパラシュート条件について
4	物理04	小型風力発電に最適な風車ブレードの形状
5	物理05	センサーとプログラムを用いたローバーの自律制御
6	物理06	新しい変化球の開発
7	化学01	教科書の実験をより正確に
8	化学02	酸塩基指示薬の構造と関係性
9	化学03	ルミノール発光における成分の持続時間と強度のメカニズムの解析
10	化学04	めっきは世界を救う
11	化学05	コーヒー蓄電池の研究
12	化学06	天気を映すガラス ストームグラスの秘密
13	化学07	鉄(II)フェナントロリン錯体の生成挙動についての研究
14	化学08	廃棄物による重金属の吸着～卵の殻でよみがえる水～
15	数学01	RSIの有用性
16	数学02	過剰数と不足数について
17	数学03	Pythonによるシミュレーションを用いた高志高校の避難経路の最適化
18	数学04	情報の一元化で算数のつまづきを減らす
19	数学05	最適化問題について
20	数学06	三角形同士の配置問題
21	数学07	正方形とひし形の詰め込み問題
22	数学08	アンチ陣の最小値の考察
23	数学09	コラッツ予想の類似問題について
24	数学10	ピラミックスの全パターンを網羅する巡回パターン
25	数学11	正n/m角形の面積
26	生物01	セイタカアワダチソウのアレロパシー効果の確認
27	生物02	アクアポニックスを用いた野菜の成長
28	生物03	コオロギの鳴き声から気温・湿度を求める
29	生物04	SHIGYO法を用いたハツカダイコン栽培の効率化
30	生物05	身近な植物を用いたアクネ菌の殺菌
31	生物06	ハーブの種類と抽出方法ごとの抗酸化作用の変化
32	地学01	防波堤による波の威力の軽減
33	地学02	ランバートクレーターの形成実験とその条件について
34	家庭01	温度による甘味の感じ方と集中力の変化
35	家庭02	納豆を外国人も食べやすくアレンジする
36	家庭03	乾物を使った米粉ベーグル

【人文創造科】

No	グループ	研究テーマ
1	英語01	漫画『ONE PIECE』における日本語版と英語版の比較
2	国語01	本の題名とそのルビの関係性について
3	国語02	若者の本離れは幼少期の読み聞かせ経験と関係しているのか
4	国語03	言葉遣いによる社会的役割の印象について
5	国語04	童話から読み解くアンコンシャスバイアス～自分らしく生きるために～
6	国語05	言葉とジェンダー 男女の役割語の変化についての考察
7	国語06	自己肯定感と日常生活の関係に関する研究
8	国語07	服の色彩が人物印象に及ぼす効果：異なる色同士の比較による印象評価の研究
9	国語08	心理学の観点から見たよりよい広告についての研究
10	国語09	生徒のメタ認知的能力を向上させるディベート型授業に関する一考察
11	国際地域01	フラーロス低減を目的とした問題周知の促進
12	国際地域02	廃棄予定野菜を活用してインクを制作する
13	国際地域03	県内の子ども食堂を発展させるために
14	国際地域04	海洋ゴミ問題の改善を目的とした福井の資源のアップサイクル
15	国際地域05	残布の継続的な消費方法を探し、残布削減を目指す
16	国際地域06	いただきまーけっとの開催を目指して
17	国際地域07	SDGs ムービーとともに
18	国際地域08	ロゲイニングを利用して在日外国人の地域参加を促進する方法の開発
19	国際地域09	楽曲「キミと」を利用した保護犬保護猫の譲渡推進
20	国際地域10	福井に笑顔の○を描く「ふくまる食堂」
21	国際地域11	乾燥食品を用いた食育活動
22	国際地域12	フェアトレードを身近なものにするには？
23	国際地域13	肉が食べられなくなったらどうする？
24	国際地域14	カニカラの廃棄量を減らす
25	地歴公民01	冬の誘客を目的とした福井県のイベント施策の推進
26	地歴公民02	どれだけ怒っていても許してもらえる方法
27	地歴公民03	授業構想によって学校にしかない学びの価値を提案する
28	地歴公民04	フラーロスの削減を目指したイベントの提案
29	地歴公民05	近い未来の戦争と日本についての考察
30	地歴公民06	修学旅行による福井県の魅力認知度向上戦略の提案
31	地歴公民07	衆議院議員の定数削減についての考察

【K o A - III】

【理数創造科】

No	グループ名	研究テーマ
1	化学01	うねりをなくすヘアオイル作り
2	化学02	断熱材（セルローズファイバー）
3	化学03	金属と酸化被膜
4	化学04	福井の特産品を使った日焼け止めを作ろう
5	化学05	アントシアニン染色の方法
6	化学06	カフェインの抽出
7	化学07	裁断紙を利用したエタノールの精製
8	化学08	生分解性合成繊維の作成
9	地学01	地盤の液化化現象についての研究
10	物理01	ハイブリットロケットについて
11	物理02	球体の運動について
12	物理03	再現性の高いすつとびボールを作る
13	物理04	流体に物体を落としたときの流体のはね方について
14	物理05	バドミントンのシャトルの素材と運動の関係
15	物理06	車の剛性と空力
16	物理07	指向性スピーカーについて
17	物理08	水を用いた防音壁
18	物理09	模擬人工衛星の地理的データの計測
19	数学01	確立音楽
20	数学02	「小谷の蟻問題」の拡張
21	数学03	文字を数式で綺麗に表す
22	数学04	芒星の規則性
23	数学05	新じゃんけんを用いたじゃんけんの効率化
24	数学06	斜方投射の最遠投射角
25	数学07	オセロの開放度理論の応用による勝率の上昇
26	数学08	ブラックジャックの確率
27	数学09	雨の多い福井では降水確率が低くても傘を持っていくべきなのか
28	数学10	球の表面積と円の面積の関係性について
29	数学11	ルパート王子の立方体の拡張
30	家庭01	福井のお米を使った様々な形状の番水作り
31	家庭02	エコドレッシングを作ろう～規格外野菜の有効活用～
32	家庭03	子ども向けの健康食品を作ろう～高たんぱく食品開発～

【人文創造科】

No	グループ名	研究テーマ
1	国語1	自己肯定感について
2	国語2	和歌（短歌）
3	国語3	県外からみた福井をより魅力的にするには
4	国語4	美について
5	国語5	若者ことばについて
6	国語6	言語の消失と拡大
7	国際1	How to spread knowledge about earthquakes to the world
8	国際2	人工的なネストを使ったブラックバスの低密度化
9	国際3	教育とジェンダーの関係について
10	国際4	Education for Eeveryone
11	国際5	福井県のU-turn率を増やす
12	国際6	Different accent of English
13	国際7	How can we make education more accessible to more children?
14	地域8	梅酢を用いた商品開発
15	地域9	農業人口減少の解決について
16	地域10	伝統工芸を広めるために
17	地域11	民俗芸能（民謡）を守るには
18	地域12	大麦の用途を拡大させて福井県の六条大麦を普及させる
19	地域13	お土産の売上に貢献するには
20	地域14	福井を公共交通の街にするために
21	地域15	福井県の知名度アップ大作戦
22	地域16	貧困な状態にある子どもが、社会の一員として暮らしていくためには、どうすればよいのか
23	地域17	いじめを予防するために学生ができること
24	地域18	蟹と豚
25	地域19	福井県における若者の県外流出
26	地域20	外来植物の新しい駆除方法
27	地域21	フラワーロスを減らすために
28	地域22	人口減少×教育
29	地域23	粃殻を利用した お菓子作り～捨てられてしまう粃殻を救う～
30	地歴1	生活保護はどのように教育されるべきか
31	地歴2	50分授業は本当に有効なのか
32	地歴3	今と昔の戦争について
33	地歴4	日本人が不正を辞め成長していける組織システムとは
34	地歴5	交通でつながるユダヤ人と敦賀

## 2 探究活動の各フェーズにおけるルーブリック

基準		1 課題研究の質が大幅な改善を要するレベル	2 課題研究の質がやや改善を要するレベル
		探究の手続きがわからず、探究を進められない	個々の探究の手続きを意識して探究活動を行っている
P H A S E I	研究の意義づけ	自分自身で研究の意義を見出せない	自分の研究に漠然とした意義づけができている
	研究の意義とはなにか？	○自分自身の研究が、自分自身の興味と離れている △研究分野は決まったが自分自身が問題意識をもっていない	○自分の興味や関心に基づいた問いを立てている ○防災や環境問題といった、問題意識から課題を設定しようとしている △問いから探究すべき方向が導かれない
P H A S E II	課題の具体化	問いを出せない	問いを立てることができている
	よい研究課題とはなにか？	○自分自身の疑問や知りたいことが何なのか表現されていない △何を対象として良いかわからない	○自分自身の疑問や、知りたいことを表現できている ○対象に関して、自分自身で問いを立て、目的を定められる △抽象的な問いを持たせたが、どうアプローチしてよいかわからないほど曖昧な問いである △問いが曖昧で具体的に何をしたらいいかまで絞り切れない
P H A S E III	調査計画の立案と実施	抽象的な計画にとどまり、実施が困難である	作業としての計画が立てられ、実施している
	よい調査計画とはなにか？	○実際の行動手順が見えない抽象的な語を多く含む計画を立てる ○すでに知っている手法を利用して計画を立てている ○最低限の道具を用意し、実験にとりかかる △行動手順が見えていない	○調査の手順を明確にしている ○研究方法と手続きを示している ○実施しやすい条件での実験・シミュレーションができる ○着目するパラメータを決める △着目するパラメータ以外が制御できていない △やりたいことはあるが、先行き不透明な状況
P H A S E IV	情報収集と情報の評価	入手した情報（実験・観測データ等）をまとめている	入手した情報（実験・観測データ等）を示している
	情報をどう解釈できるだろうか？	○定量的なデータを得られるにも関わらず、定性的なデータしか示せていない △サンプルを一つしかとらない △特徴をぬきだせない、一般化できない △実験操作の基礎的な手法を理解していない	○記録にとどまり、合理的なまとめができていない ○複数のデータを得ている ○データがとれるようになった △サンプリングの条件が揃っていない △データの「特徴とは何か」でもめることがある △信用性のあるデータがない
P H A S E V	結果からの考察	論理的な考察ができていない	論理的な考察が不十分である
	どうすれば妥当な考察ができるだろうか？	○結果と考察が分離できず、結果のみとなる ○予想通りの結果が得られていない場合に、「失敗した」で終わる △試しにやったら（予備実験）上手くいったものの、それで満足している	○結果について考察しているが、多面的でない ○根拠が不十分である ○結果から読み取れていない飛躍した考察がなされている △解釈されたデータを考察でどう扱うのか分からない

3 課題研究の質が満足できるレベル	4 課題研究の質が十分に満足できるレベル	5 課題研究の質が特別優れているレベル
個々の探究の手続きを理解して探究活動を行っている	探究の手続きや一連の流れを理解しつつ、自分の活動を評価しながら探究活動を行っている	一連の探究の手続きを理解し、省察をしながら次の段階を視野に入れて探究活動を行っている
<b>他者に自分の研究課題の意義を説明できる</b>	<b>自分の研究課題の学術的・社会的価値に触れて問いの意義を説明している</b>	<b>自分の研究課題の学術的価値や社会的価値、既存の前提を問う問いを設定している</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○どのような社会的課題・学術的課題を解決しようとする研究であるかということが表現されている</li> <li>○自分自身の研究内容を表現している</li> <li>○社会的課題を解決しようとしている</li> <li>△考察の方向と研究課題の方向が一致していない</li> <li>△個々の課題をこなすことに終止している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究課題に関連する先行研究が紹介されている</li> <li>○自分の研究課題が社会や学問においてどのような位置づけにあるか当該分野の話題を取り上げている</li> <li>△最終目標と実現可能な実験をどのようにてらし合わせるべきか悩んでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の研究課題が社会や学問の進展に寄与するものであることを口頭または文書において説明できる</li> <li>○研究課題に関連する先行研究との違いが明確にされている</li> </ul>
<b>研究の目標を踏まえて、問いや仮説を設定できている</b>	<b>評価が可能な目標や検証可能な問いや仮説を立てている</b>	<b>妥当な評価が可能な目標や、環境的な制約の中で実行可能で検証可能な問いや仮説を立てている</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○曖昧な語を含んでいるものの、研究を通じて明らかにしたいことを目標や仮説といった形で表現できている</li> <li>○仮説は立てている</li> <li>△検証可能な仮説や問いではない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標や仮説を、曖昧な言葉や単語を用いずに表現できている</li> <li>○必要な定義がなされている</li> <li>○緻密な仮説を立てている</li> <li>○評価可能な目標か、検証可能な仮説を立てている</li> <li>○数多くの実験をした上でそれを踏まえた仮説を立てている</li> <li>○環境的な制約等を念頭に問いや仮説を設定することはできない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○取りうる手段を踏まえ、実際に評価可能な目標や検証可能な仮説が立てられている</li> <li>○身近の物・実験材料などに注目し、検証可能な課題を設定した</li> <li>○先行研究がある場合、それらと比較できるような課題が設定できている</li> </ul>
<b>目的を明確にした計画を立て、見直しをもった計画となっている</b>	<b>先行研究等を踏まえ、妥当性のある方法を多面的・多角的に判断し、計画に取り入れている</b>	<b>実践から教訓を引き出し、必要な情報や手続きを身につけて、次の計画に活かせる</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○使用できる材料・機器・締め切りなどを考慮できる</li> <li>○具体的な手法が記載できる</li> <li>○実験系の作り方を検討している</li> <li>○目的にあった装置を作る必要性に気づいている</li> <li>△立式・パラメータ等の意味を実際の操作と結びつけて捉えていない</li> <li>△何をもって期待した結果が得られたと評価できるのかわからない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○先行研究や既存の理論を参考にしつつ、調査方法の妥当性を評価しつつ、選択できている</li> <li>○課題解決に必要な条件・精度・具体性を意識した計画が立てられる</li> <li>○既存の複数の方法を評価し、自分の研究に合った方法を選択した</li> <li>○既に得られている各種データと、自らの予想に整合性があることを確認している</li> <li>△考察等をふまえて、発展的な研究に至るプロセスを提案することができない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現状で知識・技術不足があったときに、自ら情報を収集し、習得しようとする</li> <li>○実施の都度、自分で振り返りをし、目的に応じて、計画を修正する</li> </ul>
<b>情報（実験・観測データ等）を目的に合わせてまとめている</b>	<b>情報（実験・観測データ等）を先行研究や既存の前提（概念枠組み・パラダイム等）を用いて合理的に解釈している</b>	<b>情報（実験・観測データなど）を目的に応じて適切に評価した上で、考察に向けた示唆を与える形で解釈している</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験・観測の条件などによってデータの整理ができている</li> <li>○データから、一定の合理的考察に結びつけている</li> <li>○研究における定義について考えはじめた</li> <li>○データを見ながら、どこに着目すべきかを見つけている</li> <li>○実験方法の記録をとっている</li> <li>○再現性よく、比較的バラツキのおさえられたデータを得ている</li> <li>△グラフ化できても解釈に困る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○データの提示と解釈が正確に行われている</li> <li>○有効数字、測定・系統誤差の評価・再現性の検討ができている</li> <li>○自分が選択した方法や測定法の精度を意識している</li> <li>△実験と理論式が結びついていない</li> <li>△ [理論式への] 代入に終始している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○データを緻密に分析し次の研究への発展または大きな発見の結論に至っている。</li> <li>○実験の失敗などから修正点を見だし実験デザインをし直す</li> <li>○別アプローチで得られた考察の妥当性を確かめようとしている</li> </ul>
<b>論理的な考察がされている</b>	<b>論理的な考察ができており、得られた結論の妥当性の評価がなされている</b>	<b>得られた結論から、より発展的な課題を見だし、次の探究のプロセスが見据えられている</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○結果から事実に基づく論理的思考ができている（正しい結果か間違った結果は問わない）</li> <li>○データをしっかりとまとめられた</li> <li>△対照実験で差が出た原因の特定をすることができない</li> <li>△先行研究の実験内容との比較に悩んでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○先行研究や既存の理論との比較の結果、進めてきた探究をふりかえり、評価（仮説の採択、棄却や方法の不備等）し、次の課題を見出している。</li> <li>○考察から新たな問題を解決するための気づきがなされている</li> <li>△課題は見つけられているが、発展的な研究のプロセスまでは考えられていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が進めてきた探究の手法や考え方を振り返り、発展的な新たな課題を見いだしたり、その解決にむけたアプローチを考察したりしている</li> </ul>

3 高志高校SSH課題研究チェックリスト（一部抜粋）

	*初級	**中級	***上級	
	<input checked="" type="checkbox"/>			
	*			研究ノートを作ったか
	*			やりたいのは調べ学習ではなく研究か
	*			コアテーマの課題解決に貢献できる研究か
	*			「こんな研究をしたい」と思える研究か
	*			やりたい研究は次の3つのうちどれか
研究を始める前	*			<input type="checkbox"/> 基礎研究（知的探求中心で、一般化可能性や普遍性が高い結果をもたらす研究。世界的に汎用性が高いため論文は英語で書くことが多い）
研究	*			<input type="checkbox"/> 応用研究（社会に直接役立つ研究。ただし、条件が異なること多く一般化可能性や普遍性は低いことが多い）
研究	*			<input type="checkbox"/> 橋渡し研究（基礎研究から応用研究への橋渡し）
論文執筆	*			<input type="checkbox"/> それは理論主導（仮説検証のためにデータを集める研究）か、データ主導（先にデータがありそのデータでできる研究を考える）か
執筆	*			<input type="checkbox"/> 研究方法は量的研究方法（実験など）、質的研究法（事例研究、インタビューや記事などの内容分析など）、（両者の）混合研究方法のうちどれか
執筆	***			<input type="checkbox"/> あなたの研究における先行研究の定義は次のうちどれか
執筆	***			<input type="checkbox"/> 本校生徒の研究論文
執筆	***			<input type="checkbox"/> 他校（SSH指定校、研究指定校など）の生徒研究
執筆	***			<input type="checkbox"/> 学術論文
執筆	***			<input type="checkbox"/> 批判的吟味をしたか
執筆	*			<input type="checkbox"/> 先行研究で明らかにされた内容をリストアップしたか
執筆	*			<input type="checkbox"/> 先行研究で明らかにできなかった内容をリストアップしたか
執筆	*			<input type="checkbox"/> 先行研究の有用性・意義を吟味したか
執筆	**			<input type="checkbox"/> 先行研究で採用された（実験・調査の）手法が最善かどうか吟味したか
執筆	*			<input type="checkbox"/> 先行研究での考察は本当に正しい考察といえるか吟味したか
執筆	*			<input type="checkbox"/> 先行研究での結論は本当に正しい結論といえるか吟味したか
執筆	*			<input type="checkbox"/> なぜそのコアテーマなのか、領域との関係、取り上げる課題の重要性や意義、ねらいを述べることができるか
執筆	*			<input type="checkbox"/> 自分たちの研究に関して、なぜその研究なのか、コアテーマとの関係、取り上げる課題の重要性や意義を述べることができるか
執筆	*			<input type="checkbox"/> 新規性はあるか（次の7つの新規性のうちの新規性か）
執筆	*			<input type="checkbox"/> 新たなアプローチ <input type="checkbox"/> 未開拓の事象 <input type="checkbox"/> ある事象の中でも新しいトピック <input type="checkbox"/> 新たな理論 <input type="checkbox"/> 新たな方法 <input type="checkbox"/> 新たなデータ <input type="checkbox"/> 新たな結果
執筆	*			<input type="checkbox"/> 実現可能性は高いか
執筆	*			<input type="checkbox"/> どのようなバイアス*（系統誤差）がありうるか検討し、対処したか
執筆	*			<input type="checkbox"/> 意義と新規性と実現可能性の3条件を満たしているか
執筆	*			<input type="checkbox"/> 意義と新規性と実現可能性の3条件を満たしているか
執筆	*			<input type="checkbox"/> 研究課題や問い（研究テーマにつながる問い）の素や種の着想を、5個以上集めたか
執筆	*			<input type="checkbox"/> コアテーマの課題解決に貢献できる研究か
執筆	*			<input type="checkbox"/> 「よい研究にするための条件」を満たしているか
執筆	*			<input type="checkbox"/> 先輩や指導者に相談したか
執筆	*			<input type="checkbox"/> 自分で面白いと思えるか、自分（自分たち）で決めたか
執筆	*			<input type="checkbox"/> 何を研究しているか、読み手に伝わるテーマになっているか
執筆	*			<input type="checkbox"/> グループの課題研究テーマを読めば、コアテーマの課題解決に貢献できると読み手に伝わるテーマになっているか
執筆	**			<input type="checkbox"/> 研究方法（研究デザイン）が伝わるか



KoA-L (Koshi Academic Learning) 高志の探究的な学び 【令和7年度】

学習活動計画表											
A	B	C	D	E	F	G	H	I			
時間	場所	科目	内容	担当	形態	外部	外部	外部	外部	外部	外部
4月		B1	C1	D1-2	F1-2	H1					
5月		A1	D1-2	F3	G1	H1					
6月		A2	C2	D5-6	E1	F4-6					
7月		A3	B3		E2	F7	G2	H4			
8月											
1	9月		S4	S3	S1-3	S5	S9	S3			
10月		A4	C4	D8	F9	H5					
11月		A4	C5	D10	F10	G4	H6				
12月		A5	B5		G5	H7	H				
1月		A6	B6	C6	D11	E4	F11	H8			
2月		A6	B6	C6	D11	E4	F11	H8			
3月											
4月		B7									
5月		A7	B10								
6月		A9	B11	C7	D12-13	E7					
7月		A5	B3	C8	D13-14	E8					
8月											
9月		B4									
10月		A10	B12	C9	D14-15	E9					
11月		A11	B13	D16							
12月		A11	B13	D16							
1月		A13	B17								
2月											
3月											
4月		B18									
5月		A14	B19	C11	D49						
6月		B20									
7月											
8月											
9月		B21									
10月											
11月											

B表

区分	科目等	学習活動名	区分	科目等	学習活動名	区分	科目等	学習活動名	科目等	学習活動名
A1	東洋文化	「藤生門」卒業の地盤に専ら反対が	D2	現代生物	生物って何？	D49	現代化学	タンパク質の構造	H2	現代化学
A2	現代の国語	現代の切札を究む	D3	現代生物	重力加速度の測定	D50	現代化学	【探究】タンパク質の構造	H3	現代化学
A3	現代の国語	「ミニエール」生徒たちの問題をグループで解決	D4	化学基礎	【実験】加温反応の観察	D51	現代化学	【実験】【実験】【実験】	H4	現代化学
A4	現代の国語	【実験】【実験】【実験】	D5	現代生物	【実験】【実験】	D52	現代化学	【実験】【実験】	H5	現代化学
A5	東洋文化	現代における「失す所より始めよ」とは	D6	現代生物	4種類の塩基の20種類の塩基をどう呼ぶかは？	E1	体育	【実験】【実験】	H6	現代化学
A6	東洋文化	「竹取物語」現代の物語と比較しよう	D7	現代生物	【実験】【実験】	E2	体育	【実験】【実験】	H7	現代化学
A7	文学基礎	「山月記」【実験】【実験】	D8	現代生物	【実験】【実験】	E3	体育	【実験】【実験】	H8	現代化学
A8	文学基礎	「山月記」【実験】【実験】	D9	化学基礎	【実験】【実験】	E4	体育	【実験】【実験】	H9	現代化学
A9	芸術探究	「阿公」と「理王」の対比から考える芸術の向上	D10	現代生物	【実験】【実験】	E5	体育	【実験】【実験】	H10	現代化学
A10	文学基礎	【ことば】と「理王」の対比から考える芸術の向上	D11	現代生物	【実験】【実験】	E6	体育	【実験】【実験】	H11	現代化学
A11	文学基礎	古文「大鏡」を現代化する	D12	化学基礎	【実験】【実験】	E7	体育	【実験】【実験】	H12	現代化学
A12	文学基礎	詩の身体を通じて現代社会の問題を探る	D13	現代生物	【実験】【実験】	E8	体育	【実験】【実験】	H13	現代化学
A13	論理探究	異国問題を抱える社会の豊かさとは何か	D14	化学基礎	【実験】【実験】	E9	体育	【実験】【実験】	H14	現代化学
A14	論理探究	異国問題を抱える社会の豊かさとは何か	D15	現代化学	【実験】【実験】	E10	体育	【実験】【実験】	H15	現代化学
B1	地理探究	プレートの動きから予測する	D16	現代化学	【実験】【実験】	E11	体育	【実験】【実験】		
B2	歴史総合	近代への問いを規定し現代的問題を再考する	D17	現代化学	【実験】【実験】	F1	音楽	【実験】【実験】		
B3	地理探究	関心のある自然現象について	D18	現代生物	【実験】【実験】	F2	音楽	【実験】【実験】		
B4	歴史総合	関心のある自然現象について	D19	現代生物	【実験】【実験】	F3	音楽	【実験】【実験】		
B5	地理探究	関心のある自然現象について	D20	現代化学	【実験】【実験】	F4	美術	【実験】【実験】		
B6	歴史総合	関心のある自然現象について	D21	現代生物	【実験】【実験】	F5	美術	【実験】【実験】		
B7	歴史総合	関心のある自然現象について	D22	現代化学	【実験】【実験】	F6	音楽	【実験】【実験】		
B8	公共	関心のある自然現象について	D23	現代生物	【実験】【実験】	F7	音楽	【実験】【実験】		
B9	公共	関心のある自然現象について	D24	現代生物	【実験】【実験】	F8	音楽	【実験】【実験】		
B10	地理探究	関心のある自然現象について	D25	現代生物	【実験】【実験】	F9	音楽	【実験】【実験】		
B11	地理探究	関心のある自然現象について	D26	現代生物	【実験】【実験】	F10	音楽	【実験】【実験】		
B12	公共	関心のある自然現象について	D27	現代化学	【実験】【実験】	F11	音楽	【実験】【実験】		
B13	公共	関心のある自然現象について	D28	現代化学	【実験】【実験】	F12	音楽	【実験】【実験】		
B14	日本探検	関心のある自然現象について	D29	現代化学	【実験】【実験】	F13	音楽	【実験】【実験】		
B15	地理探究	関心のある自然現象について	D30	現代化学	【実験】【実験】	G1	総合探究	【実験】【実験】		
B16	公共	関心のある自然現象について	D31	現代生物	【実験】【実験】	G2	BE/PT	【実験】【実験】		
B17	日本探検	関心のある自然現象について	D32	現代化学	【実験】【実験】	G3	BE/PT	【実験】【実験】		
B18	地理探究	関心のある自然現象について	D33	現代生物	【実験】【実験】	G4	総合探究	【実験】【実験】		
B19	日本探検	関心のある自然現象について	D34	現代化学	【実験】【実験】	G5	総合探究	【実験】【実験】		
B20	地理探究	関心のある自然現象について	D35	現代生物	【実験】【実験】	G6	BE/PT	【実験】【実験】		
B21	日本探検	関心のある自然現象について	D36	現代化学	【実験】【実験】	G6	BE/PT	【実験】【実験】		
C1	現代生物	関心のある自然現象について	D37	現代生物	【実験】【実験】	G8	総合探究	【実験】【実験】		
C2	現代生物	関心のある自然現象について	D38	現代生物	【実験】【実験】	G9	DO/PP/AE	【実験】【実験】		
C3	現代生物	関心のある自然現象について	D39	現代化学	【実験】【実験】	G10	DO/PP/AE	【実験】【実験】		
C4	現代生物	関心のある自然現象について	D40	現代生物	【実験】【実験】	G11	総合探究	【実験】【実験】		
C5	現代生物	関心のある自然現象について	D41	現代生物	【実験】【実験】	G12	DO/PP/AE	【実験】【実験】		
C6	現代生物	関心のある自然現象について	D42	現代生物	【実験】【実験】	G13	総合探究	【実験】【実験】		
C7	現代生物	関心のある自然現象について	D43	現代生物	【実験】【実験】	G14	総合探究	【実験】【実験】		
C8	現代生物	関心のある自然現象について	D44	現代生物	【実験】【実験】	G15	CW	【実験】【実験】		
C9	現代生物	関心のある自然現象について	D45	現代生物	【実験】【実験】	G16	総合探究	【実験】【実験】		
C10	現代生物	関心のある自然現象について	D46	現代生物	【実験】【実験】	G17	CW	【実験】【実験】		
C11	現代生物	関心のある自然現象について	D47	現代生物	【実験】【実験】	G18	CW	【実験】【実験】		
D1	現代生物	関心のある自然現象について	D48	現代生物	【実験】【実験】	H1	現代化学	【実験】【実験】		

K o A 3年間の流れ

1年次

**K o A - I (2単位)**  
 (内進・高入混合)  
 (7クラスバンド)

**ポイント**  
 ・内進・高入混合  
 ・3学年とも7クラスバンド  
 ・理系選択者の研究→自然科学分野  
 ・文系選択者の研究→人文・社会科学分野

2年次

**K o A - II (2単位)**  
 (内進・高入混合)  
 (7クラスバンド)

9月 仮コース分け・予備的研究  
 10月末 コース変更可  
 12月 最終決定  
 1月～ 本格研究  
 10月 選択型研修旅行  
 2月 中間発表会\*  
 7月 最終発表会\*  
 10月末 論文完成  
 12月末 学びの報告書\*・計画書\*

3年次

**K o A - III (1単位)**  
 (内進・高入混合)  
 (7クラスバンド)

理数系

理数系

(内容)  
 ・1月からの本格的な探究活動への導入となる研究  
 ・個人またはグループで実施  
 ・探究のサイクル(課題設定→実験・調査→結果→考察→課題設定)をできれば2回以上繰り返させる。

人文系

(理系)  
 自然科学に関する予備的研究  
 (文系)  
 人文・社会科学に関する予備的研究\*

理数創造科

(内容)  
 ・自然科学に関する研究(基礎研究・応用研究)  
 (指導)  
 ・理科(物化生地)、数学科、家庭科の教員による日常の指導  
 ・大学教授・研究者等によるメンター指導(発表会含め、計7回)

人文創造科

(内容)  
 ・人文・社会科学に関する研究(提案型課題研究)  
 (指導)  
 ・国語科、地歴・公民科、保健体育科、英語科、家庭科の教員による日常の指導  
 ・大学教授、企業の社員等による指導(発表会含め、計7回)

理数創造科

研究内容・指導体制

共通点

・グループまたは個人研究(チェックリスト活用)  
 ・グループ間討議(文理混合)の定期的開催  
 ・研究活動とおとしたデータ活用能力の育成(「情報I」の代替)  
 ・校内外(海外含む)の発表機会やコンテスト等への参加  
 ・研究機関や大学と連携した研究や他校(海外含む)との共同研究

人文系

人文創造科

※文系の予備的研究

大学や企業と連携して世界を取り巻く状況と課題を知り、それに対する自分たちの考えを議論しながら探究のサイクルを回す。

※中間発表会、最終発表会、論文

中間発表会(2年生課題研究発表会)で指摘されたり気付いたりした内容を以後の研究に反映させ、最終発表会(生徒研究活動発表会)で発表を行う。その後、論文にまとめる。

※学びの報告書・計画書

各生徒が、それぞれの3年間の探究活動を総括し「学びの報告書」にまとめる。そして、その後の進路先にとのようにつなげていくかを「学びの計画書」にまとめる。

探究創造科

4月～  
 基礎講座・データサイエンス講座・連携講座

基礎講座

- ・調べ学習と研究の違い
- ・先行研究の調べ方
- ・理系・文系の研究の違い
- ・研究の流れ
- ・データサイエンス講座(「情報I」の代替)
- ・プレゼンテーション
- ・データベース
- ・データの分析
- ・モデル化とシミュレーション 他
- ・大学・企業連携講座
- ・統計学研修

6 課題研究支援依頼書

令和 年 月 日

〇〇大学 △△学部  
□□ 〇〇 〇〇 様

課題研究支援依頼書

福井県立高志高等学校

2年2組 〇〇 〇〇 , 2年6組 〇〇 〇〇

2年6組 〇〇 〇〇 , 2年7組 〇〇 〇〇

学校設定科目「K o A」で取り組んでいる以下の課題研究について、支援を依頼します。

研究課題名	復氷のパラメータに関する研究			
担当教諭	氏名	〇〇 〇〇	E-mail	.....

依頼 希望項目を <b>チェック</b> して、 <b>必要事項</b> を記入すること					
希望依頼先	<input type="checkbox"/> 高志高校 S S H 課題研究コラボプロジェクト委員 【 所属名 先生のお名前 】				
	<input checked="" type="checkbox"/> 上記以外	依頼先	〇〇大学△△学部〇〇コース☆☆講座 □□ 〇〇 〇〇様		
		郵便番号	.....	住所	福井県福井市.....
		TEL	.....	FAX	.....
		Email	.....	担当教諭からの連絡の有無	無
<input type="checkbox"/> 他校との情報交換・共同研究 【〇〇高校 「 グループ名 」 】					
希望場所	<input checked="" type="checkbox"/> 高志高校	<input checked="" type="checkbox"/> 高志高校以外	【 〇〇大学 】		
依頼内容を <b>具体的に</b> 記入すること、また希望日時等もある場合は記入すること					
依頼内容	<p>複数の温度、熱伝導率の異なる物体の間で、熱平衡が時間の経過によりどのように進行するかについて、教えていただきたい。具体例として、温度の異なる氷とワイヤーとの間で、接触してから2分間経過した時点でのそれぞれの温度はどのように変化しているかなど。また、熱伝導方程式の概念や使い方についても教えていただきたい。</p>				

研究内容等	仮説、研究方法、結果、考察、進捗状況、今後の計画等		
	<p>私達のグループでは、水が液体で最も密度が大きくなる特性から、氷に圧力をかけると融解(圧力融解)し、圧力を取り除くと再凍結する復氷現象についての研究を行っている。先行研究の実験装置を参考に、直方体に切り出した氷にワイヤーのような細い物体へ重りをかけることで圧力を加える装置を作成し、氷の上部から底部まで貫通するまでの時間を気温、重りの質量、ワイヤーの素材などを変更することで復氷現象がどの環境の変化に大きく依存しているかを調べたい。</p> <p>現在の仮説として、次の3つを立てている。</p> <p>I)熱伝導率の高いワイヤーを用いた場合、復氷は早く進む。</p> <p>II)周囲の気温を上げた場合、復氷は早く進む。 III)重りの質量の変化にはあまり影響されない。</p> <p>ワイヤーは材質の違う直径の同じ物を用意出来るが、周囲の温度を一定に変化させ保つことは難しい。そこでこれらの対照実験を行うために現在、スチロール箱の内部にベルチェ素子を配置し、一定温度で保温する装置を制作している。今後はこの装置を用いた実験値と理論値を比べ、どこから差が生まれるかを考察したいと考えている。</p>		

添付資料	添付資料がある場合は、資料名を記入		
	<input checked="" type="checkbox"/>	KoAスライド「復氷の研究」	<input type="checkbox"/>

7 「高志生徒意識調査（KSA）」

令和6年度 3年生（高入生）

		前回調査よりも増加						前回調査よりも増加					
		平均						肯定の割合 (4,5の人数/合計人数)					
		1年 6月	1年 2月	2年 11月	2年 2月	3年 4月	3年 7月	1年 6月	1年 2月	2年 11月	2年 2月	3年 4月	3年 7月
1	理解力・活用能力	3.67	3.69	3.74	3.83	3.80	3.87	0.73	0.74	0.74	0.78	0.75	0.80
	2	4.06	3.92	3.95	3.99	3.87	4.07	0.86	0.81	0.79	0.80	0.78	0.86
	3	3.85	3.64	3.88	3.87	3.79	3.93	0.73	0.66	0.79	0.78	0.75	0.78
4	表現力・発表力	3.69	3.54	3.74	3.59	3.70	3.84	0.66	0.63	0.71	0.66	0.72	0.74
	5	3.14	3.48	3.75	3.70	3.57	3.99	0.44	0.61	0.77	0.70	0.63	0.82
	6	3.59	3.62	3.70	3.65	3.68	3.97	0.60	0.66	0.70	0.66	0.72	0.79
	7	3.40	3.15	3.39	3.41	3.48	3.70	0.52	0.37	0.53	0.52	0.59	0.66
8	批判的 思考力	2.95	3.29	3.56	3.37	3.57	3.68	0.23	0.49	0.60	0.52	0.63	0.66
	9	3.46	3.53	3.66	3.60	3.65	3.65	0.57	0.57	0.64	0.60	0.66	0.62
	10	2.92	2.96	3.22	3.10	3.19	3.43	0.25	0.35	0.46	0.41	0.43	0.55
	11	2.75	2.77	3.05	2.92	3.05	3.35	0.18	0.27	0.40	0.31	0.39	0.49
	12	2.54	2.47	2.78	2.64	2.84	3.11	0.13	0.21	0.30	0.24	0.34	0.41
	13	3.78	3.57	3.69	3.68	3.79	3.98	0.72	0.64	0.68	0.68	0.70	0.79
	14	3.54	3.39	3.66	3.61	3.65	3.93	0.60	0.53	0.65	0.63	0.67	0.76
15	論理的 思考力	3.54	3.54	3.79	3.73	3.77	4.01	0.61	0.60	0.74	0.71	0.75	0.80
	16	3.68	3.67	3.75	3.78	3.83	3.99	0.71	0.63	0.73	0.73	0.77	0.82
	17	3.51	3.60	3.70	3.66	3.71	3.97	0.57	0.63	0.69	0.68	0.69	0.78
	18	3.94	3.80	3.89	3.84	3.94	4.14	0.76	0.71	0.77	0.75	0.80	0.84
19	問題 想像力	3.85	3.71	3.81	3.80	3.91	4.08	0.77	0.68	0.75	0.75	0.79	0.85
	20	3.56	3.40	3.78	3.68	3.72	3.95	0.60	0.51	0.72	0.68	0.72	0.81
	21	3.61	3.61	3.82	3.64	3.79	4.04	0.63	0.62	0.74	0.64	0.70	0.82
22	コミュニ ケーション	3.65	3.60	3.70	3.62	3.74	3.97	0.64	0.65	0.67	0.64	0.68	0.78
	23	3.75	3.70	3.89	3.78	3.86	3.97	0.69	0.67	0.78	0.74	0.75	0.76
	24	4.04	3.93	3.89	3.92	3.88	4.00	0.82	0.79	0.76	0.77	0.75	0.80
25	リー リーダーシップ	4.15	4.03	4.04	4.04	3.93	4.14	0.86	0.83	0.85	0.84	0.80	0.86
	26	3.92	3.76	3.93	3.87	3.88	4.07	0.73	0.69	0.79	0.75	0.77	0.82
	27	3.87	3.79	3.93	3.80	3.81	4.07	0.72	0.73	0.80	0.74	0.72	0.81
28	内 調整力	3.92	3.80	3.93	3.87	3.88	4.14	0.77	0.72	0.79	0.80	0.74	0.88
	29	3.76	3.78	3.98	3.89	3.81	4.01	0.70	0.71	0.82	0.78	0.70	0.81
	30	3.81	3.81	3.95	3.93	3.84	4.09	0.73	0.73	0.81	0.78	0.72	0.82
31	気づ き	3.86	3.80	3.87	3.79	3.94	4.17	0.72	0.74	0.82	0.71	0.78	0.89
	32	4.07	4.02	4.02	4.00	3.85	4.18	0.83	0.81	0.79	0.80	0.74	0.86
	33	4.24	4.14	4.22	4.08	4.14	4.27	0.88	0.87	0.90	0.83	0.88	0.89
	34	4.14	4.02	4.02	3.96	3.98	4.23	0.83	0.78	0.81	0.78	0.78	0.87

		前回調査よりも増加						前回調査よりも増加						
		平均						肯定の割合 (4,5の人数/合計人数)						
		1年 6月	1年 2月	2年 11月	2年 2月	3年 4月	3年 7月	1年 6月	1年 2月	2年 11月	2年 2月	3年 4月	3年 7月	
35	関心度	これまでの習慣や考え方ややり方にとらわれず、新しい考え方ややり方を試してみる	3.60	3.51	3.77	3.69	3.73	3.97	0.64	0.58	0.72	0.66	0.72	0.78
36		社会的問題(環境・エネルギー、災害など)を、自分に関わる問題としてとらえている	3.80	3.61	3.78	3.78	3.56	3.89	0.66	0.63	0.72	0.69	0.61	0.73
37		社会に対して自分が貢献できることは何かを考える	3.47	3.41	3.60	3.48	3.52	3.84	0.54	0.51	0.63	0.57	0.61	0.72
38		現状をもっとよくするにはどうしたらよいかという観点で周囲のものをみて行動する	3.75	3.70	3.89	3.78	3.70	4.07	0.71	0.66	0.77	0.69	0.66	0.80
39	チャレンジ 積極性 精神	難しい目標を設定し、達成するまでチャレンジを続ける	3.72	3.42	3.62	3.54	3.62	3.91	0.69	0.52	0.62	0.61	0.65	0.76
40		自分で考えて、決断し、結果に責任をもつ	3.84	3.81	3.89	3.85	3.75	3.96	0.68	0.69	0.77	0.76	0.70	0.76
41		困難な状況におかれても、ものごとをよい方向へと考える	3.59	3.57	3.60	3.59	3.75	3.88	0.63	0.60	0.65	0.63	0.71	0.76
42		人とは違うことや新しいことに挑戦しようとする	3.60	3.51	3.70	3.57	3.50	3.86	0.59	0.54	0.67	0.58	0.56	0.70
43	忍耐力・ 適応力	困難な状況におかれても、くじけずあきらめない	3.78	3.65	3.66	3.68	3.77	3.98	0.70	0.67	0.69	0.68	0.70	0.77
44		失敗したことなどを引きずらずに、気持ちを切り替えていく	3.17	3.30	3.40	3.35	3.41	3.68	0.45	0.51	0.55	0.54	0.55	0.64
45		環境や状況の変化に合わせて、自分や自分のやり方を変えて成長していく	3.74	3.71	3.83	3.71	3.82	3.96	0.72	0.65	0.77	0.68	0.73	0.79
46		一つの考えにこだわらず、状況に応じて適切に判断していく	3.69	3.74	3.83	3.83	3.83	3.98	0.69	0.67	0.73	0.75	0.75	0.78
47	倫理性・ 一貫性	すべての人を平等に扱うように意識する	4.33	4.14	4.16	4.16	4.08	4.23	0.88	0.81	0.88	0.87	0.80	0.84
48		客観的にみて正しい判断をするように意識する	4.25	4.08	4.06	4.08	4.07	4.21	0.88	0.81	0.85	0.82	0.84	0.86
49		言っていることと行動とが一致するように努める	4.15	4.05	4.07	3.95	4.01	4.14	0.82	0.80	0.87	0.80	0.75	0.84
50		相手の気持ちや状況にあった支援をする	4.36	4.12	4.10	4.08	4.04	4.26	0.89	0.83	0.87	0.85	0.80	0.86
51	リーダー シップ	目標の見通しを立てながら、ものごとを進めていく	3.57	3.74	3.74	3.78	3.75	3.95	0.62	0.67	0.69	0.72	0.70	0.80
52		グループのリーダーとして約束した結果(成果や期限など)に向かって、責任をもってメンバーを導いていく	3.56	3.40	3.66	3.50	3.51	3.73	0.57	0.53	0.64	0.59	0.55	0.64
53		グループのメンバーとして、グループ内での自分の役割を意識して行動する	4.05	3.87	4.00	3.88	3.86	4.06	0.81	0.74	0.77	0.76	0.73	0.80
54		相手の合意が得られるまで粘り強く話し合いを続ける	3.44	3.54	3.69	3.62	3.68	3.74	0.56	0.58	0.66	0.61	0.66	0.66
55	異文化 理解 交流	自分とは異なる文化・考えや価値観をもつ人々と知り合いになり、交流したい	4.06	3.99	3.91	3.92	3.93	3.91	0.77	0.76	0.75	0.77	0.75	0.78
56		海外に行って、その文化や人々の考え方に触れ、現地の習慣に従い同じように生活してみたい	3.88	3.90	3.77	3.83	3.70	3.78	0.73	0.70	0.65	0.70	0.65	0.70
57		海外から来た人に、自分の学校や自分の町、福井や日本のこと、自分たちの暮らしなどを紹介したい	3.53	3.52	3.49	3.48	3.39	3.53	0.58	0.56	0.54	0.56	0.49	0.57
58		インターネット、テレビ等の外国語講座や動画を視聴したり、外国の歴史や伝統文化等を紹介する番組を見たり本を読んだりする	2.96	3.18	3.31	3.31	3.25	3.43	0.39	0.44	0.50	0.52	0.48	0.55
59	グロー バル な 視 野	地球規模の諸問題(地球温暖化や紛争、貧富の差の拡大、エネルギー問題など)の仕組みを理解したい	4.09	3.81	3.72	3.73	3.64	3.88	0.78	0.69	0.66	0.68	0.66	0.76
60		貧困や飢餓、紛争や災害などに苦しんでいる人たちのために自分にできることを考えたい	4.18	3.88	3.77	3.79	3.73	3.74	0.80	0.69	0.69	0.69	0.68	0.69
61		身近な話題や目の前の課題と社会や海外の関わりについて考える	3.85	3.75	3.71	3.66	3.75	3.93	0.71	0.67	0.66	0.64	0.67	0.72
62		世界の諸問題を解決するための解決策を考えて、提案したい	3.51	3.55	3.42	3.43	3.48	3.74	0.56	0.56	0.52	0.55	0.55	0.64
63	将来の 希望 等	将来、留学したり、仕事で国際的に活躍したい	3.18	3.15	3.14	3.34	3.27	3.38	0.45	0.44	0.44	0.52	0.50	0.54
64		新たな仕事やサービスを考え出したり、社会にイノベーション(変革)を起こすような仕事をしたい	3.32	3.28	3.34	3.29	3.34	3.46	0.51	0.47	0.52	0.47	0.50	0.58
65		東南アジア諸国の産業や経済、それらと日本の関わりについて知りたい	2.91	2.90	3.02	2.94	3.17	3.21	0.30	0.31	0.38	0.33	0.42	0.42
66		社会の様々な課題や、それらと科学や科学技術との関わりについて学びたい	3.51	3.29	3.32	3.25	3.44	3.48	0.55	0.49	0.51	0.49	0.57	0.59
67		希望する進路に関して情報を集め、身に付けるべき力について理解している	3.48	3.72	3.83	3.80	3.86	3.86	0.54	0.63	0.72	0.68	0.70	0.74

令和6年度 3年生（内進生）

		前回調査よりも増加						前回調査よりも増加					
		平均						肯定の割合 (4,5の人数/合計人数)					
		1年 6月	1年 2月	2年 11月	2年 2月	3年 4月	3年 7月	1年 6月	1年 2月	2年 11月	2年 2月	3年 4月	3年 7月
1	理解力・活用能力	3.83	3.88	4.02	3.99	4.06	4.09	0.80	0.81	0.85	0.85	0.89	0.87
	2	3.91	3.99	4.17	4.05	4.13	4.19	0.78	0.82	0.89	0.89	0.90	0.90
	3	3.97	4.13	4.19	4.15	4.25	4.24	0.80	0.89	0.93	0.89	0.94	0.94
4	表現力・発表力	3.87	3.87	4.00	3.99	4.03	4.16	0.76	0.70	0.81	0.80	0.83	0.87
	5	3.85	4.07	4.19	4.10	4.14	4.27	0.76	0.81	0.89	0.89	0.89	0.90
	6	3.89	4.06	4.02	4.11	4.11	4.23	0.72	0.80	0.75	0.86	0.85	0.91
	7	3.51	3.63	3.88	3.86	3.93	3.97	0.57	0.60	0.75	0.74	0.78	0.80
8	批判的 質問力	3.20	3.69	3.94	3.74	3.71	3.89	0.31	0.70	0.79	0.68	0.65	0.73
	9	3.55	3.63	3.93	3.69	3.79	3.85	0.59	0.64	0.73	0.70	0.73	0.73
	10	3.01	3.31	3.54	3.53	3.51	3.75	0.31	0.48	0.58	0.58	0.60	0.71
	11	2.97	3.26	3.51	3.44	3.45	3.53	0.30	0.48	0.57	0.58	0.56	0.58
	12	2.68	3.02	3.37	3.26	3.31	3.39	0.22	0.39	0.51	0.48	0.50	0.52
	13	3.68	3.88	4.14	4.01	4.09	4.06	0.68	0.74	0.84	0.81	0.84	0.85
	14	3.72	3.76	3.83	3.81	3.90	3.95	0.66	0.68	0.72	0.73	0.73	0.76
15	論理的 思考力	3.71	3.87	4.01	4.09	4.19	4.22	0.70	0.76	0.84	0.83	0.93	0.92
	16	3.76	3.92	4.11	4.04	4.11	4.16	0.69	0.80	0.88	0.86	0.89	0.87
	17	3.53	3.77	3.91	4.04	4.08	4.15	0.56	0.65	0.75	0.81	0.81	0.86
	18	4.01	4.01	4.15	4.23	4.23	4.24	0.82	0.79	0.88	0.89	0.89	0.90
19	問題 想像力	3.94	4.04	4.15	4.18	4.11	4.20	0.80	0.81	0.90	0.88	0.88	0.87
	20	3.61	3.86	3.86	4.05	4.03	4.18	0.62	0.71	0.74	0.84	0.84	0.91
	21	3.76	3.92	4.02	4.00	4.06	4.10	0.69	0.70	0.81	0.81	0.81	0.86
22	コミュニ ケーション	3.47	3.70	3.80	3.70	3.83	3.90	0.59	0.69	0.72	0.66	0.74	0.77
	23	3.76	3.88	3.95	4.00	4.03	4.09	0.72	0.74	0.78	0.81	0.81	0.86
	24	3.74	3.81	4.04	3.96	3.96	4.10	0.70	0.74	0.83	0.85	0.80	0.84
25	リ リーダー シップ	4.00	3.93	4.17	4.09	4.20	4.19	0.84	0.77	0.86	0.84	0.86	0.87
	26	3.87	3.95	4.15	3.99	4.13	4.11	0.70	0.77	0.86	0.78	0.81	0.86
	27	3.84	3.89	4.02	4.05	4.09	4.16	0.69	0.74	0.80	0.79	0.81	0.87
28	内 調整力	3.87	4.08	4.00	4.03	4.14	4.25	0.77	0.87	0.80	0.84	0.89	0.91
	29	3.86	3.90	4.00	4.09	4.01	4.15	0.72	0.73	0.83	0.85	0.83	0.89
	30	3.92	4.00	3.98	4.18	4.10	4.08	0.77	0.82	0.80	0.89	0.86	0.85
31	気 づき	3.86	4.11	3.98	4.04	4.09	4.16	0.75	0.87	0.80	0.83	0.89	0.89
	32	3.77	3.89	4.04	3.94	3.95	4.09	0.69	0.75	0.84	0.81	0.80	0.86
	33	4.25	4.14	4.22	4.24	4.24	4.29	0.90	0.88	0.90	0.91	0.90	0.91
	34	3.98	4.00	4.16	4.10	4.19	4.22	0.80	0.82	0.89	0.85	0.90	0.87

		前回調査よりも増加						前回調査よりも増加						
		平均						肯定の割合 (4,5の人数/合計人数)						
		1年 6月	1年 2月	2年 11月	2年 2月	3年 4月	3年 7月	1年 6月	1年 2月	2年 11月	2年 2月	3年 4月	3年 7月	
35	関心度	これまでの習慣や考え方、やり方にとらわれず、新しい考え方ややり方を試してみる	3.69	3.92	3.98	3.91	4.00	4.18	0.62	0.80	0.79	0.73	0.80	0.85
36		社会的問題(環境・エネルギー、災害など)を、自分に関わる問題としてとらえている	3.79	3.90	4.02	4.01	3.90	4.03	0.74	0.69	0.80	0.76	0.73	0.76
37		社会に対して自分が貢献できることは何かを考える	3.52	3.75	3.80	3.84	3.88	4.03	0.54	0.64	0.77	0.76	0.70	0.78
38		現状をもっとよくするにはどうしたらよいかという観点で周囲のものをみて行動する	3.66	3.88	3.98	3.89	4.01	4.16	0.66	0.73	0.79	0.75	0.80	0.85
39	チャレンジ 積極性 精神	難しい目標を設定し、達成するまでチャレンジを続ける	3.30	3.65	3.65	3.76	3.84	4.14	0.48	0.65	0.65	0.66	0.69	0.85
40		自分で考えて、決断し、結果に責任をもつ	3.82	3.73	3.96	3.95	4.01	4.06	0.74	0.70	0.79	0.78	0.78	0.82
41		困難な状況におかれても、ものごとをよい方向へと考える	3.41	3.70	3.77	3.84	3.81	4.04	0.57	0.64	0.70	0.73	0.69	0.77
42		人とは違うことや新しいことに挑戦しようとする	3.69	3.83	3.86	3.84	3.91	4.13	0.61	0.65	0.77	0.70	0.70	0.82
43	忍耐力・ 適応力	困難な状況におかれても、くじけずあきらめない	3.34	3.62	3.73	3.71	3.69	4.00	0.54	0.65	0.73	0.66	0.66	0.78
44		失敗したことなどを引きずらずに、気持ちを切り替えていく	3.26	3.50	3.40	3.64	3.45	3.75	0.53	0.57	0.59	0.65	0.51	0.67
45		環境や状況の変化に合わせて、自分や自分のやり方を変えて成長していく	3.67	3.79	3.94	3.96	3.83	4.11	0.69	0.73	0.81	0.80	0.73	0.84
46		一つの考えにこだわらず、状況に応じて適切に判断していく	3.91	3.79	3.90	3.85	3.86	4.23	0.75	0.70	0.77	0.74	0.74	0.86
47	倫理性・ 一貫性	すべての人を平等に扱うように意識する	4.17	4.20	4.22	4.11	4.23	4.29	0.83	0.86	0.89	0.85	0.88	0.90
48		客観的にみて正しい判断をするように意識する	4.22	4.19	4.17	4.08	4.28	4.34	0.89	0.83	0.85	0.84	0.88	0.91
49		言っていることと行動とが一致するように努める	3.99	3.79	4.06	4.03	4.11	4.11	0.78	0.70	0.84	0.85	0.81	0.81
50		相手の気持ちや状況にあった支援をする	4.03	3.96	4.15	4.16	4.10	4.15	0.77	0.75	0.88	0.86	0.84	0.85
51	リーダー シップ	目標の見通しを立てながら、ものごとを進めていく	3.69	3.81	3.90	3.89	3.95	4.04	0.67	0.73	0.78	0.79	0.84	0.82
52		グループのリーダーとして約束した結果(成果や期限など)に向かって、責任をもってメンバーを導いていく	3.38	3.51	3.58	3.69	3.58	3.84	0.48	0.54	0.59	0.66	0.59	0.68
53		グループのメンバーとして、グループ内での自分の役割を意識して行動する	4.06	4.05	4.06	4.10	4.01	4.22	0.80	0.81	0.83	0.88	0.83	0.89
54		相手の合意が得られるまで粘り強く話し合いを続ける	3.56	3.64	3.79	3.81	3.76	3.91	0.60	0.61	0.70	0.68	0.69	0.76
55	異文化 理解 交流	自分とは異なる文化・考えや価値観をもつ人々と知り合いになり、交流したい	4.17	4.18	4.32	4.15	4.11	4.11	0.83	0.82	0.90	0.85	0.85	0.85
56		海外に行って、その文化や人々の考え方に触れ、現地の習慣に従い同じように生活してみたい	4.14	4.17	4.38	4.19	4.11	4.16	0.75	0.82	0.91	0.85	0.81	0.82
57		海外から来た人に、自分の学校や自分の町、福井や日本のこと、自分たちの暮らしなどを紹介したい	3.62	3.77	3.93	3.63	3.71	3.71	0.59	0.63	0.69	0.64	0.68	0.66
58		インターネット、テレビ等の外国語講座や動画を視聴したり、外国の歴史や伝統文化等を紹介する番組を見たり本を読んだりする	3.52	3.74	3.83	3.83	3.73	4.00	0.55	0.71	0.72	0.75	0.71	0.78
59	グロー バル な 視 野	地球規模の諸問題(地球温暖化や紛争、貧富の差の拡大、エネルギー問題など)の仕組みを理解したい	4.14	3.93	4.06	4.00	3.96	4.03	0.83	0.74	0.83	0.80	0.75	0.80
60		貧困や飢餓、紛争や災害などに苦しんでいる人たちのために自分にできることを考えたい	4.00	3.90	3.90	3.86	3.96	4.00	0.77	0.73	0.75	0.74	0.78	0.75
61		身近な話題や目の前の課題と社会や海外の関わりについて考える	3.86	3.95	4.09	3.95	3.91	4.05	0.74	0.76	0.84	0.79	0.74	0.81
62		世界の諸問題を解決するための解決策を考えて、提案したい	3.61	3.71	3.78	3.70	3.79	3.94	0.56	0.60	0.70	0.66	0.68	0.72
63	将来の 希望 等	将来、留学したり、仕事で国際的に活躍したい	3.56	3.56	3.65	3.68	3.76	3.84	0.54	0.57	0.64	0.65	0.65	0.70
64		新たな仕事やサービスを考え出したり、社会にイノベーション(変革)を起こすような仕事をしたい	3.45	3.65	3.70	3.40	3.65	3.78	0.52	0.64	0.62	0.58	0.61	0.68
65		東南アジア諸国の産業や経済、それらと日本の関わりについて知りたい	2.90	3.19	3.37	3.24	3.35	3.49	0.26	0.43	0.52	0.49	0.56	0.59
66		社会の様々な課題や、それらと科学や科学技術との関わりについて学びたい	3.53	3.57	3.65	3.58	3.46	3.87	0.56	0.64	0.69	0.61	0.59	0.71
67		希望する進路に関して情報を集め、身に付けるべき力について理解している	3.51	3.63	3.89	3.88	3.98	4.25	0.55	0.64	0.73	0.74	0.79	0.87

令和7年度 3年生（高入生）

		前回調査よりも増加						前回調査よりも増加					
		平均						肯定の割合 (4,5の人数/合計人数)					
		1年 6月	1年 2月	2年 9月	2年 12月	3年 4月	3年 7月	1年 6月	1年 2月	2年 9月	2年 12月	3年 4月	3年 7月
1	理解力・活用能力	3.80	3.65	3.75	3.82	3.87	3.95	0.77	0.70	0.75	0.79	0.80	0.81
	2	3.96	3.93	4.01	4.09	4.10	4.12	0.81	0.83	0.85	0.87	0.90	0.86
	3	3.94	3.77	3.86	4.04	3.92	4.13	0.78	0.71	0.75	0.84	0.78	0.86
4	表現力・発表力	3.72	3.56	3.62	3.78	3.76	3.85	0.68	0.64	0.64	0.74	0.73	0.77
	5	3.40	3.32	3.55	3.78	3.71	3.93	0.54	0.47	0.61	0.73	0.69	0.79
	6	3.72	3.66	3.77	3.97	3.90	4.01	0.66	0.67	0.72	0.84	0.77	0.83
	7	3.43	3.19	3.40	3.57	3.64	3.64	0.54	0.42	0.54	0.63	0.63	0.62
8	批判的 質問力	3.25	3.32	3.47	3.80	3.72	3.72	0.40	0.52	0.54	0.71	0.69	0.65
	9	3.60	3.54	3.52	3.75	3.67	3.82	0.61	0.59	0.58	0.70	0.66	0.70
	10	3.20	2.90	3.12	3.38	3.36	3.47	0.40	0.30	0.39	0.52	0.52	0.52
	11	3.07	2.74	2.93	3.21	3.22	3.38	0.32	0.22	0.34	0.48	0.45	0.53
	12	2.87	2.50	2.78	2.98	3.03	3.22	0.28	0.17	0.29	0.35	0.37	0.43
	13	3.86	3.63	3.71	3.87	3.78	3.96	0.75	0.64	0.63	0.77	0.72	0.77
14	論理的 思考力	3.75	3.43	3.53	3.81	3.73	3.87	0.66	0.54	0.59	0.72	0.69	0.70
	15	3.63	3.57	3.70	3.94	3.86	3.88	0.64	0.62	0.71	0.82	0.79	0.79
	16	3.70	3.61	3.80	3.95	3.94	4.06	0.66	0.60	0.74	0.83	0.81	0.80
	17	3.52	3.46	3.72	3.84	3.84	3.97	0.57	0.56	0.68	0.75	0.72	0.77
18	問題 想像力	3.82	3.77	3.88	4.04	4.03	4.09	0.73	0.72	0.77	0.85	0.84	0.83
	19	3.86	3.70	3.83	4.06	4.00	4.08	0.76	0.67	0.75	0.87	0.85	0.87
	20	3.71	3.55	3.65	3.89	3.82	3.98	0.68	0.57	0.66	0.79	0.79	0.81
21	コミュニケーション	3.76	3.75	3.82	3.96	3.90	3.96	0.70	0.66	0.72	0.80	0.76	0.81
	22	3.73	3.58	3.70	3.90	3.80	3.87	0.70	0.62	0.68	0.77	0.74	0.72
23	リー リーダーシップ	3.91	3.74	3.75	3.94	3.93	3.92	0.79	0.68	0.70	0.78	0.78	0.76
	24	4.05	3.92	3.88	4.00	3.99	4.06	0.82	0.80	0.76	0.82	0.82	0.81
	25	4.27	3.98	4.01	4.15	4.08	4.14	0.93	0.81	0.87	0.89	0.89	0.88
26	内 調整力	4.01	3.78	3.91	4.05	3.96	4.06	0.80	0.67	0.77	0.82	0.78	0.83
	27	3.97	3.83	3.95	4.09	3.90	4.08	0.79	0.72	0.77	0.83	0.83	0.85
	28	3.96	3.88	3.93	4.08	4.00	4.18	0.80	0.77	0.79	0.88	0.86	0.89
29	3.93	3.83	3.88	4.02	3.94	4.15	0.78	0.72	0.76	0.82	0.83	0.85	
	30	3.99	3.79	3.92	4.12	3.97	4.07	0.80	0.70	0.78	0.89	0.82	0.83
31	気づき	3.99	3.85	3.91	3.95	4.04	4.15	0.84	0.75	0.79	0.84	0.86	0.89
	32	4.06	3.97	3.88	4.04	3.99	4.00	0.86	0.79	0.77	0.85	0.82	0.79
	33	4.24	4.13	4.10	4.14	4.17	4.19	0.91	0.86	0.88	0.88	0.91	0.90
	34	4.19	4.11	4.06	4.15	4.08	4.07	0.84	0.86	0.85	0.88	0.84	0.83

		前回調査よりも増加						前回調査よりも増加						
		平均						肯定の割合 (4.5の人数/合計人数)						
		1年 6月	1年 2月	2年 9月	2年 12月	3年 4月	3年 7月	1年 6月	1年 2月	2年 9月	2年 12月	3年 4月	3年 7月	
35	関心度	これまでの習慣や考え方、やり方にとらわれず、新しい考え方ややり方を試してみる	3.83	3.66	3.62	<b>3.86</b>	<b>3.88</b>	<b>3.96</b>	0.74	0.66	0.64	<b>0.75</b>	<b>0.76</b>	<b>0.81</b>
		社会的問題(環境・エネルギー、災害など)を、自分に関わる問題としてとらえている	3.84	3.69	3.58	<b>3.94</b>	3.88	<b>3.84</b>	0.69	0.64	0.61	<b>0.78</b>	<b>0.80</b>	<b>0.67</b>
		社会に対して自分が貢献できることは何かを考える	3.65	3.62	3.55	<b>3.87</b>	3.75	<b>3.83</b>	0.62	0.60	0.60	<b>0.76</b>	0.69	<b>0.70</b>
		現状をもっとよくするにはどうしたらよいかという観点で周囲のものをみて行動する	3.80	<b>3.81</b>	3.80	<b>4.02</b>	3.89	<b>3.98</b>	0.73	0.72	0.69	<b>0.83</b>	0.76	<b>0.82</b>
39	チャレンジ 積極性 精神	難しい目標を設定し、達成するまでチャレンジを続ける	3.76	3.50	<b>3.56</b>	<b>3.74</b>	<b>3.82</b>	<b>3.87</b>	0.70	0.56	<b>0.62</b>	<b>0.72</b>	<b>0.74</b>	<b>0.74</b>
		自分で考えて、決断し、結果に責任をもつ	3.91	3.68	<b>3.72</b>	<b>4.00</b>	3.92	<b>3.95</b>	0.77	0.68	<b>0.68</b>	<b>0.82</b>	0.80	<b>0.78</b>
		困難な状況におかれても、ものごとをよい方向へと考える	3.81	3.54	<b>3.60</b>	<b>3.70</b>	<b>3.79</b>	<b>3.85</b>	0.73	0.57	<b>0.63</b>	<b>0.71</b>	<b>0.72</b>	<b>0.76</b>
		人とは違うことや新しいことに挑戦しようとする	3.80	3.56	<b>3.62</b>	<b>3.76</b>	3.71	<b>3.85</b>	0.65	0.61	<b>0.63</b>	<b>0.68</b>	0.67	<b>0.72</b>
43	忍耐力・ 適応力	困難な状況におかれても、くじけずあきらめない	3.84	3.56	<b>3.71</b>	<b>3.94</b>	3.84	<b>4.02</b>	0.73	0.57	<b>0.66</b>	<b>0.80</b>	0.76	<b>0.80</b>
		失敗したことなどを引きずらずに、気持ちを切り替えていく	3.39	3.21	<b>3.38</b>	<b>3.54</b>	<b>3.58</b>	<b>3.62</b>	0.52	0.46	<b>0.53</b>	<b>0.62</b>	<b>0.64</b>	<b>0.64</b>
		環境や状況の変化に合わせて、自分や自分のやり方を変えて成長していく	3.91	3.62	<b>3.81</b>	<b>3.96</b>	3.88	<b>3.99</b>	0.77	0.65	<b>0.73</b>	<b>0.80</b>	0.78	<b>0.82</b>
		一つの考えにこだわらず、状況に応じて適切に判断していく	3.98	3.64	<b>3.75</b>	<b>3.96</b>	3.82	<b>3.97</b>	0.82	0.63	<b>0.70</b>	<b>0.83</b>	0.75	<b>0.80</b>
47	倫理性・ 一貫性	すべての人を平等に扱うように意識する	4.23	4.19	4.01	<b>4.25</b>	4.20	<b>4.24</b>	0.88	0.85	0.83	<b>0.91</b>	0.90	<b>0.88</b>
		客観的にみて正しい判断をするように意識する	4.14	4.11	4.07	<b>4.21</b>	4.13	<b>4.17</b>	0.83	<b>0.86</b>	0.83	<b>0.90</b>	0.86	0.86
		言っていることと行動とが一致するように努める	3.99	3.91	<b>3.93</b>	<b>4.01</b>	<b>4.07</b>	<b>4.08</b>	0.78	0.76	<b>0.79</b>	<b>0.85</b>	0.84	<b>0.79</b>
		相手の気持ちや状況にあった支援をする	4.16	4.11	4.00	<b>4.18</b>	4.10	<b>4.20</b>	0.89	0.85	0.81	<b>0.90</b>	0.84	0.85
51	リーダー シップ	目標の見通しを立てながら、ものごとを進めていく	3.84	3.70	<b>3.74</b>	<b>3.92</b>	3.82	<b>3.95</b>	0.73	0.66	<b>0.72</b>	<b>0.80</b>	0.78	<b>0.79</b>
		グループのリーダーとして約束した結果(成果や期限など)に向かって、責任をもってメンバーを導いていく	3.77	3.35	<b>3.54</b>	<b>3.72</b>	3.70	<b>3.74</b>	0.67	0.48	<b>0.60</b>	<b>0.70</b>	0.69	<b>0.69</b>
		グループのメンバーとして、グループ内での自分の役割を意識して行動する	4.08	3.87	<b>3.92</b>	<b>4.09</b>	3.96	<b>4.05</b>	0.83	0.74	<b>0.76</b>	<b>0.89</b>	0.80	<b>0.83</b>
		相手の合意が得られるまで粘り強く話し合いを続ける	3.70	3.52	<b>3.68</b>	<b>3.78</b>	3.73	<b>3.84</b>	0.62	0.60	<b>0.66</b>	<b>0.73</b>	0.72	<b>0.73</b>
55	異文化 理解交流	自分とは異なる文化・考えや価値観をもつ人々と知り合いになり、交流したい	4.12	3.97	<b>4.00</b>	<b>4.09</b>	3.97	<b>4.11</b>	0.81	0.77	<b>0.79</b>	<b>0.85</b>	0.78	<b>0.83</b>
		海外に行って、その文化や人々の考え方に触れ、現地の習慣に従い同じように生活してみたい	3.84	<b>3.87</b>	<b>3.93</b>	<b>3.94</b>	3.80	<b>3.95</b>	0.68	<b>0.68</b>	<b>0.74</b>	<b>0.77</b>	0.67	<b>0.75</b>
		海外から来た人に、自分の学校や自分の町、福井や日本のこと、自分たちの暮らしなどを紹介したい	3.71	3.59	3.51	<b>3.60</b>	3.57	<b>3.66</b>	0.65	0.56	<b>0.57</b>	<b>0.62</b>	0.59	<b>0.61</b>
		インターネット、テレビ等の外国語講座や動画を視聴したり、外国の歴史や伝統文化等を紹介する番組を見たり本を読んだりする	3.20	<b>3.34</b>	3.26	<b>3.45</b>	3.43	<b>3.57</b>	0.44	<b>0.52</b>	0.51	<b>0.60</b>	0.55	<b>0.60</b>
59	グロー バルな 視野	地球規模の諸問題(地球温暖化や紛争、貧富の差の拡大、エネルギー問題など)の仕組みを理解したい	3.99	3.98	3.75	<b>3.95</b>	3.86	3.85	0.78	0.77	0.70	<b>0.78</b>	0.72	0.72
		貧困や飢餓、紛争や災害などに苦しんでいる人たちのために自分にできることを考えたい	4.04	3.91	3.77	<b>3.95</b>	3.88	3.85	0.81	0.71	0.67	<b>0.80</b>	0.73	<b>0.72</b>
		身近な話題や目の前の課題と社会や海外の関わりについて考える	3.79	<b>3.86</b>	3.69	<b>3.94</b>	3.84	3.80	0.68	<b>0.72</b>	0.68	<b>0.77</b>	0.71	0.72
		世界の諸問題を解決するための解決策を考えて、提案したい	3.72	3.64	3.43	<b>3.74</b>	3.68	<b>3.64</b>	0.66	0.56	0.54	<b>0.70</b>	0.67	<b>0.62</b>
63	将来の 希望等	将来、留学したり、仕事で国際的に活躍したい	3.17	<b>3.18</b>	3.14	<b>3.23</b>	<b>3.31</b>	<b>3.40</b>	0.46	0.46	<b>0.46</b>	<b>0.48</b>	<b>0.52</b>	<b>0.54</b>
		新たな仕事やサービスを考え出したり、社会にイノベーション(変革)を起こすような仕事をしたい	3.37	3.25	<b>3.37</b>	3.36	<b>3.42</b>	<b>3.43</b>	0.50	0.44	<b>0.52</b>	<b>0.55</b>	0.54	<b>0.52</b>
		東南アジア諸国の産業や経済、それらと日本の関わりについて知りたい	3.02	2.93	2.85	<b>2.96</b>	<b>3.14</b>	<b>3.22</b>	0.35	0.29	<b>0.31</b>	<b>0.38</b>	<b>0.42</b>	<b>0.41</b>
		社会の様々な課題や、それらと科学や科学技術との関わりについて学びたい	3.66	3.31	3.24	<b>3.52</b>	3.41	<b>3.53</b>	0.63	0.46	<b>0.50</b>	<b>0.62</b>	0.54	<b>0.58</b>
		希望する進路に関して情報を集め、身に付けるべき力について理解している	3.46	<b>3.59</b>	<b>3.66</b>	<b>3.75</b>	3.71	<b>3.81</b>	0.53	<b>0.61</b>	<b>0.68</b>	<b>0.70</b>	0.68	<b>0.67</b>

令和7年度 3年生（内進生）

		前回調査よりも増加						前回調査よりも増加					
		平均						肯定の割合 (4,5の人数/合計人数)					
		1年 6月	1年 2月	2年 9月	2年 12月	3年 4月	3年 7月	1年 6月	1年 2月	2年 9月	2年 12月	3年 4月	3年 7月
1	理解力・活用能力	3.63	3.93	3.94	3.97	4.15	4.27	0.70	0.78	0.83	0.80	0.86	0.92
	2	3.99	4.09	4.16	4.12	4.27	4.34	0.86	0.87	0.83	0.88	0.91	0.90
	3	3.95	4.16	4.10	4.24	4.21	4.54	0.78	0.90	0.85	0.92	0.91	0.95
4	表現力・発表力	3.84	3.92	3.87	4.12	4.10	4.19	0.75	0.72	0.72	0.88	0.81	0.87
	5	3.94	4.23	4.15	4.11	4.20	4.27	0.79	0.85	0.85	0.82	0.90	0.92
	6	4.01	4.09	4.15	4.20	4.26	4.23	0.74	0.84	0.85	0.85	0.90	0.87
	7	3.68	3.69	3.84	3.85	4.01	4.12	0.63	0.64	0.70	0.72	0.78	0.81
8	批判的 質問力	3.26	3.67	3.76	3.88	4.00	4.10	0.38	0.65	0.71	0.72	0.79	0.83
	9	3.43	3.85	3.69	3.76	4.03	4.11	0.53	0.73	0.65	0.70	0.77	0.82
	10	3.09	3.27	3.44	3.47	3.77	3.96	0.39	0.47	0.56	0.58	0.71	0.76
	11	2.87	3.28	3.43	3.38	3.65	3.92	0.32	0.49	0.55	0.55	0.63	0.78
	12	2.92	2.92	3.17	3.41	3.60	3.69	0.37	0.35	0.42	0.54	0.63	0.60
	13	3.78	3.84	3.90	4.11	4.07	4.27	0.69	0.73	0.73	0.81	0.78	0.90
	14	3.60	3.88	3.80	4.04	4.03	4.22	0.60	0.72	0.72	0.78	0.79	0.83
15	論理的 思考力	3.83	3.95	4.01	4.14	4.24	4.28	0.71	0.74	0.78	0.91	0.90	0.90
	16	4.01	4.07	4.06	4.15	4.19	4.20	0.80	0.81	0.79	0.85	0.87	0.87
	17	3.63	3.87	4.09	4.05	4.16	4.25	0.62	0.73	0.80	0.80	0.85	0.87
	18	4.01	4.01	4.01	4.11	4.21	4.34	0.82	0.83	0.79	0.82	0.92	0.92
19	問題 想像力	3.98	4.22	4.17	4.07	4.26	4.35	0.80	0.86	0.86	0.84	0.92	0.93
	20	3.72	3.91	3.85	3.91	4.00	4.05	0.68	0.79	0.72	0.78	0.85	0.82
	21	3.97	3.98	4.06	4.07	4.17	4.23	0.78	0.77	0.81	0.81	0.85	0.86
22	コミュニ ケーション	3.85	3.81	3.91	4.11	4.10	4.16	0.72	0.69	0.72	0.81	0.81	0.83
	23	3.92	3.97	4.10	4.03	4.10	4.27	0.76	0.77	0.84	0.80	0.81	0.87
	24	4.14	4.07	4.17	4.12	4.16	4.28	0.89	0.81	0.83	0.81	0.87	0.88
25	リー リーダーシップ	4.14	4.33	4.06	4.18	4.36	4.43	0.85	0.88	0.81	0.86	0.97	0.95
	26	4.13	4.14	4.21	4.23	4.28	4.34	0.80	0.80	0.86	0.92	0.90	0.90
	27	3.91	4.13	4.19	4.03	4.27	4.22	0.72	0.78	0.87	0.85	0.86	0.84
28	内 調整力	3.97	4.21	4.13	3.95	4.26	4.30	0.76	0.86	0.84	0.81	0.91	0.92
	29	4.02	3.93	4.21	4.00	4.24	4.17	0.75	0.74	0.86	0.82	0.88	0.87
	30	4.07	4.12	4.23	3.97	4.23	4.20	0.78	0.84	0.88	0.81	0.88	0.88
31	気づき	4.06	4.19	4.15	3.96	4.26	4.25	0.78	0.90	0.87	0.82	0.91	0.93
	32	4.08	4.00	4.03	4.05	4.10	4.10	0.80	0.79	0.80	0.81	0.80	0.86
	33	4.29	4.23	4.22	4.20	4.27	4.29	0.91	0.86	0.85	0.89	0.90	0.90
	34	4.10	4.09	4.20	4.14	4.28	4.27	0.84	0.72	0.84	0.82	0.86	0.88

		前回調査よりも増加						前回調査よりも増加						
		平均						肯定の割合 (4.5の人数/合計人数)						
		1年 6月	1年 2月	2年 9月	2年 12月	3年 4月	3年 7月	1年 6月	1年 2月	2年 9月	2年 12月	3年 4月	3年 7月	
35	関心度	これまでの習慣や考え方、やり方にとらわれず、新しい考え方ややり方を試してみる	3.85	<b>3.93</b>	<b>3.95</b>	<b>3.97</b>	<b>4.14</b>	<b>4.22</b>	0.72	<b>0.76</b>	0.73	<b>0.81</b>	<b>0.86</b>	<b>0.86</b>
		社会的問題(環境・エネルギー、災害など)を、自分に関わる問題としてとらえている	3.72	<b>3.76</b>	3.71	<b>3.76</b>	<b>3.87</b>	<b>4.11</b>	0.61	<b>0.65</b>	0.58	<b>0.68</b>	<b>0.74</b>	<b>0.81</b>
		社会に対して自分が貢献できることは何かを考える	3.62	3.62	<b>3.70</b>	<b>3.72</b>	<b>3.81</b>	<b>3.89</b>	0.60	<b>0.60</b>	<b>0.62</b>	<b>0.66</b>	<b>0.73</b>	<b>0.73</b>
		現状をもっとよくするにはどうしたらよいかという観点で周囲のものをみて行動する	3.85	<b>4.13</b>	4.07	4.00	4.00	4.10	0.69	<b>0.80</b>	<b>0.83</b>	0.77	<b>0.83</b>	<b>0.84</b>
39	チャレンジ 積極性 精神	難しい目標を設定し、達成するまでチャレンジを続ける	3.56	<b>3.74</b>	<b>3.76</b>	<b>3.86</b>	<b>4.03</b>	<b>4.11</b>	0.61	<b>0.70</b>	0.64	<b>0.74</b>	<b>0.80</b>	<b>0.81</b>
		自分で考えて、決断し、結果に責任をもつ	4.06	3.95	<b>4.14</b>	4.03	<b>4.14</b>	<b>4.28</b>	0.78	<b>0.79</b>	0.79	<b>0.81</b>	0.79	<b>0.88</b>
		困難な状況におかれても、ものごとをよい方向へと考える	3.63	<b>3.76</b>	3.76	<b>3.93</b>	3.91	<b>3.98</b>	0.62	<b>0.71</b>	0.69	<b>0.74</b>	0.73	<b>0.77</b>
		人とは違うことや新しいことに挑戦しようとする	3.85	<b>3.91</b>	3.86	<b>3.92</b>	<b>4.03</b>	<b>4.06</b>	0.67	<b>0.73</b>	0.67	<b>0.74</b>	<b>0.80</b>	<b>0.80</b>
43	忍耐力・ 適応力	困難な状況におかれても、くじけずあきらめない	3.87	3.73	<b>3.90</b>	3.89	<b>3.99</b>	<b>4.01</b>	0.76	0.69	<b>0.71</b>	<b>0.77</b>	<b>0.78</b>	<b>0.78</b>
		失敗したことなどを引きずらずに、気持ちを切り替えていく	3.34	3.29	<b>3.44</b>	<b>3.68</b>	<b>3.79</b>	<b>3.88</b>	0.54	0.51	<b>0.55</b>	<b>0.69</b>	0.69	<b>0.71</b>
		環境や状況の変化に合わせて、自分や自分のやり方を変えて成長していく	3.91	3.90	3.88	3.88	<b>4.13</b>	<b>4.19</b>	0.75	0.74	0.71	<b>0.73</b>	<b>0.85</b>	<b>0.84</b>
		一つの考えにこだわらず、状況に応じて適切に判断していく	3.85	<b>4.01</b>	3.98	3.91	<b>4.13</b>	<b>4.17</b>	0.72	<b>0.74</b>	<b>0.76</b>	0.73	<b>0.81</b>	<b>0.86</b>
47	倫理性・ 一貫性	すべての人を平等に扱うように意識する	4.13	<b>4.22</b>	4.19	4.11	<b>4.31</b>	<b>4.25</b>	0.85	<b>0.86</b>	0.84	0.82	<b>0.90</b>	<b>0.90</b>
		客観的にみて正しい判断をするように意識する	4.17	<b>4.21</b>	<b>4.23</b>	4.22	<b>4.28</b>	<b>4.35</b>	0.85	<b>0.87</b>	0.86	<b>0.89</b>	0.88	<b>0.92</b>
		言っていることと行動とが一致するように努める	4.00	<b>4.15</b>	<b>4.21</b>	4.12	<b>4.16</b>	<b>4.27</b>	0.80	<b>0.81</b>	<b>0.86</b>	<b>0.88</b>	0.85	<b>0.89</b>
		相手の気持ちや状況にあった支援をする	4.16	<b>4.24</b>	4.16	3.96	<b>4.16</b>	4.23	0.84	<b>0.87</b>	0.84	0.82	<b>0.84</b>	<b>0.89</b>
51	リーダー シップ	目標の見通しを立てながら、ものごとを進めていく	3.72	<b>3.84</b>	3.79	<b>3.84</b>	<b>4.12</b>	<b>4.14</b>	0.64	<b>0.74</b>	0.70	<b>0.74</b>	<b>0.85</b>	<b>0.84</b>
		グループのリーダーとして約束した結果(成果や期限など)に向かって、責任をもってメンバーを導いていく	3.69	<b>3.77</b>	<b>3.83</b>	3.78	<b>4.00</b>	<b>3.93</b>	0.64	<b>0.70</b>	0.69	<b>0.69</b>	<b>0.76</b>	<b>0.73</b>
		グループのメンバーとして、グループ内での自分の役割を意識して行動する	4.11	<b>4.22</b>	<b>4.29</b>	4.12	<b>4.33</b>	<b>4.34</b>	0.83	<b>0.86</b>	<b>0.91</b>	0.85	<b>0.92</b>	<b>0.92</b>
		相手の合意が得られるまで粘り強く話し合いを続ける	3.76	<b>3.77</b>	<b>4.00</b>	3.95	<b>4.00</b>	<b>3.89</b>	0.64	<b>0.66</b>	<b>0.71</b>	<b>0.76</b>	0.73	<b>0.72</b>
55	異文化 理解交流	自分とは異なる文化・考えや価値観をもつ人々と知り合いになり、交流したい	4.11	4.01	<b>4.06</b>	4.04	4.02	<b>4.12</b>	0.77	0.77	0.77	<b>0.78</b>	0.77	<b>0.80</b>
		海外に行って、その文化や人々の考え方に触れ、現地の習慣に従い同じように生活してみたい	3.84	<b>3.91</b>	<b>3.98</b>	3.92	<b>4.05</b>	<b>4.11</b>	0.69	0.67	<b>0.73</b>	0.72	<b>0.78</b>	<b>0.78</b>
		海外から来た人に、自分の学校や自分の町、福井や日本のこと、自分たちの暮らしなどを紹介したい	3.62	3.59	<b>3.71</b>	<b>3.76</b>	<b>3.77</b>	<b>3.78</b>	0.62	0.60	<b>0.64</b>	<b>0.68</b>	0.64	<b>0.70</b>
		インターネット、テレビ等の外国語講座や動画を視聴したり、外国の歴史や伝統文化等を紹介する番組を見たり本を読んだりする	3.31	<b>3.47</b>	<b>3.56</b>	<b>3.70</b>	3.69	<b>3.84</b>	0.48	<b>0.58</b>	<b>0.60</b>	<b>0.68</b>	0.66	<b>0.70</b>
59	グロー バルな 視野	地球規模の諸問題(地球温暖化や紛争、貧富の差の拡大、エネルギー問題など)の仕組みを理解したい	3.97	3.95	3.95	3.82	3.74	3.95	0.75	0.73	0.73	0.70	<b>0.72</b>	<b>0.76</b>
		貧困や飢餓、紛争や災害などに苦しんでいる人たちのために自分にできることを考えたい	3.76	<b>3.83</b>	<b>3.85</b>	3.78	<b>3.84</b>	<b>3.89</b>	0.69	<b>0.73</b>	0.69	0.66	<b>0.73</b>	0.71
		身近な話題や目の前の課題と社会や海外の関わりについて考える	3.82	3.81	3.79	<b>3.84</b>	<b>3.97</b>	<b>3.98</b>	0.70	0.69	0.65	<b>0.69</b>	<b>0.77</b>	<b>0.73</b>
		世界の諸問題を解決するための解決策を考えて、提案したい	3.59	3.51	<b>3.69</b>	3.64	<b>3.76</b>	<b>3.84</b>	0.54	<b>0.57</b>	<b>0.62</b>	0.59	<b>0.71</b>	<b>0.71</b>
63	将来の 希望等	将来、留学したり、仕事で国際的に活躍したい	3.23	<b>3.26</b>	<b>3.47</b>	<b>3.55</b>	<b>3.77</b>	<b>3.75</b>	0.44	<b>0.50</b>	<b>0.57</b>	0.57	<b>0.70</b>	<b>0.64</b>
		新たな仕事やサービスを考え出したり、社会にイノベーション(変革)を起こすような仕事をしたい	3.75	3.49	<b>3.65</b>	3.43	<b>3.65</b>	<b>3.81</b>	0.64	0.60	<b>0.66</b>	0.62	<b>0.63</b>	<b>0.69</b>
		東南アジア諸国の産業や経済、それらと日本の関わりについて知りたい	2.95	2.94	<b>3.08</b>	3.00	<b>3.27</b>	<b>3.23</b>	0.40	0.37	0.37	<b>0.38</b>	<b>0.51</b>	<b>0.48</b>
		社会の様々な課題や、それらと科学や科学技術との関わりについて学びたい	3.38	<b>3.43</b>	<b>3.57</b>	3.43	<b>3.63</b>	<b>3.82</b>	0.57	0.55	<b>0.62</b>	0.57	<b>0.67</b>	<b>0.72</b>
		希望する進路に関して情報を集め、身に付けるべき力について理解している	3.48	<b>3.80</b>	<b>3.97</b>	3.93	<b>4.05</b>	<b>4.22</b>	0.48	<b>0.66</b>	<b>0.73</b>	0.72	<b>0.74</b>	<b>0.83</b>

# 令和7年度 2年生（高入生）

前回調査よりも増加

前回調査よりも増加

		平均				肯定の割合 (4,5の人数/合計人数)					
		1年 4月	1年 1月	2年 9月	2年 12月	1年 4月	1年 1月	2年 9月	2年 12月		
1	理解力・活用力 情報活用能力	本や新聞記事などを読んで、書かれてある内容を理解したり筆者・登場人物の意図・心情などを理解することができる	3.81	<b>3.87</b>	3.81	<b>3.92</b>		0.79	<b>0.83</b>	0.78	<b>0.79</b>
2		人の話を聞いて、その内容を理解したり話し手の意図・信条などを理解することができる	4.17	<b>4.19</b>	4.08	<b>4.10</b>		0.91	0.91	0.86	0.85
3		資料やグラフ・図表などを見て、それが何を表しているかを的確に読み取ることができる	3.90	3.89	<b>3.89</b>	<b>4.01</b>		0.76	<b>0.78</b>	<b>0.79</b>	<b>0.79</b>
4	表現力・発表力	授業中やグループ活動などで意見を求められたとき、自分の考えをすぐに言うことができる	3.69	<b>3.81</b>	<b>3.81</b>	<b>3.82</b>		0.66	<b>0.72</b>	0.71	<b>0.72</b>
5		レポート、ポスター、説明などの基本的なフォームや構成を知っている。	3.14	<b>3.58</b>	<b>3.69</b>	<b>3.83</b>		0.44	<b>0.63</b>	<b>0.70</b>	<b>0.73</b>
6		個人またはペア・グループで、調べたことや考えたことなどをクラスの前で発表することができる	3.68	<b>3.83</b>	<b>3.90</b>	3.86		0.65	<b>0.74</b>	<b>0.75</b>	0.74
7		意見を述べたり発表したりしたあとに、人からされる質問に対してすぐに答えることができる	3.29	<b>3.44</b>	<b>3.50</b>	<b>3.54</b>		0.43	<b>0.54</b>	<b>0.56</b>	0.56
8	批判的 質問力 思考力	KoAのグループの中で議論するときに、積極的に質問する	2.96	<b>3.42</b>	<b>3.71</b>	<b>3.78</b>		0.27	<b>0.56</b>	<b>0.66</b>	0.65
9		授業中のペア学習・グループ学習で議論するときに、積極的に質問する	3.40	<b>3.52</b>	<b>3.70</b>	<b>3.71</b>		0.53	<b>0.60</b>	<b>0.64</b>	<b>0.65</b>
10		グループ間討議で他のグループの研究内容を聞くときに、積極的に質問する	2.83	<b>3.06</b>	<b>3.23</b>	<b>3.37</b>		0.21	<b>0.36</b>	<b>0.44</b>	<b>0.47</b>
11		課題研究発表会で他のグループの研究内容を聞くときに、積極的に質問する	2.75	<b>2.85</b>	<b>3.12</b>	<b>3.23</b>		0.19	<b>0.28</b>	<b>0.43</b>	0.43
12		講演を聞いたり人の発表を聞いたりするときに、積極的に質問する	2.54	<b>2.67</b>	<b>2.94</b>	<b>3.01</b>		0.13	<b>0.23</b>	<b>0.36</b>	0.35
13		文章を読んだり人の話を聞いたりするときに、情報が十分な、理由や根拠が明確などを意識する	3.71	<b>3.74</b>	<b>3.87</b>	<b>3.99</b>		0.66	<b>0.73</b>	0.72	<b>0.79</b>
14		相手の言うことを鵜呑みにせず、なぜそう言えるのかなどを考えたり質問したりする	3.50	<b>3.60</b>	<b>3.68</b>	<b>3.73</b>		0.58	<b>0.62</b>	<b>0.62</b>	<b>0.67</b>
15	論理的 思考力	自分の意見や考えなどを論理的に述べるができる	3.51	<b>3.88</b>	3.81	<b>3.92</b>		0.59	<b>0.78</b>	0.77	<b>0.80</b>
16		予想や仮説を持って検証し、理解を深めようとする	3.70	<b>3.82</b>	3.79	<b>3.92</b>		0.67	<b>0.74</b>	0.70	<b>0.77</b>
17		人の意見を批判的に受けとめたり、論理的に反論したりする	3.49	<b>3.71</b>	<b>3.76</b>	<b>3.87</b>		0.54	<b>0.66</b>	<b>0.68</b>	<b>0.74</b>
18		人の意見を聞くときに、自分の意見と照らし合わせて考えた上で、発言する	3.92	<b>3.94</b>	3.89	<b>4.09</b>		0.75	<b>0.78</b>	0.77	<b>0.86</b>
19	問題 想像 解決力 力	正解が一つではない問題や複雑で難解な問題に対して、自分の意見を構築する	3.89	<b>3.97</b>	3.97	3.95		0.73	<b>0.84</b>	0.80	<b>0.83</b>
20		最終的なゴールや、時間の制約、処理プロセスなどを意識しながら、問題を解決する	3.42	<b>3.66</b>	<b>3.69</b>	<b>3.90</b>		0.53	<b>0.63</b>	<b>0.68</b>	<b>0.78</b>
21		自分が持っている知識や経験などを活用して、新しいアイデアや解決策を生み出し、提案する	3.63	<b>3.76</b>	<b>3.81</b>	<b>3.95</b>		0.62	<b>0.67</b>	<b>0.71</b>	<b>0.79</b>
22	コミュニ ケー ション	はじめて会う人とでも、対話を通して人間関係を築いていく	3.60	<b>3.72</b>	<b>3.76</b>	<b>3.88</b>		0.63	<b>0.65</b>	<b>0.70</b>	<b>0.73</b>
23		自分の意見や考えなどを、相手に理解してもらうように話することができる	3.79	<b>3.94</b>	3.89	<b>4.01</b>		0.69	<b>0.81</b>	0.75	<b>0.77</b>
24		相手の理解度や興味・関心などを確認しながら話することができる	3.93	<b>4.03</b>	3.91	<b>4.01</b>		0.77	<b>0.81</b>	0.77	<b>0.79</b>
25	リー ダー シ ッ プ	考え方の違いなどを受け入れながら、様々な人と一緒にものごとに取り組んでいこうとする	4.12	4.04	<b>4.05</b>	<b>4.10</b>		0.82	<b>0.84</b>	0.80	<b>0.84</b>
26		自分の強みや得意なことを生かして、集団の中で行動しようとする	3.88	<b>3.99</b>	<b>3.99</b>	<b>4.01</b>		0.69	<b>0.78</b>	<b>0.82</b>	0.82
27		集団の中で、全員が協力して活動するためにはどのようにしたらよいかを考えて行動する	3.90	3.89	<b>4.01</b>	<b>4.03</b>		0.72	<b>0.73</b>	<b>0.80</b>	0.80
28	内省 調整 力	自分のこれまでの経験を振り返り、そこから新たなことに気づくことができる	3.81	<b>3.97</b>	<b>3.97</b>	<b>4.09</b>		0.72	<b>0.78</b>	<b>0.81</b>	<b>0.86</b>
29		自分が今うまく実行できているかを考えながら、行動を調整するようにしている	3.85	<b>3.94</b>	<b>4.04</b>	<b>4.11</b>		0.74	<b>0.77</b>	<b>0.80</b>	<b>0.84</b>
30		自分の経験を振り返り、次に何ができるかについて考えるようにしている	3.78	<b>3.99</b>	3.99	<b>4.04</b>		0.69	<b>0.78</b>	<b>0.79</b>	0.78
31	気づき	自分の長所・短所、関心、課題などをよく振り返り、理解している	3.69	<b>3.87</b>	<b>3.92</b>	<b>4.05</b>		0.66	<b>0.74</b>	<b>0.77</b>	<b>0.82</b>
32		他者の気持ちや意図に気づいて、適切に行動する	3.92	<b>3.97</b>	<b>4.01</b>	<b>4.05</b>		0.74	<b>0.77</b>	<b>0.79</b>	<b>0.82</b>
33		自分と他者の考え方や価値観などの違いを意識する	4.21	<b>4.25</b>	4.20	<b>4.23</b>		0.85	<b>0.89</b>	<b>0.91</b>	0.88
34		自分と異なる意見や価値観をもつ人に対してであっても、良い点に目を向ける	4.08	<b>4.10</b>	4.07	<b>4.11</b>		0.81	0.77	<b>0.84</b>	0.82

		前回調査よりも増加					前回調査よりも増加			
		平均					肯定の割合 (4,5の人数/合計人数)			
		1年 4月	1年 1月	2年 9月	2年 12月		1年 4月	1年 1月	2年 9月	2年 12月
35 36 37 38 関心度	これまでの習慣や考え方、やり方にとらわれず、新しい考え方ややり方を試してみる	3.57	<b>3.63</b>	<b>3.73</b>	<b>3.94</b>		0.57	<b>0.60</b>	<b>0.67</b>	<b>0.77</b>
	社会的問題(環境・エネルギー、災害など)を、自分に関わる問題としてとらえている	3.58	<b>3.72</b>	3.72	<b>3.83</b>		0.62	<b>0.66</b>	<b>0.68</b>	<b>0.73</b>
	社会に対して自分が貢献できることは何かを考える	3.45	<b>3.47</b>	<b>3.59</b>	<b>3.71</b>		0.54	0.53	<b>0.60</b>	<b>0.68</b>
	現状をもっとよくするにはどうしたらよいかという観点で周囲のものをとらえて行動する	3.68	<b>3.73</b>	<b>3.79</b>	<b>3.88</b>		0.66	<b>0.67</b>	<b>0.72</b>	<b>0.75</b>
39 40 41 42 チャレンジ積極性精神	難しい目標を設定し、達成するまでチャレンジを続ける	3.46	<b>3.63</b>	<b>3.64</b>	<b>3.78</b>		0.56	<b>0.63</b>	<b>0.65</b>	<b>0.71</b>
	自分で考えて、決断し、結果に責任をもつ	3.85	<b>3.92</b>	3.91	<b>3.96</b>		0.71	<b>0.74</b>	<b>0.76</b>	<b>0.79</b>
	困難な状況におかれても、ものごとをよい方向へと考える	3.60	<b>3.61</b>	<b>3.68</b>	<b>3.78</b>		0.62	<b>0.63</b>	<b>0.66</b>	<b>0.69</b>
	人とは違うことや新しいことに挑戦しようとする	3.53	<b>3.69</b>	3.69	3.65		0.60	<b>0.63</b>	<b>0.65</b>	0.61
43 44 45 46 忍耐力・適応力	困難な状況におかれても、くじけずあきらめない	3.63	<b>3.69</b>	<b>3.84</b>	<b>3.85</b>		0.66	<b>0.68</b>	<b>0.73</b>	<b>0.76</b>
	失敗したことなどを引きずらずに、気持ちを切り替えていく	3.20	<b>3.42</b>	<b>3.43</b>	<b>3.58</b>		0.46	<b>0.55</b>	<b>0.57</b>	<b>0.63</b>
	環境や状況の変化に合わせて、自分や自分のやり方を変えて成長していく	3.80	<b>3.90</b>	<b>3.95</b>	3.84		0.70	<b>0.75</b>	<b>0.82</b>	0.72
	一つの考えにこだわらず、状況に応じて適切に判断していく	3.87	<b>3.90</b>	<b>3.92</b>	3.85		0.75	0.72	<b>0.77</b>	0.75
47 48 49 50 倫理性・一貫性	すべての人を平等に扱うように意識する	4.26	4.14	<b>4.18</b>	4.15		0.90	0.82	<b>0.86</b>	0.82
	客観的にみて正しい判断をするように意識する	4.19	<b>4.19</b>	<b>4.23</b>	4.16		0.88	0.86	<b>0.88</b>	0.84
	言っていることと行動とが一致するように努める	4.06	<b>4.15</b>	<b>4.21</b>	4.13		0.84	0.83	0.82	<b>0.84</b>
	相手の気持ちや状況にあった支援をする	4.11	<b>4.13</b>	4.12	4.11		0.83	0.83	0.83	0.82
51 52 53 54 リーダーシップ	目標の見通しを立てながら、ものごとを進めていく	3.80	<b>3.87</b>	3.84	<b>3.94</b>		0.74	<b>0.75</b>	0.75	<b>0.77</b>
	グループのリーダーとして約束した結果(成果や期限など)に向かって、責任をもってメンバーを導いていく	3.49	3.40	<b>3.44</b>	<b>3.54</b>		0.55	0.51	<b>0.53</b>	<b>0.58</b>
	グループのメンバーとして、グループ内での自分の役割を意識して行動する	4.06	4.04	<b>4.16</b>	4.05		0.83	0.80	<b>0.87</b>	0.81
	相手の合意が得られるまで粘り強く話し合いを続ける	3.46	<b>3.53</b>	<b>3.62</b>	<b>3.71</b>		0.53	<b>0.57</b>	<b>0.61</b>	<b>0.68</b>
55 56 57 58 異文化理解	自分とは異なる文化・考えや価値観をもつ人々と知り合いになり、交流したい	4.09	4.01	4.00	<b>4.05</b>		0.78	0.76	<b>0.79</b>	0.79
	海外に行き、その文化や人々の考え方に触れ、現地の習慣に従い同じように生活してみたい	3.73	<b>3.83</b>	<b>3.90</b>	<b>3.93</b>		0.63	<b>0.65</b>	<b>0.71</b>	<b>0.74</b>
	海外から来た人に、自分の学校や自分の町、福井や日本のこと、自分たちの暮らしなどを紹介したい	3.59	3.53	<b>3.68</b>	<b>3.76</b>		0.59	0.56	<b>0.64</b>	<b>0.69</b>
	インターネット、テレビ等の外国語講座や動画を視聴したり、外国の歴史や伝統文化等を紹介する番組を見たり本を読んだりする	2.94	<b>3.23</b>	<b>3.33</b>	<b>3.57</b>		0.38	<b>0.48</b>	<b>0.51</b>	<b>0.61</b>
59 60 61 62 グローバルな視野	地球規模の諸問題(地球温暖化や紛争、貧富の差の拡大、エネルギー問題など)の仕組みを理解したい	3.97	3.85	3.80	<b>3.89</b>		0.77	0.71	<b>0.73</b>	<b>0.74</b>
	貧困や飢餓、紛争や災害などに苦しんでいる人たちのために自分にできることを考えたい	4.05	3.75	3.75	<b>3.78</b>		0.79	0.69	<b>0.71</b>	0.67
	身近な話題や目の前の課題と社会や海外の関わりについて考える	3.83	3.65	<b>3.69</b>	<b>3.77</b>		0.70	0.60	<b>0.66</b>	<b>0.69</b>
	世界の諸問題を解決するための解決策を考えて、提案したい	3.65	3.45	3.42	<b>3.60</b>		0.60	0.53	0.53	<b>0.60</b>
63 64 65 66 67 将来の希望等	将来、留学したり、仕事で国際的に活躍したい	3.18	3.09	<b>3.10</b>	<b>3.33</b>		0.45	0.40	<b>0.47</b>	<b>0.49</b>
	新たな仕事やサービスを考え出したり、社会にイノベーション(変革)を起こすような仕事をしたい	3.22	3.13	<b>3.21</b>	<b>3.39</b>		0.40	0.40	<b>0.42</b>	<b>0.51</b>
	東南アジア諸国の産業や経済、それらと日本の関わりについて知りたい	2.87	2.65	<b>2.92</b>	<b>3.04</b>		0.27	0.25	<b>0.35</b>	<b>0.40</b>
	社会の様々な課題や、それらと科学や科学技術との関わりについて学びたい	3.46	3.12	<b>3.38</b>	3.38		0.54	0.45	<b>0.53</b>	0.51
	希望する進路に関して情報を集め、身に付けるべき力について理解している	3.44	<b>3.63</b>	<b>3.76</b>	3.71		0.56	<b>0.61</b>	<b>0.70</b>	0.65

# 令和7年度 2年生 (内進生)

前回調査よりも増加

前回調査よりも増加

		平均					肯定の割合 (4,5の人数/合計人数)			
		1年 4月	1年 1月	2年 9月	2年 12月		1年 4月	1年 1月	2年 9月	2年 12月
		1	理解力・情報活用・分析力	3.92	<b>4.00</b>	3.99	<b>4.15</b>		0.84	<b>0.86</b>
2	理解力・情報活用・分析力	4.12	<b>4.17</b>	<b>4.21</b>	<b>4.26</b>		0.84	<b>0.86</b>	<b>0.87</b>	<b>0.92</b>
3	理解力・情報活用・分析力	4.11	<b>4.18</b>	4.11	<b>4.12</b>		0.89	<b>0.89</b>	0.84	0.84
4	表現力・発表力	3.99	<b>4.11</b>	4.11	<b>4.11</b>		0.80	<b>0.83</b>	0.83	<b>0.86</b>
5		4.00	<b>4.22</b>	4.14	<b>4.19</b>		0.81	<b>0.87</b>	<b>0.89</b>	0.84
6		4.13	<b>4.14</b>	4.13	<b>4.22</b>		0.81	<b>0.83</b>	<b>0.84</b>	<b>0.89</b>
7		3.80	<b>3.92</b>	<b>3.93</b>	<b>3.97</b>		0.69	<b>0.76</b>	0.76	0.76
8	批判的 質問力 思考力	3.35	<b>3.97</b>	<b>4.00</b>	3.97		0.37	<b>0.76</b>	0.74	0.73
9		3.69	<b>3.96</b>	3.86	<b>3.93</b>		0.61	<b>0.76</b>	0.72	<b>0.76</b>
10		2.98	<b>3.46</b>	<b>3.67</b>	3.64		0.29	<b>0.55</b>	<b>0.63</b>	0.62
11		2.94	<b>3.34</b>	<b>3.57</b>	3.54		0.23	<b>0.53</b>	<b>0.58</b>	0.57
12		2.86	<b>3.13</b>	<b>3.38</b>	3.34		0.27	<b>0.39</b>	<b>0.51</b>	0.50
13		3.67	<b>4.09</b>	4.03	<b>4.24</b>		0.65	<b>0.80</b>	0.79	<b>0.89</b>
14		3.55	<b>3.99</b>	3.97	<b>4.24</b>		0.57	<b>0.76</b>	0.76	<b>0.89</b>
15	論理的 思考力	3.77	<b>4.12</b>	4.09	<b>4.20</b>		0.72	<b>0.91</b>	0.86	<b>0.88</b>
16		3.92	<b>4.07</b>	<b>4.14</b>	<b>4.19</b>		0.80	<b>0.86</b>	<b>0.91</b>	0.89
17		3.53	<b>4.09</b>	<b>4.12</b>	<b>4.19</b>		0.55	<b>0.80</b>	<b>0.86</b>	<b>0.88</b>
18		3.84	<b>4.18</b>	4.14	<b>4.27</b>		0.72	<b>0.89</b>	0.87	<b>0.89</b>
19	問題 想像 解決力 力	3.99	<b>4.16</b>	<b>4.20</b>	<b>4.27</b>		0.77	<b>0.88</b>	<b>0.89</b>	0.89
20		3.70	<b>4.09</b>	3.99	<b>4.09</b>		0.64	<b>0.83</b>	0.83	<b>0.84</b>
21		3.83	<b>4.18</b>	4.07	<b>4.24</b>		0.72	<b>0.88</b>	0.84	<b>0.85</b>
22	コミュ ニケー ション	4.00	3.95	3.84	<b>4.01</b>		0.76	0.75	0.72	<b>0.81</b>
23		3.83	<b>4.18</b>	4.07	<b>4.24</b>		0.70	<b>0.84</b>	0.84	<b>0.86</b>
24		4.00	<b>4.18</b>	4.11	<b>4.24</b>		0.72	<b>0.84</b>	<b>0.86</b>	<b>0.91</b>
25	リー ダー シッ プ	4.19	<b>4.25</b>	4.20	<b>4.31</b>		0.84	<b>0.88</b>	0.87	<b>0.93</b>
26		4.18	<b>4.32</b>	4.22	<b>4.36</b>		0.86	<b>0.87</b>	0.87	<b>0.92</b>
27		4.17	<b>4.26</b>	4.18	<b>4.34</b>		0.87	<b>0.89</b>	0.89	<b>0.91</b>
28	内省 調整 力	3.86	<b>4.25</b>	4.11	<b>4.19</b>		0.72	<b>0.91</b>	0.86	0.82
29		3.99	<b>4.14</b>	4.13	4.12		0.77	<b>0.80</b>	<b>0.86</b>	<b>0.86</b>
30		3.94	<b>4.37</b>	4.14	<b>4.26</b>		0.77	<b>0.88</b>	0.84	<b>0.92</b>
31	気づき	3.88	<b>4.11</b>	4.11	<b>4.22</b>		0.71	<b>0.80</b>	<b>0.82</b>	<b>0.88</b>
32		3.96	<b>4.09</b>	<b>4.14</b>	<b>4.23</b>		0.73	<b>0.80</b>	<b>0.86</b>	<b>0.88</b>
33		4.19	<b>4.30</b>	4.29	<b>4.34</b>		0.87	<b>0.88</b>	<b>0.92</b>	<b>0.93</b>
34		4.13	<b>4.17</b>	4.14	<b>4.28</b>		0.86	0.84	<b>0.86</b>	<b>0.91</b>

		前回調査よりも増加				前回調査よりも増加				
		平均				肯定の割合 (4,5の人数/合計人数)				
		1年 4月	1年 1月	2年 9月	2年 12月	1年 4月	1年 1月	2年 9月	2年 12月	
35	関心度	これまでの習慣や考え方ややり方にとらわれず、新しい考え方ややり方を試してみる	3.83	<b>4.08</b>	<b>4.17</b>	<b>4.22</b>	0.70	<b>0.79</b>	<b>0.88</b>	0.86
36		社会的問題(環境・エネルギー、災害など)を、自分に関わる問題としてとらえている	3.51	<b>4.05</b>	3.95	<b>4.00</b>	0.54	<b>0.80</b>	0.79	0.78
37		社会に対して自分が貢献できることは何かを考える	3.51	<b>3.88</b>	3.83	<b>3.96</b>	0.58	<b>0.71</b>	<b>0.76</b>	<b>0.77</b>
38		現状をもっとよくするにはどうしたらよいかという観点で周囲のものをとらえて行動する	3.81	<b>4.11</b>	4.05	<b>4.14</b>	0.70	<b>0.84</b>	0.83	<b>0.84</b>
39	チャレンジ積極性精神	難しい目標を設定し、達成するまでチャレンジを続ける	3.69	<b>4.03</b>	3.99	<b>4.03</b>	0.60	<b>0.79</b>	<b>0.80</b>	0.80
40		自分で考えて、決断し、結果に責任をもつ	4.06	<b>4.08</b>	<b>4.16</b>	4.12	0.78	<b>0.79</b>	<b>0.87</b>	0.86
41		困難な状況におかれても、ものごとをよい方向へと考える	3.72	<b>3.99</b>	<b>4.09</b>	<b>4.19</b>	0.65	<b>0.76</b>	<b>0.84</b>	0.84
42		人とは違うことや新しいことに挑戦しようとする	3.73	<b>4.01</b>	<b>4.05</b>	<b>4.09</b>	0.59	<b>0.76</b>	<b>0.78</b>	<b>0.80</b>
43	忍耐力・適応力	困難な状況におかれても、くじけずあきらめない	3.77	<b>3.89</b>	<b>4.03</b>	<b>4.09</b>	0.70	<b>0.71</b>	<b>0.86</b>	0.78
44		失敗したことなどを引きずらずに、気持ちを切り替えていく	3.20	<b>3.68</b>	<b>3.84</b>	3.80	0.45	<b>0.67</b>	<b>0.72</b>	0.70
45		環境や状況の変化に合わせて、自分や自分のやり方を変えて成長していく	3.89	<b>4.08</b>	3.99	<b>4.24</b>	0.75	<b>0.80</b>	<b>0.82</b>	<b>0.86</b>
46		一つの考えにこだわらず、状況に応じて適切に判断していく	3.99	<b>4.12</b>	4.00	<b>4.22</b>	0.76	<b>0.79</b>	<b>0.80</b>	<b>0.85</b>
47	倫理性・一貫性	すべての人を平等に扱うように意識する	4.14	<b>4.24</b>	4.22	<b>4.28</b>	0.81	<b>0.86</b>	<b>0.91</b>	<b>0.93</b>
48		客観的にみて正しい判断をするように意識する	4.23	4.20	<b>4.24</b>	<b>4.41</b>	0.86	0.86	<b>0.91</b>	<b>0.95</b>
49		言っていることと行動とが一致するように努める	4.10	<b>4.17</b>	4.12	<b>4.27</b>	0.80	<b>0.83</b>	<b>0.87</b>	<b>0.88</b>
50		相手の気持ちや状況にあった支援をする	4.13	<b>4.20</b>	4.14	<b>4.30</b>	0.76	<b>0.83</b>	<b>0.87</b>	<b>0.92</b>
51	リーダーシップ	目標の見通しを立てながら、ものごとを進めていく	3.71	<b>4.13</b>	4.03	<b>4.07</b>	0.70	<b>0.82</b>	<b>0.83</b>	<b>0.84</b>
52		グループのリーダーとして約束した結果(成果や期限など)に向かって、責任をもってメンバーを導いていく	3.70	<b>3.83</b>	<b>3.92</b>	3.86	0.64	<b>0.68</b>	<b>0.78</b>	0.69
53		グループのメンバーとして、グループ内での自分の役割を意識して行動する	4.18	<b>4.25</b>	4.20	<b>4.26</b>	0.84	<b>0.87</b>	0.87	<b>0.88</b>
54		相手の合意が得られるまで粘り強く話し合いを続ける	3.58	<b>3.75</b>	<b>3.99</b>	3.97	0.57	<b>0.66</b>	<b>0.80</b>	0.80
55	異文化理解交流	自分とは異なる文化・考えや価値観をもつ人々と知り合いになり、交流したい	4.22	4.20	4.17	4.15	0.84	0.84	<b>0.87</b>	0.84
56		海外に行って、その文化や人々の考え方に触れ、現地の習慣に従い同じように生活してみたい	3.92	<b>4.13</b>	4.13	4.08	0.71	<b>0.82</b>	<b>0.83</b>	0.80
57		海外から来た人に、自分の学校や自分の町、福井や日本のこと、自分たちの暮らしなどを紹介したい	3.66	<b>3.84</b>	<b>3.91</b>	<b>3.95</b>	0.59	<b>0.70</b>	<b>0.78</b>	0.74
58		インターネット、テレビ等の外国語講座や動画を視聴したり、外国の歴史や伝統文化等を紹介する番組を見たり本を読んだりする	3.14	<b>3.58</b>	<b>3.59</b>	<b>3.70</b>	0.45	<b>0.61</b>	<b>0.67</b>	0.65
59	グローバルな視野	地球規模の諸問題(地球温暖化や紛争、貧富の差の拡大、エネルギー問題など)の仕組みを理解したい	3.87	<b>3.92</b>	<b>4.01</b>	4.00	0.69	<b>0.71</b>	<b>0.79</b>	0.78
60		貧困や飢餓、紛争や災害などに苦しんでいる人たちのために自分にできることを考えたい	3.96	<b>3.99</b>	3.95	<b>3.99</b>	0.73	0.72	<b>0.74</b>	<b>0.76</b>
61		身近な話題や目の前の課題と社会や海外の関わりについて考える	3.76	<b>3.93</b>	3.92	<b>4.12</b>	0.71	<b>0.75</b>	0.74	<b>0.84</b>
62		世界の諸問題を解決するための解決策を考えて、提案したい	3.48	<b>3.79</b>	<b>3.92</b>	3.84	0.51	<b>0.66</b>	<b>0.75</b>	0.74
63	将来の希望等	将来、留学したり、仕事で国際的に活躍したい	3.34	<b>3.46</b>	<b>3.62</b>	<b>3.68</b>	0.48	<b>0.57</b>	<b>0.66</b>	<b>0.68</b>
64		新たな仕事やサービスを考え出したり、社会にイノベーション(変革)を起こすような仕事をしたい	3.48	<b>3.79</b>	3.79	<b>3.82</b>	0.54	<b>0.68</b>	<b>0.70</b>	<b>0.70</b>
65		東南アジア諸国の産業や経済、それらと日本の関わりについて知りたい	2.95	<b>3.04</b>	<b>3.32</b>	3.30	0.27	<b>0.37</b>	<b>0.49</b>	0.45
66		社会の様々な課題や、それらと科学や科学技術との関わりについて学びたい	3.41	<b>3.59</b>	<b>3.66</b>	<b>3.69</b>	0.53	<b>0.61</b>	<b>0.64</b>	0.64
67	希望する進路に関して情報を集め、身に付けるべき力について理解している	3.19	<b>3.82</b>	<b>4.03</b>	<b>4.09</b>	0.45	<b>0.71</b>	<b>0.86</b>	0.76	

# 令和7年度 1年生（高入生）

		前回調査よりも増加		前回調査よりも増加		
		平均		肯定の割合 (4,5の人数/合計人数)		
		1年 4月	1年 1月	1年 4月	1年 1月	
1	理解力・分析力 情報活用能力	本や新聞記事などを読んで、書かれてある内容を理解したり筆者・登場人物の意図・心情などを理解することができる	3.72	3.77	0.73	0.79
		人の話を聞いて、その内容を理解したり話し手の意図・信条などを理解することができる	4.05	4.01	0.85	0.85
		資料やグラフ・図表などを見て、それが何を表しているかを的確に読み取ることができる	3.81	3.95	0.74	0.81
4	表現力・発表力	授業中やグループ活動などで意見を求められたとき、自分の考えをすぐに言うことができる	3.54	3.68	0.59	0.66
		レポート、ポスター、説明などの基本的なフォームや構成を知っている。	3.19	3.51	0.46	0.55
		個人またはペア・グループで、調べたことや考えたことなどをクラスの前で発表することができる	3.69	3.77	0.63	0.70
		意見を述べたり発表したりしたあとに、人からされる質問に対してすぐに答えることができる	3.25	3.32	0.46	0.48
8	批判的 質問力 思考力	KoAのグループの中で議論するときに、積極的に質問する	3.24	3.64	0.38	0.63
		授業中のペア学習・グループ学習で議論するときに、積極的に質問する	3.34	3.54	0.48	0.60
		グループ間討議で他のグループの研究内容を聞くときに、積極的に質問する	2.83	3.19	0.27	0.43
		課題研究発表会で他のグループの研究内容を聞くときに、積極的に質問する	2.75	2.99	0.22	0.33
		講演を聞いたり人の発表を聞いたりするときに、積極的に質問する	2.55	2.54	0.17	0.17
		文章を読んだり人の話を聞いたりするときに、情報が十分な、理由や根拠が明確かなどを意識する	3.62	3.65	0.68	0.65
		相手の言うことを鵜呑みにせず、なぜそう言えるのかなどを考えたり質問したりする	3.45	3.61	0.54	0.58
15	論理的 思考力	自分の意見や考えなどを論理的に述べるができる	3.46	3.64	0.58	0.67
		予想や仮説を持って検証し、理解を深めようとする	3.60	3.69	0.64	0.68
		人の意見を批判的に受けとめたり、論理的に反論したりする	3.40	3.59	0.52	0.60
		人の意見を聞くときに、自分の意見と照らし合わせて考えた上で、発言する	3.79	3.89	0.70	0.73
19	問題 想像 解決力 力	正解が一つではない問題や複雑で難解な問題に対して、自分の意見を構築する	3.69	3.80	0.67	0.73
		最終的なゴールや、時間の制約、処理プロセスなどを意識しながら、問題を解決する	3.59	3.62	0.62	0.62
		自分が持っている知識や経験などを活用して、新しいアイデアや解決策を生み出し、提案する	3.66	3.81	0.63	0.69
22	コミュニケーション	はじめて会う人とでも、対話を通して人間関係を築いていく	3.54	3.71	0.61	0.66
		自分の意見や考えなどを、相手に理解してもらうように話することができる	3.74	3.87	0.71	0.75
		相手の理解度や興味・関心などを確認しながら話することができる	3.90	3.99	0.77	0.77
25	リーダー 協働・協調 力	考え方の違いなどを受け入れながら、様々な人と一緒にものごとに取り組んでいこうとする	4.02	4.02	0.80	0.83
		自分の強みや得意なことを生かして、集団の中で行動しようとする	3.99	3.94	0.81	0.74
		集団の中で、全員が協力して活動するためにはどのようにしたらよいかを考えて行動する	3.80	3.84	0.71	0.72
28	内省 調整力 力	自分のこれまでの経験を振り返り、そこから新たなことに気づくことができる	3.72	3.84	0.67	0.72
		自分が今うまく実行できているかを考えながら、行動を調整するようにしている	3.84	3.74	0.77	0.69
		自分の経験を振り返り、次に何ができるかについて考えるようにしている	3.80	3.81	0.74	0.70
31	気づき	自分の長所・短所、関心、課題などをよく振り返り、理解している	3.74	3.92	0.68	0.80
		他者の気持ちや意図に気づいて、適切に行動する	3.94	4.03	0.77	0.81
		自分と他者の考え方や価値観などの違いを意識する	4.09	4.19	0.85	0.87
		自分と異なる意見や価値観をもつ人に対してであっても、良い点に目を向ける	4.07	4.15	0.81	0.88

		前回調査よりも増加			前回調査よりも増加		
		平均			肯定の割合 (4,5の人数/合計人数)		
		1年 4月	1年 1月		1年 4月	1年 1月	
35	関心度	これまでの習慣や考え方ややり方にとらわれず、新しい考え方ややり方を試してみる	3.62	<b>3.63</b>		0.63	<b>0.63</b>
36		社会的問題(環境・エネルギー、災害など)を、自分に関わる問題としてとらえている	3.70	3.65		0.68	0.66
37		社会に対して自分が貢献できることは何かを考える	3.51	<b>3.58</b>		0.57	<b>0.58</b>
38		現状をもっとよくするにはどうしたらよいかという観点で周囲のものごとをみて行動する	3.77	3.70		0.66	0.64
39	チャレンジ積極性精神	難しい目標を設定し、達成するまでチャレンジを続ける	3.60	<b>3.60</b>		0.59	<b>0.64</b>
40		自分で考えて、決断し、結果に責任をもつ	3.79	<b>3.99</b>		0.70	<b>0.76</b>
41		困難な状況におかれても、ものごとをよい方向へと考える	3.53	<b>3.75</b>		0.58	<b>0.66</b>
42		人とは違うことや新しいことに挑戦しようとする	3.54	<b>3.60</b>		0.56	<b>0.60</b>
43	忍耐力・適応力	困難な状況におかれても、くじけずあきらめない	3.75	<b>3.79</b>		0.68	<b>0.70</b>
44		失敗したことなどを引きずらずに、気持ちを切り替えていく	3.21	<b>3.36</b>		0.45	<b>0.54</b>
45		環境や状況の変化に合わせて、自分や自分のやり方を変えて成長していく	3.79	<b>3.88</b>		0.72	<b>0.75</b>
46		一つの考えにこだわらず、状況に応じて適切に判断していく	3.76	<b>3.81</b>		0.68	<b>0.70</b>
47	倫理性・一貫性	すべての人を平等に扱うように意識する	4.11	<b>4.11</b>		0.80	<b>0.82</b>
48		客観的にみて正しい判断をするように意識する	4.19	4.15		0.87	<b>0.89</b>
49		言っていることと行動とが一致するように努める	4.04	4.03		0.81	<b>0.83</b>
50		相手の気持ちや状況にあった支援をする	4.11	<b>4.19</b>		0.85	<b>0.89</b>
51	リーダーシップ	目標の見通しを立てながら、ものごとを進めていく	3.64	<b>3.65</b>		0.64	<b>0.66</b>
52		グループのリーダーとして約束した結果(成果や期限など)に向かって、責任をもってメンバーを導いていく	3.40	3.34		0.49	0.46
53		グループのメンバーとして、グループ内での自分の役割を意識して行動する	3.91	3.91		0.79	0.77
54		相手の合意が得られるまで粘り強く話し合いを続ける	3.46	<b>3.63</b>		0.56	<b>0.62</b>
55	異文化理解	自分とは異なる文化・考えや価値観をもつ人々と知り合いになり、交流したい	3.97	<b>4.03</b>		0.74	<b>0.79</b>
56		海外に行って、その文化や人々の考え方に触れ、現地の習慣に従い同じように生活してみたい	3.90	<b>3.97</b>		0.70	<b>0.77</b>
57		海外から来た人に、自分の学校や自分の町、福井や日本のこと、自分たちの暮らしなどを紹介したい	3.59	<b>3.62</b>		0.58	<b>0.59</b>
58		インターネット、テレビ等の外国語講座や動画を視聴したり、外国の歴史や伝統文化等を紹介する番組を見たり本を読んだりする	2.99	<b>3.30</b>		0.41	<b>0.48</b>
59	グローバルな視野	地球規模の諸問題(地球温暖化や紛争、貧富の差の拡大、エネルギー問題など)の仕組みを理解したい	3.92	3.69		0.75	0.64
60		貧困や飢餓、紛争や災害などに苦しんでいる人たちのために自分にできることを考えたい	3.88	3.81		0.72	<b>0.73</b>
61		身近な話題や目の前の課題と社会や海外の関わりについて考える	3.77	3.68		0.67	0.60
62		世界の諸問題を解決するための解決策を考えて、提案したい	3.62	3.42		0.58	0.51
63	将来の希望等	将来、留学したり、仕事で国際的に活躍したい	3.17	3.15		0.40	0.40
64		新たな仕事やサービスを考え出したり、社会にイノベーション(変革)を起こすような仕事をしたい	3.28	3.23		0.42	0.40
65		東南アジア諸国の産業や経済、それらと日本の関わりについて知りたい	2.87	<b>2.91</b>		0.26	<b>0.32</b>
66		社会の様々な課題や、それらと科学や科学技術との関わりについて学びたい	3.35	3.21		0.46	0.46
67		希望する進路に関して情報を集め、身に付けるべき力について理解している	3.44	<b>3.62</b>		0.53	<b>0.62</b>

# 令和7年度 1年生（内進生）

		前回調査よりも増加			前回調査よりも増加		
		平均			肯定の割合 (4,5の人数/合計人数)		
		1年 4月	1年 1月		1年 4月	1年 1月	
1	理解力・分析力 情報活用能力	本や新聞記事などを読んで、書かれてある内容を理解したり筆者・登場人物の意図・心情などを理解することができる	3.82	4.02	↗	0.80	0.89
		人の話を聞いて、その内容を理解したり話し手の意図・信条などを理解することができる	3.96	4.16	↗	0.79	0.88
		資料やグラフ・図表などを見て、それが何を表しているかを的確に読み取ることができる	4.08	4.05	↘	0.85	0.89
4	表現力・発表力	授業中やグループ活動などで意見を求められたとき、自分の考えをすぐに言うことができる	3.85	3.99	↗	0.74	0.79
		レポート、ポスター、説明などの基本的なフォームや構成を知っている。	3.88	4.09	↗	0.73	0.86
		個人またはペア・グループで、調べたことや考えたことなどをクラスの前で発表することができる	4.00	4.07	↗	0.79	0.81
		意見を述べたり発表したりしたあとに、人からされる質問に対してすぐに答えることができる	3.60	3.69	↗	0.60	0.68
8	批判的 質問力 思考力	KoAのグループの中で議論するときに、積極的に質問する	3.38	3.86	↗	0.48	0.71
		授業中のペア学習・グループ学習で議論するときに、積極的に質問する	3.72	3.87	↗	0.65	0.71
		グループ間討議で他のグループの研究内容を聞くときに、積極的に質問する	3.36	3.60	↗	0.51	0.59
		課題研究発表会で他のグループの研究内容を聞くときに、積極的に質問する	3.14	3.36	↗	0.39	0.49
		講演を聞いたり人の発表を聞いたりするときに、積極的に質問する	2.91	3.09	↗	0.33	0.39
		文章を読んだり人の話を聞いたりするときに、情報が十分な、理由や根拠が明確かなどを意識する	3.89	3.92	↗	0.74	0.78
		相手の言うことを鵜呑みにせず、なぜそう言えるのかなどを考えたり質問したりする	3.87	3.95	↗	0.69	0.76
15	論理的 思考力	自分の意見や考えなどを論理的に述べることができる	3.98	4.08	↗	0.82	0.85
		予想や仮説を持って検証し、理解を深めようとする	3.93	4.05	↗	0.84	0.80
		人の意見を批判的に受けとめたり、論理的に反論したりする	3.89	4.01	↗	0.71	0.79
		人の意見を聞くときに、自分の意見と照らし合わせて考えた上で、発言する	4.07	4.16	↗	0.81	0.86
19	問題 想像 解決力	正解が一つではない問題や複雑で難解な問題に対して、自分の意見を構築する	4.11	4.04	↘	0.87	0.82
		最終的なゴールや、時間の制約、処理プロセスなどを意識しながら、問題を解決する	3.66	3.85	↗	0.65	0.73
		自分が持っている知識や経験などを活用して、新しいアイデアや解決策を生み出し、提案する	3.82	3.99	↗	0.71	0.78
22	コミュニケーション	はじめて会う人とでも、対話を通して人間関係を築いていく	3.66	3.86	↗	0.67	0.71
		自分の意見や考えなどを、相手に理解してもらうように話することができる	3.82	3.98	↗	0.75	0.79
		相手の理解度や興味・関心などを確認しながら話することができる	3.84	3.92	↗	0.72	0.72
25	リーダー 協働・協調 シツプ	考え方の違いなどを受け入れながら、様々な人と一緒にものごとに取り組んでいこうとする	4.27	4.11	↘	0.92	0.82
		自分の強みや得意なことを生かして、集団の中で行動しようとする	4.09	4.05	↘	0.80	0.79
		集団の中で、全員が協力して活動するためにはどのようにしたらよいかを考えて行動する	3.86	3.96	↗	0.74	0.71
28	内省 調整 力	自分のこれまでの経験を振り返り、そこから新たなことに気づくことができる	3.99	4.09	↗	0.82	0.81
		自分が今うまく実行できているかを考えながら、行動を調整するようにしている	3.89	4.07	↗	0.78	0.81
		自分の経験を振り返り、次に何ができるかについて考えるようにしている	4.01	4.07	↗	0.80	0.80
31	気づき	自分の長所・短所、関心、課題などをよく振り返り、理解している	3.82	4.08	↗	0.72	0.82
		他者の気持ちや意図に気づいて、適切に行動する	3.88	3.92	↗	0.75	0.75
		自分と他者の考え方や価値観などの違いを意識する	4.13	4.08	↘	0.85	0.79
		自分と異なる意見や価値観をもつ人に対してであっても、良い点に目を向ける	4.00	4.09	↗	0.81	0.82

		前回調査よりも増加			前回調査よりも増加		
		平均			肯定の割合 (4,5の人数/合計人数)		
		1年 4月	1年 1月		1年 4月	1年 1月	
35	関心度	これまでの習慣や考え方ややり方にとらわれず、新しい考え方ややり方を試してみる	3.93	4.00		0.78	0.79
36		社会的問題(環境・エネルギー、災害など)を、自分に関わる問題としてとらえている	3.59	3.75		0.59	0.67
37		社会に対して自分が貢献できることは何かを考える	3.41	3.56		0.56	0.59
38		現状をもっとよくするにはどうしたらよいかという観点で周囲のものごとをみて行動する	3.75	3.75		0.73	0.65
39	チャレンジ積極性精神	難しい目標を設定し、達成するまでチャレンジを続ける	3.73	3.75		0.69	0.68
40		自分で考えて、決断し、結果に責任をもつ	3.99	3.96		0.79	0.75
41		困難な状況におかれても、ものごとをよい方向へと考える	3.80	3.91		0.69	0.71
42		人とは違うことや新しいことに挑戦しようとする	4.04	3.99		0.80	0.71
43	忍耐力・適応力	困難な状況におかれても、くじけずあきらめない	3.81	3.67		0.71	0.69
44		失敗したことなどを引きずらずに、気持ちを切り替えていく	3.27	3.53		0.49	0.59
45		環境や状況の変化に合わせて、自分や自分のやり方を変えて成長していく	3.93	3.89		0.80	0.75
46		一つの考えにこだわらず、状況に応じて適切に判断していく	3.81	3.98		0.68	0.80
47	倫理性・一貫性	すべての人を平等に扱うように意識する	3.99	3.98		0.80	0.78
48		客観的にみて正しい判断をするように意識する	4.07	4.20		0.84	0.84
49		言っていることと行動とが一致するように努める	3.92	4.00		0.76	0.80
50		相手の気持ちや状況にあった支援をする	4.05	4.14		0.80	0.81
51	リーダーシップ	目標の見通しを立てながら、ものごとを進めていく	3.84	3.81		0.72	0.72
52		グループのリーダーとして約束した結果(成果や期限など)に向かって、責任をもってメンバーを導いていく	3.56	3.53		0.61	0.56
53		グループのメンバーとして、グループ内での自分の役割を意識して行動する	4.15	4.04		0.86	0.79
54		相手の合意が得られるまで粘り強く話し合いを続ける	3.58	3.73		0.61	0.68
55	異文化理解	自分とは異なる文化・考えや価値観をもつ人々と知り合いになり、交流したい	4.20	4.11		0.82	0.85
56		海外に行って、その文化や人々の考え方に触れ、現地の習慣に従い同じように生活してみたい	4.12	4.04		0.80	0.75
57		海外から来た人に、自分の学校や自分の町、福井や日本のこと、自分たちの暮らしなどを紹介したい	3.58	3.68		0.60	0.60
58		インターネット、テレビ等の外国語講座や動画を視聴したり、外国の歴史や伝統文化等を紹介する番組を見たり本を読んだりする	3.49	3.66		0.53	0.61
59	グローバルな視野	地球規模の諸問題(地球温暖化や紛争、貧富の差の拡大、エネルギー問題など)の仕組みを理解したい	3.95	3.94		0.78	0.78
60		貧困や飢餓、紛争や災害などに苦しんでいる人たちのために自分にできることを考えたい	3.56	3.73		0.61	0.68
61		身近な話題や目の前の課題と社会や海外の関わりについて考える	3.91	3.78		0.75	0.71
62		世界の諸問題を解決するための解決策を考えて、提案したい	3.60	3.68		0.59	0.64
63	将来の希望等	将来、留学したり、仕事で国際的に活躍したい	3.46	3.56		0.52	0.60
64		新たな仕事やサービスを考え出したり、社会にイノベーション(変革)を起こすような仕事をしたい	3.56	3.48		0.55	0.56
65		東南アジア諸国の産業や経済、それらと日本の関わりについて知りたい	3.14	3.24		0.36	0.48
66		社会の様々な課題や、それらと科学や科学技術との関わりについて学びたい	3.88	3.69		0.72	0.68
67		希望する進路に関して情報を集め、身に付けるべき力について理解している	3.61	3.92		0.59	0.71

## 8 全国SSH校課題研究テーマリスト（一部抜粋）

	A	B	C	D	E
1	保管場所	都道府	書籍名	テーマ名（日本語）	テーマ名（英語）
2	本校図書館2階閲覧室	京都府	2017年度SSH生徒課題研究収録 立命館高等学校	どこからともなく現れるコバエの発生対策	Preventive Measures for the Drosophila
3	本校図書館2階閲覧室	京都府	2017年度SSH生徒課題研究収録 立命館高等学校	ドリムシとゾウムシを用いた水質浄化	Using Euglena and Paramecium for Water Purification
4	本校図書館2階閲覧室	京都府	2017年度SSH生徒課題研究収録 立命館高等学校	様々な植物におけるDNA抽出と精製の最適化	Optimization of DNA Extraction and Purification from Different Plants
5	本校図書館2階閲覧室	京都府	2017年度SSH生徒課題研究収録 立命館高等学校	植物の成長とpHの関係	How the Level of pH Affects Plant Growth
6	本校図書館2階閲覧室	京都府	2017年度SSH生徒課題研究収録 立命館高等学校	カフェインの植物成長阻害	Plants that Resist Caffeine
7	本校図書館2階閲覧室	京都府	2017年度SSH生徒課題研究収録 立命館高等学校	セミの抜け殻分布による自然度調査	Habitat of Cicada Measured by Shell Distribution
8	本校図書館2階閲覧室	京都府	2017年度SSH生徒課題研究収録 立命館高等学校	プランナリアの外來種と在来種における生態の違い	A Comparison of Different Characteristics Between Local Species and Invasive Species of Planarians
9	本校図書館2階閲覧室	京都府	2017年度SSH生徒課題研究収録 立命館高等学校	納豆菌による水質浄化	Using NATTO Bacteria for Water Purification
10	本校図書館2階閲覧室	京都府	2017年度SSH生徒課題研究収録 立命館高等学校	人腿の錯覚について	Humans Make Illusions
11	本校図書館2階閲覧室	京都府	2017年度SSH生徒課題研究収録 立命館高等学校	エタノールを用いた大腸菌の成長抑制	The Inhibition of E.coli growth by ethanol
12	本校図書館2階閲覧室	京都府	2017年度SSH生徒課題研究収録 立命館高等学校	特殊な結晶形状に関する研究	Transition of Crystal Shape under Several Conditions
13	本校図書館2階閲覧室	京都府	2017年度SSH生徒課題研究収録 立命館高等学校	エステルキャンドルをつくらう	Making Ester Candles
14	本校図書館2階閲覧室	京都府	2017年度SSH生徒課題研究収録 立命館高等学校	ゲル法による結晶成長の遷移	Transition of Crystals Using the Gel Method
15	本校図書館2階閲覧室	京都府	2017年度SSH生徒課題研究収録 立命館高等学校	石けん作成による油と塩基性水溶液の最適化	The Creation and Efficiency of Soap
16	本校図書館2階閲覧室	京都府	2017年度SSH生徒課題研究収録 立命館高等学校	空と雲のスペクトルの比較	Comparison of the Spectra for Clear and Cloudy Sky
17	本校図書館2階閲覧室	京都府	2017年度SSH生徒課題研究収録 立命館高等学校	確く泥団子を作るには	How to Make a Mud Ball more Beautiful?
18	本校図書館2階閲覧室	京都府	2017年度SSH生徒課題研究収録 立命館高等学校	教室の環境状況調査からエコを考える...	Let's Make Classrooms That Have a Good Environment!
19	本校図書館2階閲覧室	京都府	2017年度SSH生徒課題研究収録 立命館高等学校	竹炭による水質浄化	The Purification Using Bamboo Charcoal
20	本校図書館2階閲覧室	京都府	2017年度SSH生徒課題研究収録 立命館高等学校	ペンタドロン法の法則について	Research and Application For a Pentadron

(14,600件以上のリストを掲載)

## 9 『探究活動のフェーズ毎のルーブリック』を活用した観点別評価 評価基準（一部掲載）

○全体の評価配分値

観点・評価項目	研究の意義づけ	課題の具体化	調査計画の立案と実施	情報収集と情報の評価	結果からの考察	合計
①知識・技能			5	5		10
②思考・判断・表現		5			5	10
③主体的に学習に取り組む態度	5		5			10
合計	5	5	10	5	5	30

発表会 評価シート

(指導者用)

所属・氏名( )

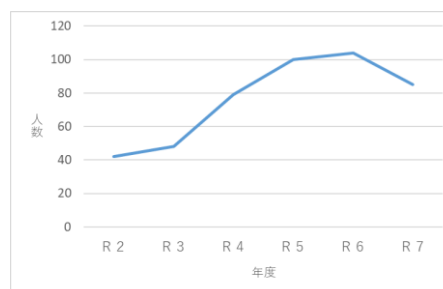
発表の分野・テーマ	分野	テーマ

評価点:5(大変良い)、4(良い)、3(標準)、2(もう一歩)、1(努力を要する)

	評価の観点	評価項目	評価点
I	研究の意義	◆学術的・社会的価値に触れて研究の意義を説明しているか 5 4 3 2 1	
II	課題の具体化	◆検証可能な問いや仮説を立てているか 5 4 3 2 1	
III	計画立案と実施	◆先行研究等を踏まえ、目的にあった研究方法がとられているか 5 4 3 2 1	
IV	情報収集と評価	◆表やグラフを用いて結果を提示し、解釈が正確になされているか 5 4 3 2 1	
V	結果からの考察	◆論理的な考察がされているか 5 4 3 2 1	
VI	発表のしかた	◆発表・質疑応答は論理的で分かりやすいか 5 4 3 2 1	
コメント(質問・感想)			/30

I～Vの評価基準の詳細は、課題研究ノート記載の「探究活動のフェーズごとのルーブリックPHASE I～V」を参照

## 10 科学系部活動の部員数の推移



## 11 運営指導委員会・コラボプロジェクト委員会の記録

### 【第1回 運営指導委員会 記録】

- 1 期 日 令和7年7月9日(水) 15:30~17:00
- 2 会 場 高志高校図書館2階 第2閲覧室
- 3 出席者 運営指導委員 日弁 隆雄 委員長 小野田 信春 委員 亀岡 郁雄 委員  
野路 佳男 委員  
助言者 秦 計代  
福井県教育庁 石田 昌也 参事  
野村 幸史 主任・SSH担当  
畑中 正美 福井県SSHコーディネーター  
高志高校 濱田 敏功(校長) 朝倉 智子(副校長) 西東 一彦(教頭)  
山崎 秀樹 南 浩子 西袋 歩
- 4 内容 (1) 本日の発表会について  
(2) 今年度のSSH研究開発実施計画について  
(3) 次期申請に向けて
- 5 指導・助言

#### ◆本日の発表会について

##### 【野路委員】

- ・プレゼン力の高さがある。プレゼン内容と研究内容という2つの観点から見ると、一方のみが優れているグループもあるが、両方優れているとよかった。
- ・先輩の先行研究を受け継ぎ発展させていくという姿勢がよい。
- ・中学校の探究活動においても、高校のレベルを目指していきたい。

##### 【小野田委員】

- ・発表会の司会進行を生徒がやっていたのがよかった。
- ・研究内容としては、高校の内容を超えた内容を扱っているグループがあったが、中にはもっと基礎的な内容を押さえた上で発展的な研究に取り組む方がよいグループもあった。
- ・一部は先行研究と何ら変わらないグループもあった。
- ・会場が広すぎて、スクリーンが小さく、少し見にくかった。
- ・ポスター発表はフレンドリーな感じで発言が多かったが、口頭発表は距離感があった。

##### 【日弁委員長】

- ・研究を進める過程でつまづいたとき、本当は基礎に戻ることが重要だが、その部分が抜けている。プレゼンテーションのためにきれいにまとめる意識が高く、例えば、平均は出しているが、ばらつきを出していないなど裏付けが不十分である。
- ・先輩の研究を受け継ぐのはよいが、その先輩の研究成果の土台をおろそかにし、最初から発展的な内容を研究しているので、これまでの研究成果を理解した上で積み上げるべきである。

##### 【亀岡委員】

- ・結果に対する評価方法が不足している。科学的なアプローチといった結果に対する評価が甘いので、説得力が弱い。企業や大学と連携し、活用することでクリアできる。

##### 【秦助言者】

- ・一人一台タブレットになり、学校だけではなく、家でも共同編集できるようになっているから発表資料も作成しやすい。
- ・義務教育段階で、指導に差があり、タブレットやアプリの使い方に慣れている生徒と慣れていない生徒がいると、高校に入ってから技術的な面で差ができてしまう。義務教育段階でもどの中学校でも指導が必要である。

◆今年度のSSH研究開発実施計画について

【野村主任】

- ・11月に実施予定の金津高校、若狭高校との合同での探究活動があるが、SSH校である若狭高校は理解できるが、非SSH校の金津高校とはどうつながったのか。

【山崎先生】

- ・以前本校で研究支援部だった教員が人事異動の関係で、金津高校に赴任し、金津高校で探究活動の担当になったということで、高志高校とつながった。

【野路委員】

- ・高校では様々な発表会が開催されているが、参加する中学校からすると、レベルの高いことをやっているのは伝わるが、その課題研究を通してどんな資質能力が育まれるのかが分からないため、なかなか参加しにくい。何か生徒がこのように成長したという例はないか。

【西東教頭】

- ・SSH校は課題研究に取り組む環境が整っているが、SSH校でないとテーマ設定から苦勞している学校がある。課題研究に取り組んだ内容を大学に進学しても継続して研究したいという動機で大学に進学するような例もある。

【小野田委員】

- ・進学実績だけではなく、課題研究で取り組んできたことが大学に進学してからどう生かされているかを感覚的ではなく、データとして見える化できるとよい。

【野路委員】

- ・どの大学に行ったとかどの企業に就職したとかいうことではなく、例えば、受け身ではなく能動的に活動できるようになったという生徒の変化が伝わるといい。

【濱田校長】

- ・KSAを実施しているのだから、その結果を見ればわかる。

【秦助言者】

- ・KSAの自己評価を生徒にも共有してほしい。全体的な傾向を学校が把握するだけではなく、生徒に共有することで生徒が自分の成長を実感することができる。

◆次期申請にむけて

【日弁委員長】

- ・システムについて、他の学校に需要があるのか。高志高校とネットワークを築くメリットがあるのか。外部の学校は独自のやり方がある中で、高志のやり方の魅力をどう伝えるのか工夫が大切である。高志のシステムが素晴らしいということは、内部の人間はわかるが、外部の人からはなかなか伝わりにくい。
- ・KSAを一般化して外部に提供するのではなく、例えば、一緒に一般化していこうと呼びかける方が外部の高校も乗っかってくれるのではないか。
- ・システムを増やしていただくだけではなく、古いシステムをそぎ落としていくことも重要である。新しいものをつくるだけではない。旧来のシステムをそのまま引き継いでいくのではパンクしてしまう。その辺も考慮してシステムを構築していかないと破綻する。しかし、提案自体は魅力的である。

【野路委員】

- ・他の学校からすると高志のノウハウをもらえるメリットはあるが、高志高校のメリットは何か。高志高校のメリットと福井県としてのメリットの2つを考えないといけない。

【小野田委員】

- ・海外校との共同した探究活動は見通しがもっているのか。
- ・国際コンテストへの出場者育成システムも見通しが立っているのか。

【亀岡委員】

- ・コアシステムの中に、とび抜けた人材を育成するという視点が抜けているのではないか。

## 【第2回 運営指導委員会 記録】

- 1 期 日 令和8年2月6日（金）15：50～17：10
- 2 会 場 高志高校図書館2階 第2閲覧室
- 3 出席者 運営指導委員 日 弁 隆雄 委員長 亀岡 郁雄 委員  
福井県教育庁 石田 昌也 参事  
野村 幸史 主任・SSH担当  
畑中 正美 福井県SSHコーディネーター  
高志高校 濱田 敏功（校長） 朝倉 智子（副校長） 西東 一彦（教頭）  
山崎 秀樹 南 浩子 米林 彩乃
- 4 内 容 (1) 本日の課題研究発表会について  
(2) 先導改革I期の研究の成果と課題について  
(3) 今後の研究開発の方向性について  
(4) その他
- 5 指導・助言

### ◆本日の課題研究発表会について

#### 【日弁委員長】

- ・どのように発表や研究をマンネリ化させないかが課題である。1年生の司会はよかった。もっと褒めてあげる機会があるとよい。質問する側に課題がある。
- ・全体的には研究の背景と結果のつながりが薄い印象である。社会背景などを述べる班が多いが、実際問題その社会的背景と研究自体のつながりが薄い。苦労話でもいいので、研究の本当の背景を述べられるとよい。自分の研究目標がきちんとなければ、仮説を立てることができないし、質問に答えることもできない。また、質問する側も質問が作りにくい。
- ・文系の研究については、理系に比べるとわかりやすい。インターネット社会においては、様々な情報を誰もが容易にとってこられる。研究を行った「現場感」が感じられるとよい。研究の基礎をしっかりと行うことが大切である。

#### 【亀岡委員】

- ・評価表がとてもよい。生徒が聞きながらも学ぶことができる形態になっている。
- ・人文、理数ともに1年生の司会者が質問をしたりして、良く勤めていた。
- ・理系の研究は仮説の検証が弱いまま進んでしまっているのではないか。「おきに行っている」研究が多い印象。もう少し泥臭い内容を盛り込んでもよいのではないか。どこに自分たちの発表の軸があるのかが、明確ではない班が多かった。中間発表であるので、仮説をたてることが重要。研究に厚みができるように指導する必要がある。教員としては中間発表時点でどこを目標にしているのか。
- ・人文は仮説の立ち上げは理系よりしっかりとしていた。評価点数として高かった。ただし、研究が進むにつれて、尻すぼみになってしまう研究もある。
- ・理数、人文それぞれに特徴があることはおもしろい傾向である。深掘りが進んでいると感じる。

#### 【山崎】

- ・「仮説を立てること」については、近年本校で力をいれて指導している。それが生かされた発表であった。仮説を立てるという行為自体は浸透してきているが、研究を深めるという意味で、仮説を立てるに至るプロセスをいかに他者に語るか、ということが今後の課題である。

#### 【亀岡委員】

- ・生徒の質問のレベルは向上しており、本質をつく質問が多くあった。発表者の説明に鋭い指摘をしていた。よい雰囲気議論や検討ができていたと感じる。

#### 【日弁委員長】

- ・Chat GPTは必ずしも正しい答えを与えないが、研究初期段階の生徒の質疑応答の練習相手としてはよい。Chat GPTには膨大な情報量があるので、仮説を投げてそれに対する応答を参考にするなど、活用する道もあるかもしれない。

【山崎】

- ・生成 AI が急激に発達する中で、実はかなりの班が仮説を立案する段階で活用している。

【亀岡委員】

- ・基本的に使ってよい、という指導か。

【山崎】

- ・むしろ推奨している。しかし、その情報の真偽を必ず自分で検証するよう指導している。

【濱田校長】

- ・Chat GPT は日常生活に浸透しつつある。他校でも使用の例が多くあると聞いた。

【石田高校教育課参事】

- ・データを元に分析、仮説を検証するというスタイルは踏襲できている。文系については質疑応答があまり活発ではなかった印象がある。理系は質疑応答が活発であったので同じようになるとよい。質問する側である聞き手の問題でもある。
- ・生成 AI は確かに日常生活に浸透していると感じるが、実際に使用する際は精査が必要である。どのように問いかけをするかによって AI の返答の質が変わる。その意味で、どんなことを聞きたいのか、という視点で自身の研究を分析することが研究の深化につながると考える。

#### ◆先導改革 I 期の研究の成果と課題について

【日弁委員長】

- ・参考文献を参照する例が増えたというのは、意識的に指導したのか、自然発生的であるのか。

【南】

- ・1 年生には、最初は何をするのかイメージがない生徒が多いので、一度先行研究を参照するよう全体指導している。このことで、何か興味がわいた際に、先行研究に立ち返ることができている。

【日弁委員長】

- ・参考文献とは何を指すのか、という疑問がある。理系の研究で大切なのは、自分の研究に何を引用したのか、ということである。それができているのかを検証する必要がある。本日参観した中で、参考文献を「引用した」班はなかった。自分の立ち位置を先行研究の中でどう決めていくかが大切。参考文献は慎重に、時間をかけて選ぶべきである。なんとなく探して、参考として附しておくという姿勢に終わらないようにしたい。自分の考え方を確かにするための読み方を学ぶ必要があるのではないか。大学の学問レベルまで到達する必要はないが、入り口には立ってほしい。研究においては、他者の中の自分であり、かつ他者に迎合するわけでもないというスタンスが必要。不完全でよいので、少しずつ進めていく必要がある。
- ・大学入試は形態が変わってきている。大学入学後にやりたいことがあるかどうかが大変であり、人物を見たいという姿勢が変わってきている。総合型入試において、大学はこれから人材を見極めて合格させていこう。

【濱田校長】

- ・12 月 26 日のワーキンググループの資料を拝見した。本校の「探究の手引き」「チェックリスト」「KoA-L map」などが今後も活かされるのではないかと感じるところである。

【亀岡委員】

- ・来校は生徒がきたのか、教員が来たのか。

【南】

- ・教員で、本日も山形県よりお越しいただいた。

【日弁委員長】

- ・学校統廃合など、選ばれる高校づくりが大切になっていくであろう。学校の発信力が問われる時代であるので、高校の特徴や魅力を多様な手段で打ち出していくべきである。
- ・倫理的側面において、大学では何重ものチェックを受け稟議をかけなければ実践できない内容の研究を行っている班もあった。高校レベルなので容認されるというものでもない。生徒の研究の技術も上がってきている分、教員が研究手法をきちんと指導しなければリスクもある。

◆今後の研究開発の方向性について

【山崎】

- SSH申請が通らない場合には、予算規模は従来の3分の1程度まで縮小するが、研究の取り組みとしては引き続き同様の形で進めていきたい。

【第1回SSH課題研究コラボプロジェクト委員会 記録】

- 1 期 日 令和7年度7月10日(水) 15:30~17:00
- 2 会 場 福井県立高志高等学校 図書室第1閲覧室
- 3 出席者 SSHコラボプロジェクト委員 葛生 伸 委員 栗原 一嘉 委員  
西村 保三 委員 佐々木 隆 委員 遠藤 貴広 委員  
篠原 秀文 委員 向山 厚 委員 角田 智詞 委員  
松井 孝憲 委員 西岡 岳 委員 小菅 淳 委員  
高志高校 豊岡 義弘 青木 礼史 山田 繁(研究支援部)  
渡辺 尊則(数学科) 朝井 真理(生物科) 大田 知子(家庭科)
- 4 内容 (1) 本日の発表会について  
(2) 今年度のSSH研究開発実施計画について  
(3) 次期申請に向けて
- 5 指導・助言

◆本日の生徒研究活動発表会について(3年間の研究活動の総括)

【西村委員】

- 発表方法はこの形式は悪くない。ただし、口頭発表を2回同じグループではなく、他のグループも口頭発表で発表させてはどうか。なるべく多くのグループに発表の機会を与えるべきである。家庭科のグループで「研究」になっているのか、というグループがある。目的と活動がリンクしていない。目的が大きすぎる場合(アフリカの貧困の解決など)は特に注意が必要である。

【小菅委員】

- ポスターの文字の大きさ、データのとり方、示し方など、「研究の基礎」をしっかり指導するべきではないか。発表の仕方も同様である。

【葛生委員】

- 結果を見て、整合性の取れる目的にしてもいいのではないか。感覚から結論、ということもあり。定量的なことなどをしっかり示す、細かいことなどもしっかり示し、聞き手に配慮した発表を目指すべきである。

【松井委員】

- 大きすぎる問題から現実的にできることにシフトした発表もあってよかった。グラフの説明について、口頭では説明しているが、図に示されていないので、そこまでしっかり充実させるべきである。

【西岡委員】

- 同じ結果でも、目的などをしっかり研究内容に合わせればよい研究になるものもあった。問題設定のやり直しもあり。どこまで目指すのか、というのも難しいところではある。口頭発表とポスター発表をどう振り分けているのか気になった。

【栗原委員】

- 2年次より完成度が上がっていた。もう少し研究を続ければよい研究になるものがあったので、先輩と連携して引き継がせるべきではないか。発表環境はかなりよくなっている。体育館と比べて、各部屋でポスター発表をしているせいか、全体の発表レベルや傾向は掴みにくかった。研究発表や研究テーマが進路にどう影響しているのかが気になった。大学やその先にまで関係しているかもしれないので、追跡調査は難しいかもしれないが、なるべく追っていく方がよいのではないか。

#### 【遠藤委員】

- ・2年次にコメントしたことがよく発展していることがわかった。ポスター発表の文字数が増えてきているが、これは研究の中身がよくわかったのでよかった（文字の大きさについては好みがあるが）。コメントに対して、受け止め方がよくなかった班があったのが残念である。メモをとるなど、コメントに対する受け止め方まで指導すべきである。口頭発表について、先行研究についてもしっかりあたるべきではないか。

#### 【佐々木委員】

- ・データ量もそれなりに多く、限られた時間の中でしっかり研究しているように見受けられた。実験の方法など、よりしっかりした方法で研究した方がよいという印象も受けた。ポスター発表は、学会で行われているような方式の方がいいのではないか。

#### 【篠原委員】

- ・研究はしっかりしているものが多かった。しかし、対照実験がない研究が多かったのが残念である。発表のストーリーに、一連の流れがある発表にするべきである。ポスター発表は学会方式で出入り自由な形の方がよい。

#### 【向山委員】

- ・統計的な処理が甘い研究があった。データ量としてはかなりの量があったが、量が多すぎるものが多く、発表で示すものは絞っていくべきである。ポスター発表では、字が小さいことが気になったので、ポスターの枚数を増やすなども検討すべきではないか。

#### 【角田委員】

- ・評価シートがかなり改善されたおかげで、発表内容に集中できた。統計学的な処理がかなり甘いで、そこはしっかりと指導すべきである。

#### 【豊岡】

- ・口頭発表の選考は、他の学会などで発表していないチームを選ぶこともあった。
- ・この学年の研究は、先輩から引き継いで行った研究が多かった。
- ・評価シートについては、かなり改善されたという意見があった。その他、点数よりもコメントをしっかり書く欄が大きい方が参考になる。

#### 【西岡委員】

- ・ポスター発表については、グループが3人いるのであれば、各自で説明させればいいのではないか。

#### 【松井委員】

- ・ポスター発表の会場は図書室でもいいのではないか。

#### 【遠藤委員】

- ・ポスター発表は一つの会場に4つ程度の発表があると、他の発表が気にならない、ということもあるかもしれない。
- ・評価については、点数化するとなるとループリックがないと難しい。一方、ループリック評価は普段の研究でいかすべきで、このような発表の場であれば、コメントのみでもよい。

#### ◆今年度のSSH研究開発実施計画について、次期申請にむけて

#### 【栗原委員】

- ・他の高校だと、教員自体が卒論を書いていない場合があり、研究の方法がわかっていないことが多い。
- ・将来教員を目指す学生へのレベルアップのためにも、福井大学の教育学部の学生と、探究活動について何らかの連携ができないか。
- ・福井県内の諸大学との連携を深めていくべきではないか。
- ・学会での高校生の発表の機会ももっと増やしていくべきである。
- ・大学と連携して研究し、それを推薦入試にいかしていくことはできないか。

### 【葛生委員】

- ・先行研究をいかすという観点から、2年生と3年生を混ぜて研究を行うことはできないのか。最初から2年生と3年生が混在していれば継続性が出てくるのではないか。
- ・発表会だけでなく、日々の研究でも大学と連携していくべきではないか。（実験の測定など）

### 【小菅委員】

- ・上の学年が下の学年を教えるというのは、非常に刺激になるので可能であれば行うべきである。

## 【第2回SSH課題研究コラボプロジェクト委員会 記録】

1 期 日 令和8年2月6日（金）15：50～16：40

2 会 場 福井県立高志高等学校 図書室第1閲覧室

3 出席者 SSHコラボプロジェクト委員 栗原 一嘉 委員 佐々木 隆 委員  
西村 保三 委員 遠藤 貴広 委員 篠原 秀文 委員  
松井 孝憲 委員 角田 智詞 委員 西岡 岳 委員  
西出 和彦 委員 小菅 淳 委員 朝倉 遥 委員  
高志高校 青木 礼史 山川 優里 山田 繁 南 佑美 豊岡 義弘（研究支援部）  
桑原 佑輔（数学科）大田 知子（家庭科）

4 内容 （1）本日の発表会について  
（2）その他

5 指導・助言

### ◆本日の課題研究発表会について

#### 【西岡委員】

- ・発表の準備がしっかりできたように思う。数学分野でレベルが高い内容であったと感じたが、複数の仮説を吟味するとより研究が深まるのではないか。

#### 【朝倉委員】

- ・司会が進行や質問をしっかり回していた。グループ全員が発表の機会をもっていることがよかった。先行研究に触れていたが、それが自分の研究にどうつながっているのか、もっと意識した方がよい。

#### 【栗原委員】

- ・スライドの作り方や発表方法などはかなり進化していると感じる。理系に関しては実験が必ず行われおり、SSHらしさが出ていて、レベルが高い。このような経験が大学への接続という意味でも有意義である。県外への発表会へも積極的に参加して高志高校全体、そして福井県全体に広げていてもらいたい。

#### 【遠藤委員】

- ・中学生からの質問がよかった。質問が出ない時に司会者がしっかりフォローしていた。先行研究の位置づけが弱い。先行研究＝先輩の研究ではない。先行研究をどう乗り越えるのか、という視点が必要。仮説が一般的な内容ではあまり意味がない。

#### 【松井委員】

- ・発表が分かりやすく、社会的意義もしっかりと述べられていた。グラフを指しながら発表するなど、工夫がなされていた。生物のアクネ菌の採取方法などで研究レベルの工夫、安全性への対策と指導が必要。

#### 【西出委員】

- ・司会がうまく進行していた。質問を引き出したり、自ら質問をしていた。質問も研究を深めるもので有意義であった。仮説と検証の部分に齟齬がある（仮説が大きすぎる、など）ものがあつた。

#### 【佐々木委員】

- ・ポスター発表がない方がよいと考えている。司会がうまくディスカッションを引き出していた。課題があるグループもあつたが、おおむね頑張って研究していると感じた。

**【西村委員】**

- ・発表も質問もみんなよく頑張っていたと思う。発表スタイル、評価表も昨年度よりよくなっている。

**【角田委員】**

- ・昨年度の指摘がすべて反映されていて、発表を聞くことに集中できたのでよかった。

**【篠原委員】**

- ・研究の意義をしっかり発表していたのがよかった。仮説の立て方、発表スライドのわかりやすさ（誰が見てもよくわかるものに工夫する必要）には課題があった。

**【小菅委員】**

- ・多くの質問が出ていて雰囲気よかった。数学分野は発表の仕方が難しいと感じているので、今後の課題である。物理分野では数字の扱い方の指導をしっかりとしてほしい。要旨を誰が読んでもわかりやすいものにする必要がある。
- ・生成 AI との関わり方について、もっと検討していく必要があるのではないか。

**【豊岡】**

- ・プレゼン資料を作るもしくはデータを可視化するところでの活用などが大事であると考えている。

**【栗原委員】**

- ・探究活動の実績と進学実績との兼ね合いについて、どのように考えているか。

**【青木】**

- ・基礎的な部分をしっかり授業でつけた上で、探究活動をすることが大事である。このような探究活動を充実させることで、高校の内容を少し超える力がついていくのではないかと考えている。

**【栗原委員】**

- ・学力が身につけていない生徒に対して、どのような探究活動のあり方が適切か、考えていく必要がある。

**【青木】**

- ・授業の中よりも探究活動の方が、能力差を埋めるということもあるように感じている。

**【栗原委員】**

- ・高志高校での探究活動のノウハウを、福井県内の他の高校へも広げてほしい。



令和7年度 第1学年 3か年間教育課程案

整理番号 (2-2)

全日第3表

福井県立高志高等学校 (全日制課程)  
人文創造科 (探究創造科) (内訳進学)

各教科	科目	学年	標準単位数	探究創造科 (内訳進学)					計	人文創造科 (内訳進学)					計
				1	2	3	前期	後期		1	2	3	前期	後期	
国 語	現代文	1	2	2					2	2					2
	現代文	2	2						2	2					2
	現代文	3		2	2			4			2				4
	現代文	4									2		1		3
	古文	1											1		1
	古文	2											1		1
	古文	3													
	古文	4													
	古文	1													
	古文	2													
地 理 歴 史	地理	1	2						2	2					2
	地理	2	2						0.4		3				0.3
	地理	3	2						2						2
	地理	4							0.4						0.3
	歴史	1	2						2						2
	歴史	2	2						2						2
	歴史	3	2						0.4						0.3
	歴史	4													
	歴史	1													
	歴史	2													
公 民	公民	1	2												
	公民	2	2												
	公民	3													
	公民	4													
	公民	1													
	公民	2													
	公民	3													
	公民	4													
	公民	1													
	公民	2													
数 学 (増設)	数学	1	3												
	数学	2	3												
	数学	3	3												
	数学	4	2												
	数学	1	2												
	数学	2	2												
	数学	3	2												
	数学	4	2												
	数学	1	2												
	数学	2	2												
理 科 (増設)	物理	1	2												
	物理	2	2												
	物理	3	2												
	物理	4	2												
	化学	1	2												
	化学	2	2												
	化学	3	2												
	化学	4	2												
	生物	1	2												
	生物	2	2												
保 健 育 児	保健	1	2												
	保健	2	2												
	保健	3	2												
	保健	4	2												
	保健	1	2												
	保健	2	2												
	保健	3	2												
	保健	4	2												
	保健	1	2												
	保健	2	2												
英 語	英語	1	2												
	英語	2	2												
	英語	3	2												
	英語	4	2												
	英語	1	2												
	英語	2	2												
	英語	3	2												
	英語	4	2												
	英語	1	2												
	英語	2	2												
外 国 語 (英 語)	英語	1	3												
	英語	2	4												
	英語	3	2												
	英語	4	2												
	英語	1	2												
	英語	2	2												
	英語	3	2												
	英語	4	2												
	英語	1	2												
	英語	2	2												
家 庭 情 報	家庭	1	2												
	家庭	2	2												
	家庭	3	2												
	家庭	4	2												
	情報	1	2												
	情報	2	2												
	情報	3	2												
	情報	4	2												
	情報	1	2												
	情報	2	2												
専 門 科 目 計	専攻	1	2												
	専攻	2	2												
	専攻	3	2												
	専攻	4	2												
	専攻	1	2												
	専攻	2	2												
	専攻	3	2												
	専攻	4	2												
	専攻	1	2												
	専攻	2	2												
小 計			12	19	12-13-14	4	2-4	51-52-53-54-55	12	11-13	8-9-10-11-12-13-14			33-34-35-36-37-38-39	
ホームルーム活動			1	1				3	1	1	1			3	
総合的な探究の時間			3-6												
自立活動															
合 計			33	33		33		99	33	33	33			99	
備 考	<p>☆は、学校設定教科・学校設定科目 *は、SSHに係る学校設定教科・科目。 (専攻は、専門科目に係る科目)</p> <p>内訳進学学生については、「数学Ⅰ(一部)」、「物理Ⅰ(一部)」、「化学Ⅰ(一部)」を中学校第3学年で履修済みである。</p> <p>①「数学Ⅰ」を「物理Ⅰ」で、「英語コミュニケーションⅠ」を「総合英語Ⅰ」で、増設に係る選択必修科目を「物理Ⅰ」で代替する。 ②「情報Ⅰ」(1単位分)を学校設定科目「KcA-1/Ⅱ」で代替する。 ③「総合的な探究の時間」(3単位)を「物理Ⅰ」で代替し、それらをそれぞれ学校設定科目「KcA-1」(2単位)、「KcA-Ⅱ/Ⅲ」(計3単位)で代替する。 ④専門科目「ディベート・ディスカッションⅠ」を学校設定科目「英語活用PT」(2単位)で代替する。 ⑤「地理Ⅰ」については、2年次に選択した科目を3年次も継続して履修する。 ⑥□▽○はそれぞれ選択科目、▽○からそれぞれ2単位、◇○からそれぞれ1単位を選択する。 ⑦「物理Ⅰ」「物理Ⅱ」は、2-3年次に同じ科目を継続して履修する。 ⑧3年次後期に▽○の選択で、学校設定科目「物理Ⅰ」・「演習化学」・「演習生物」を選択する場合は、前期に履修した「物理Ⅰ」科目と同じ小科目の科目を継続して履修する。 ⑨「数学Ⅰ」を「物理Ⅰ」で、「英語コミュニケーションⅠ」を「総合英語Ⅰ」で、増設に係る選択必修科目を「物理Ⅰ」で代替する。 ⑩「情報Ⅰ」(1単位分)を学校設定科目「KcA-1/Ⅱ」で代替する。 ⑪「総合的な探究の時間」(3単位)のうち1学年次は「物理Ⅰ」で代替し、それを学校設定科目「KcA-1」(2単位)で、2,3年次は学校設定科目「KcA-Ⅱ/Ⅲ」(計3単位)で代替する。 ⑫専門科目「ディベート・ディスカッションⅠ」を学校設定科目「英語活用PT」(2単位)で代替する。 ⑬「地理Ⅰ」については、2年次に「地理Ⅰ」「日本史探究」「世界史探究」から2科目を選択し、3年次に継続の学校設定科目を継続して履修する。 ⑭△◇□▽○は、それぞれ選択科目、△◇から3単位、□▽○から2単位を選択する。 ⑮「解説世界史」、「解説日本史」、「解説地理」については、同一科目を7単位選択することはできない。 ⑯理科(増設)の学校設定科目「物理Ⅰ」・「演習化学」・「演習生物」・「演習物理」を選択する場合は、2年次までに履修した「物理Ⅰ」または「基礎」が同じ科目と同じ小科目の科目を履修する。</p>														







令和7年度 第3学年 3か年間教育課程案

整理番号  
(2-2)

全日第3表  
福井県立富志高等学校(全日制課程)  
人文創造科(探究創造科)(内部進学)

各教科	科目	学年	理数創造科(探究創造科)(内部進学)					人文創造科(探究創造科)(内部進学)				
			標準単位	1	2	3	計	1	2	3	計	
国語	現代文	1	2				2	2			2	
	現代文	2	2				2	2			2	
	読書	3										
	読書	4		2			4		2			
	読書	4								1		
	読書	4									1	
	読書	4		2			4		2			
	読書	4									1	
	読書	4									1	
	読書	4									1	
地理歴史	地理	1	2				2	2				
	地理	2	2				2	2				
	地理	3										
	地理	3		2			2		3			
	地理	3		2			2		3			
	地理	3		2			2		3			
	地理	3										
	地理	3										
	地理	3										
	地理	3										
公民	公民	1										
	公民	2		2			2		2			
	公民	2										
	公民	2										
	公民	2										
	公民	2										
	公民	2										
	公民	2										
	公民	2										
	公民	2										
数学(理数)	数学	1										
	数学	2										
	数学	3										
	数学	3										
	数学	3										
	数学	3										
	数学	3										
	数学	3										
	数学	3										
	数学	3										
理科(理数)	理科	1										
	理科	2										
	理科	2										
	理科	2										
	理科	2										
	理科	2										
	理科	2										
	理科	2										
	理科	2										
	理科	2										
保健体育	保健	1	2				2	2				
	保健	2	2				2	2				
	保健	2										
	保健	2										
	保健	2										
	保健	2										
	保健	2										
	保健	2										
	保健	2										
	保健	2										
芸術	芸術	1										
	芸術	2										
	芸術	2										
	芸術	2										
	芸術	2										
	芸術	2										
	芸術	2										
	芸術	2										
	芸術	2										
	芸術	2										
外国語(英語)	英語	1										
	英語	2										
	英語	2										
	英語	2										
	英語	2										
	英語	2										
	英語	2										
	英語	2										
	英語	2										
	英語	2										
家庭	家庭	1										
	家庭	2										
	家庭	2										
	家庭	2										
	家庭	2										
	家庭	2										
	家庭	2										
	家庭	2										
	家庭	2										
	家庭	2										
情報	情報	1										
	情報	2										
	情報	2										
	情報	2										
	情報	2										
	情報	2										
	情報	2										
	情報	2										
	情報	2										
	情報	2										
*サイエンスフロンティア	サイエンス	1										
	サイエンス	2										
	サイエンス	2										
	サイエンス	2										
	サイエンス	2										
	サイエンス	2										
	サイエンス	2										
	サイエンス	2										
	サイエンス	2										
	サイエンス	2										
合計		33	33	33	33	99	33	33	33	99		

☆は、学校設定教科・学校設定科目  
\*は、SSHに係る学校設定教科・科目  
(※)は、専門科目に係る科目  
内部進学学生については、「理数数学1(一部)」、「理数生物(一部)」を中学校第3学年で履修済みである。

・「数学1」を「理数数学1」で、「英語コミュニケーション1」を「総合英語1」で、理科に係る選択必修科目を「理数物理」「理数生物」で代替する。  
・「情報1」(1単位分)を学校設定科目「KoA-1/II」で代替する。  
・「総合的な探究の時間」(3単位)を「理数探究基礎」「理数探究」に代替し、それらを学校設定科目「KoA-1」(2単位)、「KoA-II/III」(計3単位)で代替する。  
・専門科目「ディベート・ディスカッション1」を学校設定科目「英語活用PT」(2単位)で代替する。  
・地理歴史については、2年次に選択した科目を3年次も継続して履修する。  
・「理数物理」「理数生物」は、2・3年次に同じ科目を継続して履修する。  
・3年後期にて○の選択で、学校設定科目「演習物理(α)」「演習化学(α)」「演習生物(α)」を選択する場合は、前期に履修した「理数」科目と同じ小科目の科目を継続して履修する。

・「数学1」を「理数数学1」で、「英語コミュニケーション1」を「総合英語1」で、理科に係る選択必修科目を「理数物理」「理数生物」で代替する。  
・「情報1」(1単位分)を学校設定科目「KoA-1/II」で代替する。  
・「総合的な探究の時間」(3単位)のうち1学年次は「理数探究基礎」に代替し、それを学校設定科目「KoA-1」(2単位)で、2・3年次は学校設定科目「KoA-II/III」(計3単位)で代替する。  
・専門科目「ディベート・ディスカッション1」を学校設定科目「英語活用PT」(2単位)で代替する。  
・地理歴史については、2年次に「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」から2科目を選択し、3年次も同じ系統の学校設定科目を継続して履修する。  
・△○□▽◇は、それぞれ選択科目群。△から6単位、○からそれぞれ3単位、▽◇から2単位を選択する。ただし芸術は□から3単位選択することはできない。  
・「解説世界史」、「解説日本史」、「解説地理」については、同一科目を7単位選択することはできない。  
・理科(理数)の学校設定科目「演習物理基礎」「演習化学基礎」「演習生物基礎」「演習地学基礎」を選択する場合、2年次までに履修した「理数」または「基礎」が何れ科目と同じ小科目の科目を履修する。